

茨城県央地域の維管束植物

茨城維管束植物調査会

概 説

今回の調査は、茨城県央地域について進められた。調査地域の山地は、筑波山塊の北部に当たる加波山(709 m)、雨引山(409 m)と、その東側に位置する吾国山(518 m)、難台山(553 m)、愛宕山(306 m)など、さらに栃木県より鶏足山(431 m)、花香月山(378 m)を主体とする鶏足山塊と御前山(186 m)周辺の山地、そして、笠間市に存在する仏頂山(431 m)、佐白山(209 m)などである。また、海岸部は前回の第1次総合調査で維管束植物について実施できなかったため、第1次と第2次の地域をまとめて実施した。調査地域は、茨城県南端の波崎町からひたちなか市磯崎海岸までである。湖沼については湖沼を調査した。今回の地域には山地があり、丘陵地があり、台地があり、沖積低地があり、湖沼があり、海岸線があるので、一般的には茨城県の植物相を概観できる地域と言える。

山地及び丘陵地の調査については、季節毎に現場に赴き、調査者自身が幾つかあるコースを歩きながら植物を記録した。また、代表的な森林、草原などを適宜、方形区を作り、植物群落を記録した。従って、報告書は調査対象地域の山地毎に記載されている。調査した山地は次の通りである。

- 1) 加波山・雨引山
- 2) 吾国山・難台山・愛宕山
- 3) 仏頂山・佐白山
- 4) 鶏足山・御前山

沖積低地、湖沼及び海岸線は46カ所の定点を定め、その周辺を中心に調査し、また、太平洋に近い、照葉樹林についても調査し、文献と比較検討した。茨城の海岸も漁港等のコンクリート護岸や工業地区等の造成地が多く、以前、自然植生として記載された景観とは、趣を異にしている。今回調査された地域が、今後さらに、どのように開発されて変貌するのか、或いは自然が保護され、昔の海岸植生が復活するのか、計り知れないことではあるが、20世紀最後の植生の現状を記録した点では貴重な資料になるであろうと期待する。

植生から今回の調査域を見ると、いわゆるヤブツバキ域で海岸線の社寺林に見られるようにスダジイ、タブノキ、カシ類、そしてヤブツバキ、ヒサカキ、シロ

ダモ、テイカカズラなどで特徴づけられる自然植生である。ところが標高500 m 付近まで上ると、一部、残存している自然林には、ブナ、ミズナラ、コシアブラ、タカノツメ、イタヤカエデ、オオモミジなどのカエデ類が現れ出し、林床にはカタクリ、キクザキイチゲ、アズマイチゲ、ニリンソウ、エンレイソウ、ハルトラノオ、ユリワサビなどの草本が見られ、標高が高くなるに従って、夏緑樹林へと移り変わっていることがわかる。加波山・吾国山などの山頂がこれにあたる。これらの山は約500 m 以下から山麓にかけては、クヌギ、コナラ、クリ、アカシデ、イヌシデ、エノキ、ウワミズザクラなどからなる二次林やスギ・ヒノキの植林が各地に多く存在する。

難台山は尾根伝いに山路があり、山頂は草原になっているので、高木層が見られないが、残された斜面にはブナが生育しており、冷温帯の森林であったであろうと推測できる。北斜面にはスズランの自生地がある。

御前山は江戸時代、水戸藩の御立山として、山林の伐採が禁じられており、その後国有林として管理されていたので、スダジイ、アラカシ、シラカシ、ウラジロガシ、サカキ、リンボク、クロガネモチなどの常緑広葉樹の生育する山として、現在に至っている。

佐白山も昔から佐志能神社があり、国有林として管理されているので、現在でも一部スダジイ、タブノキ、アカガシ、ツクバネガシ、ヤブツバキ、サカキ、シキミ、ヒトツバ、ウラジロなどの生育する照葉樹林が保たれている。他はスギ・ヒノキの植林である。

仏頂山には楞嚴寺があり、その裏山は国指定天然記念物のヒメハルゼミの発生地としても知られているが、山の中腹までスダジイ、シラカシ、アラカシ、ツクバネガシ、カゴノキ、ヤブツバキ、クロガネモチ、ヒイラギ、ヤブニッケイ、キジョラン、ムベ、イズセンリョウなどが見られる。山の大半はスギ・ヒノキの植林となっているが、一部の自然植生から仏頂山もまた、常緑広葉樹の生育する山であることがわかる。

岩間町の愛宕山は観光開発で人工的な公園と化し、自然植生と見られる森林は愛宕神社の周辺だけとなっているが、ここには、スダジイ、アラカシ、シラカシなどの大木が残り、暖温帯林の様相を呈している。

鶏足山の山麓はコナラ、アカシデ、リョウブなどの

二次林と、沢沿いにスギ・ヒノキの植林があり、中腹より上にはアカマツ林がある。早春、沢沿いにはダンコウバイ、アズマイチゲ、カタクリ、ニリンソウ、イチリンソウなども見られ、冷温帯林の様相が見られる。花香月山もまた、同じ様な植生である。

茨城の海岸に生育する植物は1939年、齋藤卯内氏によってその分布状況が報告されて以来、多くの研究者によって調査されている。日本列島沿岸を流れる黒潮と親潮が鹿島灘沖において激合する所では、その影響で、寒地性の植物が南下し、また、暖地性の植物が北上して、茨城の海岸で分布が止まることが知られている。今回の調査もこのような植物について、観察が進められた。ひたちなか市磯崎海岸では、エゾオオバコ、コハマギク、ハマギク、マルバトウキなどの寒地性植物の生育していることが確認された。この生育地が南限であろう。

参考文献

- 安見珠子. 1964. 佐白山のシダ植物. フロラ茨城, 26.
 安見珠子. 1981. 佐白山・吾国山の植物. 茨城の生物第2集. pp. 136-138, 茨城県高等学校教育研究会生物部.
 古橋 明. 1972. 茨城県産ヤマノイモ属の分類. フロラ茨城, 55: 3.
 後藤直和. 1975. 筑波山系の種子植物. 茨城の生物第1集. pp. 74-83, 茨城県高等学校研究会生物部.
 長谷川国雄. 1953. 難台山を行く. 茨城博物同好会誌, 15.
 小泉源一. 1937. ナンダイミヤコザサ *Sasa nandaiensis* Koidz. 植物分類地理, 6: 76.
 久保欣一. 1975. 鶏足山塊南西部の植物と自然保護. 茨城の生物第1集. pp. 57-60, 茨城県高等学校教育研究会生物部.
 倉本嗣王. 1974. 筑波山系周辺・水戸線周辺のシダ植物. 植物と自然, 10(3): 24-28.
 野口達也. 1973. キシュウナキリスゲ茨城に産す. フロラ茨城, 65-66.
 野原幸之助. 1973. 鹿島地方の植物. 茨城生物, 1.
 小倉洋志. 1970. 鶏足山及びその近辺の植物相. フロラ茨城, 55: 2-3.
 奥山春季. 1974. 日本植物ハンドブック. 785 pp., 八坂書房.
 大山保夫. 1976. 勝田市のヒメザゼンソウの分布について. 茨城生物, 4.
 齋藤卯内. 1939. 茨城・千葉・福島に於ける主な海浜

- 植物の分布. 茨城博物同好会誌, 12: 10-17.
 齋藤卯内. 1964. 佐白山塊に自生するジュズネノキ. フロラ茨城, 25: 2-3.
 佐藤正己・鈴木昌友. 1959. 霞ヶ浦の水生植物. 霞ヶ浦・北浦地域総合調査報告書第1集.
 佐藤達夫. 1951. 常陸国西茨城郡笠間町城山所産植物目録.
 佐藤達夫. 1965. 御前山・八溝山紀行. フロラ茨城, 15.
 鈴木昌友. 1954. 本県で採集された基準標本. 茨城博物同好会誌, 18: 27-29.
 鈴木昌友. 1962. 霞ヶ浦のヒルムシロ属植物. 霞ヶ浦・北浦地域総合調査報告書第3集.
 鈴木昌友. 1973. 茨城県のフローラ. 植物と自然, 7(7): 17-22.
 鈴木昌友・安見珠子. 1964. 仏頂山のシダ植物. フロラ茨城, 23: 2-3.
 鈴木昌友・清水 修・安見珠子・安 昌美・藤田弘道・中崎保洋・和田尚幸・野口達也. 1981. 茨城県植物誌. 339 pp., 茨城県植物誌刊行会.
 鈴木 靖. 1901. 常陸潮来付近産植物. 植物学雑誌, 15.
 武田久子. 1974. 磯崎でもコハマギクを見る. フロラ茨城, 62.
 棚谷満広. 1974. 鹿島地方のホトトギス属の分布. フロラ茨城, 62.
 田代善太郎. 1943. 日本本土に於ける暖地性植物の分布考察. 植物分類地理, 13.
 鶴町 猷. 1931. 茨城県産植物目録高等植物之部.
 鶴町 猷. 1933. 茨城県郷土研究植物.
 安 弘道. 1971. 勝田市の北方系植物. フロラ茨城52-53.
 安 昌美. 1976. 茨城県の植物分布. 日本植物分類学会誌, 3(5): 142.

調査研究

- 安嶋 隆 (茨城県立太田第一高等学校教諭)
 安見珠子 (笠間市立佐城小学校教頭)
 安見迪生 (元笠間市立南小学校校長)
 内山治男 (大成女子高等学校教諭)
 小沼信行 (小川町立下吉影小学校教諭)
 倉本嗣王 (元茨城県高等学校教育研究会生物部長, 理学博士)
 五木田悦郎 (元茨城県立水海道第一高等学校教諭)
 鈴木昌友 (茨城大学名誉教授 理学博士)
 須田直之 (元茨城県高等学校教育研究会生物部長)

高田和男 (元茨城県立取手第一高等学校教諭)

棚谷満広 (元茨城県立鉾田第一高等学校教諭)

成島 明 (茨城県立伊奈高等学校教諭)

野原幸之助 (元北浦村立北浦中学校長)

丸山友一 (茨城大学教育学部附属小学校教諭)

安 昌美 (茨城県立水戸南高等学校長)

執筆

鈴木昌友

加波山・雨引山の維管束植物

はじめに

加波山・雨引山は、筑波山から北に足尾山を経て、丸山・加波山・燕山・雨引山へ続く筑波山塊の中央部に位置する山域である。

加波山は、標高709 mの高さをもち、山体は主として黒雲母花崗岩からなり、露出した大小の岩石が目につく。南西部の真壁町側は、山腹まで石材の採掘が行われ、遠くから見ると至る所白い地肌が現れている。また、頂上付近に加波山神社の奥宮や拝殿が祭られ、古くから信仰の対象となっている。そのため、頂上付近は神社の加護によって自然が保護されてきた。

雨引山は標高392 mで、加波山から燕山を経て、次第に高さを下げながら連なる山塊の一部である。この尾根沿いに関東ふれあいの道が筑波山に向かってのび、季節によってハイキング客でにぎわう。また、山腹に雨引観音の名で知られる雨引山薬法寺が祭られ、加波山同様自然が保護されている。

この地域の植物については、茨城大学教育学部生物学教室や茨城県植物誌刊行会などによって、1950年代より加波山を中心に調査が行われ、植物目録などが作成されている。しかし、雨引山については、薬法寺付近を中心に断片的には調査報告されているが、まとまった調査は行われていない。

調査方法

1. 調査地の選定

調査地は、図1に示した範囲とした。北側は雨引山の登山道、南側は真壁町桜坊から一本杉峠を経て、八郷町大塚に至る林道、東側は標高100 m～200 mの山麓、西側は標高100 m～200 mの山麓の範囲である。

2. 調査期間

(1) 平成9年度は予備調査と文献調査を行った。予備調査は7月～10月に延べ9回行った。

7月 20日	真壁町加波山南側
8月 6日	八郷町加波山東側 大和村燕山 真壁町加波山頂
8月 11日	大和村大曾根 大和村燕山北西
8月 15日	真壁町加波山西側 大和村加波山頂

8月 23日	真壁町加波山神社 八郷町加波山東側 八郷町大塚
8月 30日	大和村大曾根 真壁町雨引山西側 大和村雨引山南側
9月 14日	真壁町加波山西側 真壁町加波山南側 八郷町加波山東側 真壁町加波山神社 大和村加波山頂
10月 5日	大和村大曾根
10月 11日	八郷町加波山東側 大和村加波山頂 大和村燕山 真壁町加波山南側 真壁町加波山神社

(2) 平成10年度は3月～9月に延べ9回の本調査を行った。

3月 28日	八郷町大塚 真壁町長岡 大和村大曾根
4月 11日	大和村村木 大和村大曾根 真壁町長岡 八郷町大塚
4月 29日	真壁町長岡 大和村大曾根 八郷町大塚
5月 9日	真壁町長岡 大和村大曾根 八郷町大塚
5月 23日	大和村大曾根 八郷町大塚
6月 13日	八郷町大塚 真壁町長岡
6月 27日	大和村大曾根 真壁町長岡
7月 11日	大和村村木 大和村大曾根 真壁町長岡 八郷町大塚
9月 12日	大和村大曾根 真壁町長岡

(3) 平成11年度は3月～11月に延べ12回の本調査を行

った。

4月 4日 真壁町長岡
 4月 11日 大和村本木
 5月 2日 大和村本木
 真壁町長岡
 5月 8日 真壁町長岡
 八郷町大塚
 5月 23日 真壁町長岡
 大和村大曾根
 6月 9日 八郷町大塚
 6月 26日 大和村大曾根
 大和村本木
 7月 29日 八郷町大塚
 8月 29日 真壁町長岡
 9月 29日 大和村本木
 八郷町大塚
 真壁町長岡
 10月 1日 真壁町長岡

八郷町大塚
 大和村大曾根
 11月 2日 八郷町大塚

3. 調査項目

維管束植物（シダ植物，種子植物）を対象として，植物相と植生の概要の調査を行った。調査項目は次の通りである。

- (1) 本調査地に生育する全植物の確認と記録。
- (2) 本調査地の植生の概要。
- (3) 生育する植物の採集と標本の作成（原則として花・実が付いている個体を採集，1種の植物につき，2～4点作成）。採集及び確認した植物の目録は付表1に示した。なお，付表1に示した種数は次の通りである。
 - ・確認種 637種
 - ・文献種 153種
- (4) 写真の撮影（採集した主な植物とその生育状況がわかる写真を撮影）。

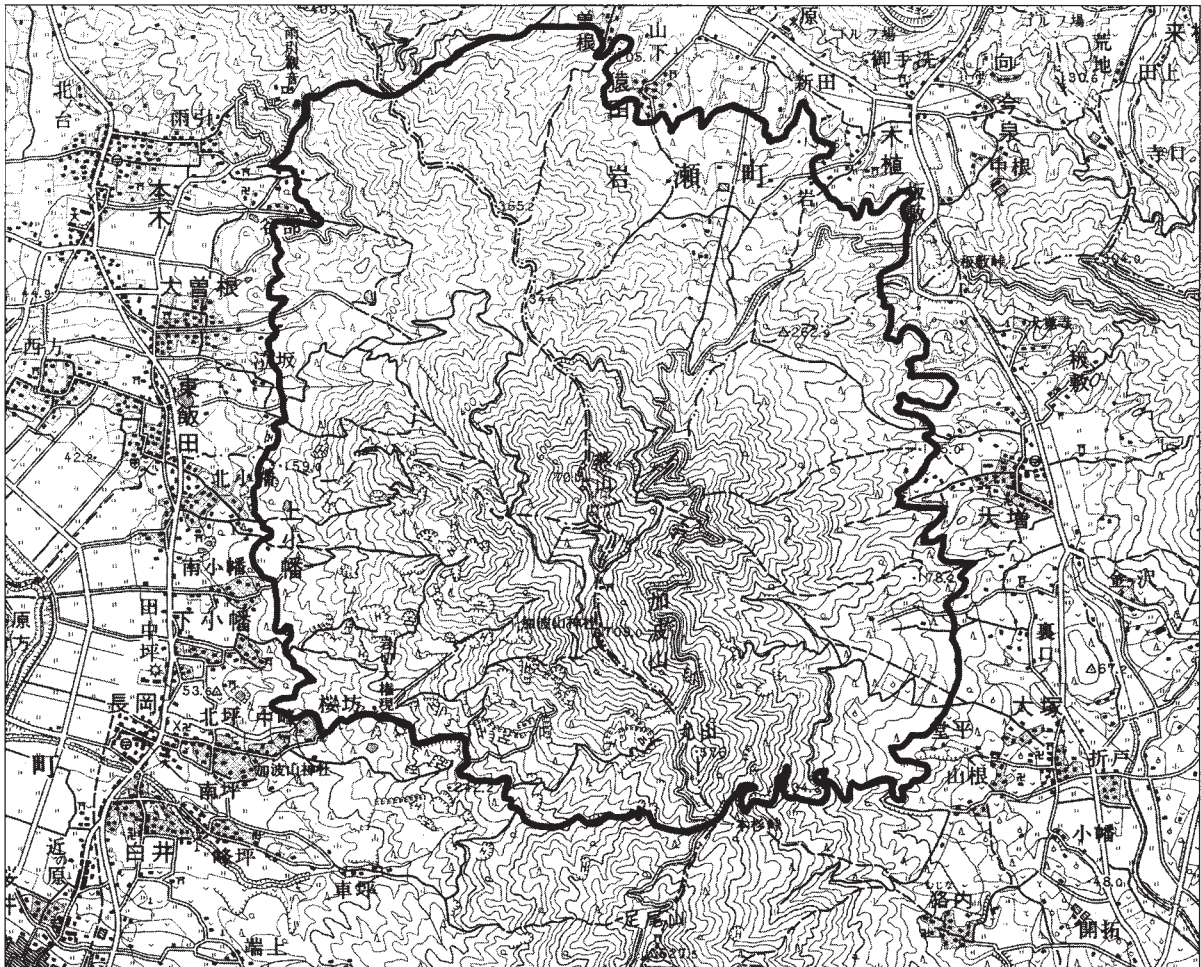


図1. 調査地（国土地理院発行 1: 50,000地形図「真壁」を使用）。

結果

1. 植生の概況

加波山西側（真壁町側）一帯は、乾いた尾根筋にアカマツ林が多い。沢沿いの地には、スギやヒノキが植林されている。また、所々大小の岩が点在し、そこには、ヤマザクラやイロハモミジなどを主とした落葉樹林も見られる。頂上付近は、アカシデ、ミズナラ、クマシデ、イヌブナ、ブナなどの落葉樹林が見られる。一部には、アカガシも混生している。

東側（八郷町側）一帯は至る所、スギやヒノキが植林され、下草にリョウメンシダが目立つ。

燕山頂上付近は、イヌシデ、オオモミジ、クマシデ、リョウブ、ヤマボウシなどの落葉広葉樹林が見られる。燕山から雨引山に至るハイキング道には、沢筋にヒノキ、スギなどが植林されている。その中に、所々ヤマザクラ、コナラなどの落葉樹にアカマツが混じった林が見られる。また、雨引観音の上部は、スギが植林されているが、所々にスダジイやシラカシを主とした常緑樹林も見られる。

2. 各植生について

(1) スギ林

スギの植林は、最大の面積を占める。特に八郷町側のやや湿り気のある沢沿いの斜面に植林されている。林床は、ヒノキ林に比べて明るいため、植生は豊富である。具体的には次のようである。

① 八郷町大塚 標高300 m

調査日 平成11年6月9日

高木層（植被率90%）

スギ（胸高直径32 cm）

低木層（植被率20%）

モミジイチゴ（優占種）、アオキ（優占種）、エゴノキ、クロモジ、アズマネザサ、タマアジサイ、サンショウ、ムラサキシキブ、ヤマウルシ、ウワミズザクラ、ツタウルシ、タラノキ、ヤマブキ、サルナシ、ミツバアケビ、サンカクヅル、ヒサカキ、ヤマアジサイ

草本層（植被率80%）

リョウメンシダ（優占種）、ジュウモンジシダ（優占種）、ベニシダ、ホソバナライシダ、ミゾシダ、ヤブソテツ、ヤマイヌワラビ、イヌガンソク、イワガネソウ、オクマワラビ、イヌワラビ、ハリガネワラビ、キバナアキギリ、ホドイモ、アマチャヅル、ミズヒキ、オニドコロ、ヤマブキショウマ、ハウチャクソク、ドクダミ、ナガバノスミレサイシン、ミツバ、コアカソ、ヤブマオ、ウワバミソウ、コバギボウシ、マルバノホ

ロシ、ミツバアケビ

② 八郷町大塚 標高350 m

調査日 平成11年6月9日

高木層（植被率90%）

スギ（胸高直径50 cm）

亜高木層（植被率20%）

シラカシ、チドリノキ、アワブキ

低木層（植被率30%）

アオキ（優占種）、タマアジサイ、ヤブツバキ、ミズキ、ホオノキ、シラカシ、クロモジ、エゴノキ

草本層（植被率40%）

ヤマイヌワラビ、ミゾシダ、ベニシダ、ジュウモンジシダ、リョウメンシダ、ホソバシケシダ、トリアシショウマ、カメバヒキオコシ、ハウチャクソウ、ナルコユリ、キバナアキギリ、ミヤマカタバミ、カンスゲ、イワタバコ、アオキ、ウラシマソウ、ミズヒキ、タマブキ、ツクバトリカブト、ウリノキ、ウワバミソウ

③ 八郷町大塚 標高300 m

調査日 平成11年7月29日

高木層（植被率80%）

スギ（優占種、胸高直径45 cm）、ホオノキ、アカメガシワ、ミズキ

亜高木層（植被率10%）

オオバアサガラ

低木層（植被率20%）

アオキ、タマアジサイ、ヒサカキ、シキミ、クロモジ、ヤブムラサキ

草本層（植被率40%）

ジュウモンジシダ、ヤマイヌワラビ、ゼンマイ、ヤマイタチシダ、ベニシダ、ミゾシダ、アズマネザサ、ミヤマカンスゲ、カンスゲ、ミヤマナルコユリ、ミヤマカタバミ、キバナアキギリ、ヤブコウジ、ヤマジノホトトギス、キツタ

④ 八郷町大塚 標高500 m

調査日 平成11年9月29日

高木層（植被率80%）

スギ（胸高直径90 cm）、カヤ、イタヤカエデ、イヌシデ、アカガシ、ヤマザクラ、ミズナラ

亜高木層（植被率30%）

ヤブツバキ、ホオノキ、ヒサカキ

低木層（植被率30%）

ウリノキ、ミヤマシキミ、ヤマアジサイ、アオキ、

チドリノキ、イヌガヤ、タマアジサイ、ニガイチゴ、シキミ、サンショウ、ツルアジサイ、サルナシ、キツタ

草本層（植被率30%）

ベニシダ、ジュウモンジシダ、ミヤマクマワラビ、ミヤマイトチシダ、イワシロイノデ、スズタケ、ハルトラノオ、オオバジャノヒゲ、ジャコウソウ、キバナアキギリ、チヂミザサ、コアカソ、ミヤマカンスゲ、タチツボスミレ、サラシナショウマ、タマブキ、アズマヤマアザミ、ウワバミソウ、ウマノミツバ、ヤブコウジ、チゴユリ、テイカカズラ、ミツバアケビ、ツルマサキ

(2) スダジイ・シラカシ林

加波山や雨引山麓の自然植生は、スダジイやカシ林と考えられるが、現在は雨引山薬法寺の境内などにわずかに残されているのみで、大部分スギが植林されている。その中で登山道に沿って、スギと混じってスダジイやカシ類の林が見られる。

① 大和村雨引山 標高200m

調査日 平成11年6月26日

高木層（植被率90%）

スダジイ（優占種、胸高直径80 cm）、シラカシ、コナラ、クヌギ、ヤマザクラ

低木層（植被率10%）

ヒサカキ、スダジイ、アオキ、ムラサキシキブ、ミツバアケビ、フジ

草本層（植被率40%）

イヌワラビ、クマワラビ、ゼンマイ、リョウメンシダ、ベニシダ、イノデ、ホソバナライシダ、ミゾシダ、アズマネザサ、シンミズヒキ、チゴユリ、キツタ、タチツボスミレ、チヂミザサ、オニドコロ、アマチャヅル、ドクダミ、ヌスビトハギ、ヤイトバナ、ヤブコウジ、ツユクサ、マルバノホロシ、ツタウルシ、ムラサキニガナ、コゴメウツギ、コバノガマズミ

(3) アカマツ林

真壁町や大和村側のやや乾燥した尾根筋に多く、標高約400m前後まで広がっている。

① 真壁町長岡 標高200m

調査日 平成11年5月8日

高木層（植被率70%）

アカマツ（胸高直径30 cm）

低木層（植被率40%）

ヒサカキ、ヤマツツジ、ウワミズザクラ、コバノガマズミ、ヤマウルシ、クロモジ、カキノキ、コナラ、リョウブ、シラカシ、コアジサイ、フジ、ウリカエデ、コゴメウツギ、ケアオダモ、ネジキ、ムラサキシキブ、ヤマコウバシ、エゴノキ、ミツバアケビ、ゴンズイ、ツルグミ、ヤマボウシ、アオハダ、タラノキ、サルナシ

草本層（植被率50%）

チゴユリ（優占種）、ヤワラシダ、ゼンマイ、ヤマイトチシダ、ベニシダ、ワラビ、アマチャヅル、ヤブコウジ、サルトリイバラ、アズマネザサ、トウギボウシ、ミヤマウズラ、シュンラン、フモトスミレ、ガンクビソウ、ノイバラ、ヤマカモジグサ、アキノキリンソウ、タガネソウ、オカトラノオ、ノヤマトンボ、オニタビラコ、スイカズラ、アカネ、ヤマユリ、アオツヅラフジ、タチドコロ、モミジイチゴ、シラヤマギク、マルバノホロシ、シラキ、アオキ、ヤマボウシ、シラカシ、ヤマウルシ、ミツバアケビ、ヒサカキ、マユミ、ウラジロノキ、ツクバネウツギ

② 真壁町長岡 標高400m

調査日 平成11年5月8日

高木層（植被率70%）

アカマツ（優占種、胸高直径40 cm）、ヤマザクラ、ケアオダモ

低木層（植被率30%）

ヤマツツジ（優占種）、ヒサカキ（優占種）、ネジキ（優占種）、ウリカエデ、エゴノキ、アカシデ、ヤマウルシ、クロモジ、ミツバアケビ、コナラ、ケカマツカ、コバノガマズミ

草本層（植被率40%）

チゴユリ（優占種）、ベニシダ、ヤマユリ、ササバギンラン、コウヤボウキ、ヒカゲスゲ、サルトリイバラ、ヤブコウジ、アキノキリンソウ、ミヤマウズラ、ナガバノコウヤボウキ、キツタ、ダイコンソウ、サジガンクビソウ、シュンラン、ウラジロノキ、ツクバネウツギ、アワブキ、ツルウメモドキ、イタヤカエデ、アカガシ、コアジサイ、コバノガマズミ、シラカシ、クロモジ、ミツバアケビ、ツルグミ、サルナシ

③ 真壁町長岡 標高400m

調査日 平成11年5月23日

高木層（植被率70%）

アカマツ（優占種、胸高直径80 cm）、ヤマザクラ、アカガシ、オオモミジ

亜高木層（植被率30%）

ヤブツバキ、エゴノキ、イヌザクラ、イヌガヤ、ウリハダカエデ

低木層（植被率30%）

アオキ（優占種）、ムラサキシキブ、クロモジ、コゴメウツギ、クマシデ、イタヤカエデ、イロハモミジ、エゴノキ、キブシ、ハナイカダ

草本層（植被率50%）

シシガシラ、イノデ、ジュウモンジシダ、ベニシダ、ヤマイヌワラビ、ミゾシダ、ゼンマイ、ヘビノネゴザ、ウワバミソウ、キバナアキギリ、トウゴクサバノオ、ミヤマウズラ、ミヤマカタバミ、ドクダミ、マムシグサ、サルトリイバラ、ミズヒキ、ホウチャクソウ、ヒゲネワチガイソウ、ムラサキケマン、オニドコロ、コアカソ、タチツボスミレ、エイザンスミレ、アオイスミレ、イヌコウジュ、シロヨメナ、キンミズヒキ、オカタツナミソウ、ゲンノショウコ、ヤブコウジ、ミツバ、クモキリソウ、チヂミザサ、センニンソウ、ツクバトリカブト、ヤマタツナミソウ、アケビ、ミツバアケビ、テイカカズラ、キツタ、イヌガヤ、ヤマウコギ

④ 真壁町長岡 標高400 m

調査日 平成11年6月26日

高木層（植被率70%）

アカマツ（優占種、胸高直径20 cm）、ケアオダモ、ヤマザクラ、リョウブ、ホオノキ、コナラ

低木層（植被率40%）

ヒサカキ、ネジキ、トウゴクミツバツツジ、オオバマンサク、ヤマウルシ、リョウブ、クロモジ、ケアオダモ、ウラジロノキ、クリ、ヤマツツジ、コアジサイ、ヤマハギ、バйкаツツジ

草本層（植被率40%）

コウヤボウキ、サルトリイバラ、ノヤマトンボ、ミヤマウズラ、ジガバチソウ、ヤマユリ、ススキ、チゴユリ、トウギボウシ、シュンラン、マキノスミレ、イチヤクソウ、ミヤコザサ、オクモミジハグマ

(4) ブナ林

加波山山頂付近の標高約600 m以上の八郷町側に多く見られる。いずれもアカガシが混生し、冷温帯のブナと暖温帯のアカガシが同所的に見られる。また、林床には、スズタケやミヤコザサなどのササ類や、冷温帯に見られる草本類が多く生育している。

① 真壁町長岡 標高650 m

調査日 平成11年5月8日

高木層（植被率70%）

ブナ（優占種、胸高直径70 cm）、アカガシ、ヒノキ、スギ、アカシデ、ヤマザクラ

低木層（植被率40%）

スズタケ（優占種）、カヤ、アカガシ、アオキ、コアジサイ、ミヤマシキミ

草本層（植被率50%）

ヤブコウジ、ミヤコザサ、フモトスミレ、キッコウハグマ、ヒメカンスゲ、ヤマジノホトトギス、オクモミジハグマ、サルトリイバラ、ツタウルシ、コアジサイ、ウリカエデ、ツクバネ、ツルアジサイ、リョウブ、バйкаツツジ、クロモジ

② 八郷町大塚 標高600 m

調査日 平成11年5月23日

高木層（植被率70%）

ブナ（優占種、胸高直径70 cm）、アカガシ、ミズナラ、オオモミジ、ウリハダカエデ、イヌブナ

亜高木層（植被率10%）

ブナ、リョウブ、アカガシ

低木層（植被率30%）

ヒサカキ、ヤマツツジ、トウゴクミツバツツジ、バйкаツツジ、シキミ、アオキ、スズタケ、アワブキ、イヌガヤ、ヒトツバカエデ、エゴノキ、コアジサイ、テイカカズラ

草本層（植被率50%）

ベニシダ、ミヤマクマワラビ、ヤマイタチシダ、ホソバナライシダ、シシガシラ、ヒメノキシノブ、オタルスゲ、ヒメカンスゲ、ヤブコウジ、ミヤマウズラ、ヤブラン、リョウブ、テイカカズラ、コアジサイ、ツクバネウツギ、ケアオダモ

③ 八郷町大塚 標高650 m

調査日 平成11年5月8日

高木層（植被率70%）

ブナ（優占種、胸高直径70 cm）、アカシデ（優占種）、リョウブ、ヤシヤブシ、オオモミジ、ヤマボウシ

低木層（植被率30%）

ヤマツツジ、クマシデ、アオキ、ミヤマガマズミ、ツルアジサイ、ホオノキ、ニワトコ

草本層（植被率50%）

ジュウモンジシダ、ゼンマイ、ヘビノネゴザ、ツクバネソウ、ヒゲネワチガイソウ、ヤマジノホトトギス、オクモミジハグマ、ヒトツボクロ、ミヤマナルコユリ、

キバナアキギリ, チゴユリ, ミヤマシキミ, ヤブコウジ, タガネソウ, エンレイソウ, ミヤコザサ, ニワトコ, テイカカズラ, コゴメウツギ, コアジサイ

(5) イヌシデ・クマシデ・オオモミジ林

燕山の山頂付近に見られる樹高の低い林である。

① 八郷町大塚 標高700 m

調査日 平成11年6月26日

高木層 (植被率70%)

イヌシデ (優占種, 胸高直径20 cm), クマシデ (優占種), オオモミジ (優占種), リョウブ, ヤマボウシ, コナラ, サワフタギ, ヌルデ, ヤマザクラ, ウリハダカエデ, ヒノキ, エゴノキ

低木層 (植被率40%)

ヤマツツジ (優占種), クロモジ, コゴメウツギ, ツクバネウツギ, モミジイチゴ, クマイチゴ, ツルアジサイ, ウグイスカグラ, ケカマツカ, イボタノキ, シラキ, ノリウツギ

草本層 (植被率40%)

ミヤコザサ, クモキリソウ, タガネソウ, オオバナニガナ, チゴユリ, ヤマユリ, ミヤマナルコユリ, キクバドコロ, タチドコロ, オカトラノオ, ジュズスゲ, ヤマハギ, コウヤボウキ, ミツバツチグリ, マキノスミレ, ナガバノスミレサイシン, フモトスミレ, サルトリイバラ, ヤイトバナ, オオバコ, トウギボウシ, ヒヨドリバナ, チヂミザサ

(6) ヤマザクラ・イロハモミジ林

沢沿いの大きな石が点在する斜面に見られる。林床は、春先落葉樹の葉が展開する前まで明るい、葉を展開する5月末には暗くなる。

① 真壁町長岡 標高500 m

調査日 平成11年5月23日

高木層 (植被率70%)

ヤマザクラ (優占種, 胸高直径50 cm), イロハモミジ (優占種) イヌザクラ, チドリノキ

亜高木層 (植被率20%)

チドリノキ, ヤブツバキ, ムラサキシキブ, イヌガヤ, クマシデ, カヤ, イロハモミジ, オオバアサガラ, ツルアジサイ

低木層 (植被率20%)

アオキ, チドリノキ, イヌガヤ, フジ, タマアジサイ, ミヤマシキミ, イボタノキ, ガマズミ, ハナイカダ, ウリノキ, クロモジ, ウリハダカエデ, サンショウ, スズタケ

草本層 (植被率40%)

ハルトラノオ (優占種), ジュウモンジシダ, ノキシノブ, エンレイソウ, ルイヨウボタン, ミヤマカタバミ, ヒゲネワチガイソウ, ウバユリ, ホウチャクソウ, ヤブラン, ムカゴネコノメ, ユリワサビ, マルバコンロンソウ, ミヤマカタバミ, ヒメヤブラン, ヤマアジサイ, カタクリ, ツクバネソウ, アマチャヅル, ウワバミソウ, マルバノホロシ, テイカカズラ

(7) コナラ・アカマツ林

加波山から雨引山へ続く標高300 m 前後の尾根筋の所々に見られる。以前は、広範囲に広がっていたと考えられるが、現在は伐採されて、スギやヒノキが植林されている。

① 大和村大曾根 標高350 m

調査日 平成11年6月26日

高木層 (植被率70%)

コナラ (優占種, 胸高直径50 cm), アカマツ (優占種), ヤマザクラ, イヌシデ, オオモミジ, クヌギ, エゴノキ

亜高木層 (植被率10%)

アカメガシワ, ウワミズザクラ

低木層 (植被率30%)

ダンコウバイ, ムラサキシキブ, ヤマツツジ, フジ, クロモジ, ホオノキ, ミツバアケビ, シラキ, キブシ, ヒメコウゾ, エンコウカエデ, ヤマウルシ, サンショウ, コゴメウツギ, ゴンズイ, ノリウツギ, ネムノキ, モミジイチゴ

草本層 (植被率40%)

ワラビ, チゴユリ, オカトラノオ, ミツバツチグリ, チヂミザサ, サジガンクビソウ, オオバコ, コウヤボウキ, ダイコンソウ, オニドコロ, タチドコロ, ヤマノイモ, サルトリイバラ, ハエドクソウ, ヒメヤブラン, ナルコユリ, ヤブコウジ, カシワバハグマ, タチツボスミレ, ミヤマナルコユリ, コバノカモメヅル, アズマネザサ, マムシグサ, ヤイトバナ, トウギボウシ, ノブドウ, ツルウメモドキ, サルナシ, ミツバアケビ

3. 注目すべき植物

(1) ミズニラ ミズニラ科

『日本の野生植物シダ編』(平凡社)では、『池沼の改修と富栄養化の影響を受けて、急速に生育場所を失っている危急種である』とされている。「茨城県における絶滅の恐れのある野生生物(植物編)」では希少種

に分類されている。葉が細いので、イネ科植物と見間違えやすいが、県南西地域の平地の水湿地ではややまれに見ることができる。加波山では、大和村大曾根集落の上部の湿地（標高約200m）に生育していた。

(2) コハナヤスリ ハナヤスリ科

葉の幅が狭いので他の種と区別される。茨城県内ではまれに分布している。加波山では神社西側（真壁町側の標高約500m）の林道端の日当たりのよい1m²くらいの広さのところの数個体生育していた。

(3) コケシノブ類 コケシノブ科

今回の調査では、ウチワゴケ、コウヤコケシノブ、コケシノブ、ハイホラゴケの4種類のコケシノブ科植物の生育を確認した。このうちウチワゴケ、コウヤコケシノブは、岩上に生育している個体をやや普通に見ることができたが、コケシノブ、ハイホラゴケは、それぞれ1カ所でしか見ることができなかった。コケシノブは加波山頂上付近の岩上に、ハイホラゴケは丸山東側の沢沿いの薄暗い湿った岩上に生育していた。ホソバコケシノブの文献記録もあるが、今回の調査では確認できなかった。

(4) シノブ シノブ科

太い根茎が横走する特徴のあるシダである。鑑賞用として愛好家に採集されてしまっているせいか、今回の調査ではほとんど見つけることができず、加波山頂上西側の岩場に着生しているのを確認しただけであった。この岩場には、地衣類のイワタケも見られた。

(5) ミヤマクマワラビ オシダ科

加波山頂上東側斜面（八郷町側）のブナ、アカガシ林下、スギ林下の陰湿な林床に見られた。加波山頂上東側斜面は人手が入らないところが多く残っており、葉を叢生して生育していた。付近の岩にはコウヤノマンネングサ（コケ植物）の着生も見られた。

(6) サワグルミ クルミ科

大和村大曾根から燕山への登山道沿いや、八郷町大塚から加波山への登山道沿いなどに見られた。いずれも沢沿いに垂高木となり生育していたが、個体数は多くない。オニグルミも見られたが、民家近くにのみ生育しており、植栽されたものと思われる。

(7) シバヤナギ ヤナギ科

山地性のヤナギで、崖の斜面から枝を下垂させて生育している。茨城県内では、難台・吾国山塊、加波・筑波山塊に生育している。加波山では、一本杉峠～真壁町白井間の林道沿いや、一本杉峠～八郷町大塚間の林道沿いなどに生育していた。ヤナギ属植物は、雑種をつくるものが多く、加波山でもシバヤナギとオオキツネヤナギとの雑種個体、シバヤナギとヤマネコヤナギとの雑種個体を見ることができた。

(8) ブナ ブナ科

加波山山頂付近（標高500～700m）に生育している。個体数が多く大木になっているものが多いが、幼木は少ない。実が落ちてほとんど生育していないものと思われる。東側・西側斜面では、同所的にアカガシの大木も生育しており、冷温帯の代表種ブナと暖温帯の代表種アカガシが混生して、高木層を形成している。南側斜面には、ヤドリギが着生している個体も見られた。燕山山頂付近にも生育していたが、加波山山頂付近ほど個体数は多くなかった。

(9) ベニイタドリ タデ科

イタドリは、茨城県内の平地から山地までの至る所にごく普通に見られ、若い茎は食用にされる。そのイタドリに比べ、花や実が赤くなるので品種として区別されている。大和村大曾根から燕山・加波山へ向かう林道沿い（標高400m）に生育していた。



図2. ベニイタドリ。

(10) ヒゲネワチガイソウ ナデシコ科

上部の2対の葉は接近して、仮輪生状になっていることから、近縁の種と区別される。茎の上部の葉の幅が狭いタイプと、広いタイプが見られた。茨城県内では分布がややまれな植物であるが、加波山では、桜坊の岩切大権現から加波山神社への登山道沿いや、加波山頂上から旗立石にかけての登山道沿いなど数カ所

見ることができた。

(11) ルイヨウボタン メギ科

茨城県では、分布がややまれな植物である。加波山では、山椒魚谷の石碑がある沢から少し登った落葉樹林下に生育していた。林床は花崗岩の巨石が点在している急斜面で、カタクリ、エンレイソウ、ハルトラノオ、ムカゴネコノメソウなども生育していた。加波山ではここ1カ所だけに見られ、生育個体数も多くなかった。

(12) コウモリカズラ ツツラフジ科

葉が五角形でコウモリの形に似ているので、この名がある。大型のつる植物で、林縁や荒れ地を覆って生育している。加波山では、桜坊の岩切大権現から加波山神社への登り初めの舗装道路脇に見られた。加波山で生育が確認できたのはここ1カ所であった。茨城県内でも産地は多くない。

(13) オオバウマノスズクサ ウマノスズクサ科

暖地性のつる植物で、茨城県内では筑波山のみで生育が確認されているが、今回の調査で加波山にも生育していることがわかった。一本杉峠から八郷町大塚へ下る林道沿いの崖（標高200m）に生育していた。

(14) マタタビ マタタビ科

加波山の標高300~400m付近の林道沿い数カ所に生育しているのが観察できた。スギ林の林縁等にマント群落をつくって生育していた。葉が白くなるので目につきやすい植物であるが、加波山では同じ仲間のサルナシに比べて生育個体数は少ない。



図3. マタタビ。

(15) リンボク バラ科

葉に光沢や鋸歯があり、一見シラカシやウラジロガ

シに似る。雨引観音の第2駐車場脇にスタジイ、ウラジロガシなどと共に生育していた。大木になっていたが、1個体だけしか見ることができなかった。雨引山では寺院の周辺に自然林がわずかに残っているにすぎない。人手が加わっていなければ、この一帯はリンボクを含めた典型的な照葉樹林になっていたものと思われる。

(16) シロヤマザクラ バラ科

「福祉センター雨引」の駐車場から雨引観音への階段を上がっていくと左手にこの大木がある。ヤマザクラは花と葉が同時に開き、花弁が淡紅色で新葉も赤みを帯びるが、このシロヤマザクラでは花弁や新葉が赤みを帯びる割合が少なく、花は白く見える。注意深く観察するとこのタイプのヤマザクラは他の地域でも見ることができる。

(17) コハウチワカエデ カエデ科

葉の形状はハウチワカエデに似ているが、小型なので区別される。県内では普通に見られる植物であるが、加波山では、頂上の東側および西側斜面にわずかに生育しているにすぎなかった。

(18) コミヤマスミレ スミレ科

県北山地ではややまれに生育しているが、県南、県西地域では生育が知られていない。今回の調査で、加波山神社東側の標高500m付近、および丸山の東側標高400m付近に生育しているのが確認された。いずれも沢沿いのスギ林の陰湿な林床に数個体生育していた。



図4. コミヤマスミレ。

(19) ナガバノスミレサイシン スミレ科

茨城県内ではややまれな植物であるが、加波山では加波山頂上付近の登山道沿い、燕山頂上付近の登山道

植 物

沿い、一本杉峠から真壁町白井へ向かう林道沿いのスギ林下などに生育していた。いずれも陰湿な場所で、生育個体数はやや多い。

(20) イケマ ガガイモ科

有毒植物で、茎を切ると白い乳液が出る。茨城県内ではややまれな植物である。加波山では、丸山西側を経て加波山東側を通る林道沿いに見られた。加波山では、アサギマダラを多く見ることができるが、その食草になっている植物である。

(21) カメバヒキオコシ シソ科

葉が、甲羅から尾を出している亀の形に似ているのでこの名がある。丸山の東側（標高400 m）沢沿いの陰湿なスギ林下に、数個体生育していた。筑波山では生育が知られているが、加波山では初めて確認できた植物である。

(22) マルバノホロシ ナス科

茎はつる状で長く伸びる。ヤマホロシに似るが、葉が全縁であること、下部の葉も深裂しないことなどで区別される。加波山神社の東側の林道沿い、その他数カ所に見られた。

(23) キミノニワトコ スイカズラ科

ニワトコは果が熟すると赤色になるが、キミノニワトコは果が黄色に熟するので、果時に容易に区別できる。加波山では、真壁町桜坊の岩切大権現からの登り初めの舗装道路脇の斜面に生育していた。

(24) ゴマギ スイカズラ科

葉は一見ガマズミに似るが、葉にゴマに似た臭気があるので区別できる。一本杉峠から丸山西側の林道を経た、加波山頂上への登り口に約3 mの高さのものが2個体生育していた。その下には、実生個体が多数生育していた。今回の調査では、ここ1カ所のみで生育が確認できた。

(25) ソバナ キキョウ科

筑波山では生育が確認されているが、加波山では今まで確認されていなかった。今回の調査で、加波山神社西側の林道沿いの草地に生育しているのが確認できた。

(26) キクタニギク (アワコガネギク) キク科

葉は羽状に深裂し、栽培品のキクに似る。花は黄色の小さな頭花を散状に多数つける。加波山では、大和村大曾根からの登山道沿いの崖や、一本杉峠から八郷町大塚への林道沿いの崖など数カ所で見られた。いずれの場所でも生育個体数は少ない。

(27) キセルアザミ (マアザミ) キク科

頭状花序が點頭し、キセルの形に似るので、この名がある。加波山では、一本杉峠から真壁町白井に抜ける林道の一本杉峠近くの湿地のみで生育を確認できた。コバギボウシ、アケボノソウなどと共に数個体生育していた。

(28) ノギラン ユリ科

倒披針形の葉をロゼット状に広げ、花茎を伸ばし、6～7月に穂状花序の花をつける。「茨城における絶滅の恐れのある野生生物〈植物編〉」では、希少種に分類されている。大和村大曾根から燕山・加波山へ向かう林道沿い標高400 mの所に生育していた。赤土の露出した日当たりのよい崖の2カ所に生育していたが、個体数はそれほど多くない。



図5. ノギラン。

(29) ユキザサ ユリ科

茨城県内ではややまれに生育している植物であるが、筑波山、加波山ではやや普通に見られる。加波山では、頂上東側斜面の標高400 m～600 mの所のブナやその他の落葉広葉樹林下に生育していた。

(30) ササクサ イネ科

ササの葉に似るところからこの名がある。「茨城における絶滅の恐れのある野生生物〈植物編〉」では希少種に分類されている。大和村大曾根から燕山・加波山へ向かう林道沿いと、八郷町大塚から加波山への林道沿いに見られた。暖地性の植物で、いずれの産地で

も100～200 m の標高の低いところに、ホラシノブ、イワガネソウなどと共に生育していた。個体数はやや多い。

(31) ヤマトミクリ ミクリ科

「茨城における絶滅の恐れのある野生生物〈植物編〉」では絶滅危惧種に分類されている。加波山では、大和村大曾根集落上部の湿地（標高200 m）のみで生育が確認された。ヨシ、マコモに圧されながら約200 m²の広さに生育しており、個体数もそれほど多くなかった。

(32) ジガバチソウ ラン科

クモキリソウの葉を小さくしたような葉をもち、暗紫色の小さな花をつける。茨城県内ではややまれな植物で、加波山でも大和村大曾根から燕山・加波山へ向かう林道沿いの標高400 m の崖や、加波山南西の標高400 m の登山道沿いのアカマツ林下に生育していた。生育個体数は少ない。生育環境の悪化や山野草ブームの影響で、個体数が激減している植物の1つと思われる。

(33) ヒトツボクロ ラン科

表面は光沢のある深緑色、裏面は紫色の卵状楕円形の葉を1枚出し、黄緑色の小さな花をつける目立たない植物である。加波山の南西側斜面のアカマツ林の林床、一本杉峠から真壁町白井へ抜ける林道沿いの落葉広葉樹林の林床など数カ所での生育を確認したが、いずれの産地でも個体数は少なかった。



図6. ヒトツボクロ.

(34) 文献記録にあるが今回の調査で確認できなかった植物

加波山には、花崗岩の採石場がたくさんあり、山の斜面が至るところ切り崩されている。採石場に続く自動車道や林道が縦横無尽に走っている。標高の低い地域のアカマツ林は松食虫の害で立ち枯れしている。スギが植林されている場所が多い。これらのさまざまな理由で年々自然の植生が残されている場所が少なくなっている。そのために、かつては普通に生育していた植物も、分布域が狭められたり絶滅してしまったりしているものと思われる。カラクサシダ、オシヤクジデンド、タマガワホトトギス、ヒタチクマガイソウ、アオフタバラン、エビネ、シラカンバ、サワリソウなど、文献記録にあるが、今回の調査では生育が確認できなかった植物が多くあった。その中のいくつかは、加波山での生育環境の悪化や山野草マニアによる採集により、生育個体数が激減したり絶滅してしまったため、生育が確認できなかったものと思われる。

参考文献

- 茨城県環境保全課. 1997. 茨城における絶滅のおそれのある野生生物〈植物編〉. 253 pp., 茨城県環境保全課.
- 鈴木昌友・清水 修・安見珠子・安 昌美・藤田弘道・中崎保洋・和田尚幸・野口達也. 1981. 茨城県植物誌. 339 pp., 茨城県植物誌刊行会.
- 真壁町史編さん委員会. 1998. 真壁町史料 植物編Ⅱ.

調査研究および執筆

- 成島 明 (茨城県立伊奈高等学校教諭)
- 丸山友一 (茨城大学教育学部附属小学校教諭)

吾国山・難台山・愛宕山の維管束植物

はじめに

本地域は八溝山地の筑波山塊に含まれ、ほぼ県の中央部に位置する山域である。

吾国山は標高518.2mで、主となる尾根は東西に走り、南側は八郷町に含まれる。北側は笠間市、一部岩瀬町に属している。山容はなだらかであるが、沢沿いの斜面は急である。一部沢沿いに巨岩があるが、全体的に土壤が発達し、森林に覆われている。山頂部にブナ林が残っていること、また早春のカタクリの群生地として知られている。林道は道祖神峠より吾国山洗心館を経て山頂下を通り、尾根部をはしり板敷峠に至るものと、北側の岩瀬町今泉から笠間市福原、本戸を通り、中腹を横切り洗心館付近で合流するものがある。登山道は笠間市福原のコースが整備されている。

難台山は標高553.0mで、主尾根は南北に走り、東側は岩間町上郷、西側は八郷町に属する。山頂付近に一部巨岩が露出しているが、採石地、ゴルフ場などを除くと土壤が発達し森林が見られる。山頂部に個体数は少ないがブナが残存している。八郷町側の中腹に林業用の林道が整備されているが、一般の人は利用できない。ハイキングコースは愛宕山より続き、団子石峠を経て主尾根を登り、山頂に至るもので、さらに尾根道は道祖神峠に続いている。難台山はナンダイミヤコザサのタイプロカリティーである。

愛宕山は標高約260mの尾根の一部という感がし、山頂部には神社があり、スギやモミの巨樹に混じりスダジイの大木が残っている。主尾根は東西に走り、南側の岩間町下郷、泉側は温暖な地域である。北側は同町上郷に属し、スギ・ヒノキがよく植林されている。

本地域の植物相については、主に茨城大学教育学部生物学教室関係者により調査されてきた。また筑波山塊の植物としても調査されてもいるが、やはり中心は筑波山で、それも目立つ植物が中心であった。

調査方法

1. 調査地の選定

調査地域は吾国山・難台山・愛宕山を中心とする山域で、5万分の1地形図では「真壁」「石岡」に含まれ、行政上は岩瀬町、笠間市、八郷町、岩間町に属している。西は岩瀬町と八郷町を結ぶ道路の板敷峠付近とし、東は岩間町下郷の愛宕山の山麓部である。北は笠間市福原、本戸の山麓部の水田が含まれる。南は岩間町泉

の山麓までである。便宜上、道祖神峠と道路で吾国山域と難台山域を区分し、団子石峠と林道で難台山域と愛宕山域とを区分した(図1)。

2. 調査期間

平成9年度から平成11年度の3カ年にわたり調査を実施した。

調査期日と調査域の詳細は以下に示す通りである。

平成9年度(11回)

6月 28日	岩間町愛宕山域	
8月 6日	八郷町愛宕山域	八郷町難台山域
8月 19日	岩間町難台山域	
8月 20日	八郷町愛宕山域	八郷町難台山域
8月 22日	笠間市吾国山域	
8月 23日	笠間市吾国山域	
9月 28日	八郷町吾国山域	
10月 18日	岩間町愛宕山域	
10月 26日	八郷町難台山域	
10月 27日	八郷町吾国山域	
11月 24日	岩間町愛宕山域	

平成10年度(7回)

9月 12日	岩間町難台山域	
9月 15日	八郷町吾国山域	
10月 11日	笠間市吾国山域	
10月 20日	八郷町吾国山域	
11月 8日	八郷町愛宕山域	
11月 14日	笠間市吾国山域	岩瀬町吾国山域
12月 6日	岩間町愛宕山域	

平成11年度(19回)

4月 18日	岩間町難台山域	
5月 2日	岩間町愛宕山域	
5月 3日	笠間市吾国山域	八郷町難台山域
5月 22日	岩間町難台山域	八郷町吾国山域
5月 23日	岩間町愛宕山域	
6月 6日	笠間市吾国山域	八郷町吾国山域
7月 17日	岩間町愛宕山域	
7月 18日	岩間町難台山域	
7月 20日	八郷町吾国山域	八郷町難台山域
7月 24日	岩間町愛宕山域	岩間町愛宕山域
8月 22日	笠間市吾国山域	
9月 5日	八郷町吾国山域	
9月 28日	岩間町愛宕山域	
9月 29日	八郷町難台山域	
10月 2日	岩間町難台山域	
10月 9日	岩間町難台山域	

10月 10日 岩間町愛宕山城
 10月 17日 岩間町難台山城
 11月 3日 笠間市吾国山城 八郷町吾国山城

・確認種 827種
 ・文献種 44種

(4) 写真の撮影 (採集した主な植物とその生育状況がわかる写真を撮影)。

3. 調査項目

維管束植物 (シダ植物, 種子植物) を対象として, 植物相と植生の概要の調査を行った. 調査項目は次の通りである.

- (1) 本調査地に生育する全植物の確認と記録.
- (2) 本調査地の植生の概要.
- (3) 生育する植物の採集と標本の作成 (原則として花・実が付いている個体を採集, 1種の植物につき, 2~4点作成). 採集および確認した植物の目録は付表1に示した. なお, 付表1に示した種数は次の通りである.

結果

1. 植生の概要

本地域は温暖で雨量も多く, 土壤の発達もあることから, 広い範囲にスギ・ヒノキを中心とする植林地が見られる. 尾根の部分や急傾斜地にはコナラ・イヌシデ・アカシデなどの落葉広葉樹林が残っている. プナは吾国山頂と難台山頂にわずかに残っているにすぎず, スダジイの混じる林は愛宕山頂部にのみ, わずかに見られる. 尾根部のハイキングコースには狭いながら草地が見られる.

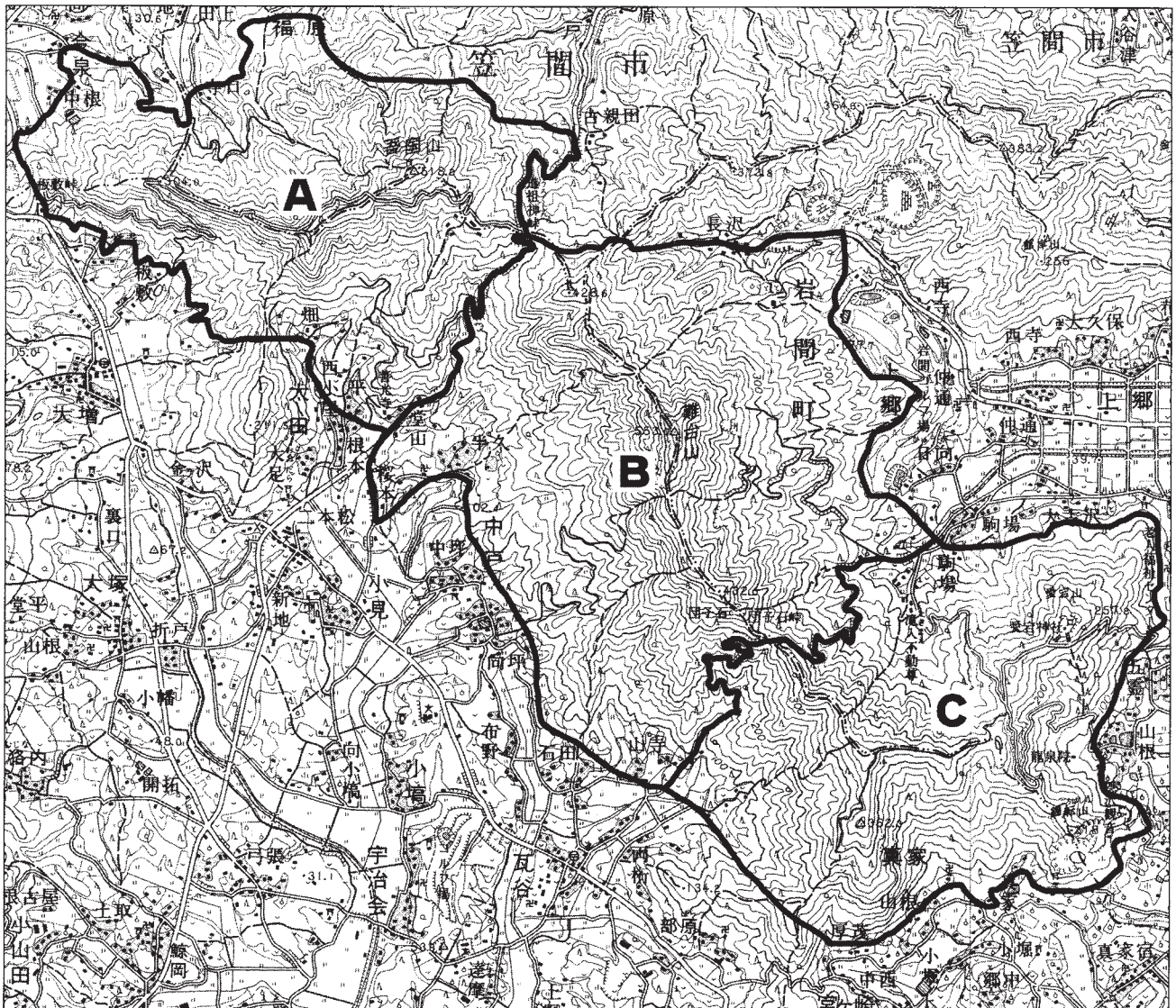


図1. 調査地 A: 吾国山城 B: 難台山城 C: 愛宕山城 (国土地理院発行 1: 50,000地形図「真壁」[石岡]を使用).

(1) スダジイ、タブノキの混じる林

調査地域の中では面積の狭い林で、愛宕山頂付近の林で、他はスダジイの大木が目立つ程度であるが、岩間町泉龍泉院付近、八郷町大増板敷山大覚寺付近、八郷町太田善光寺付近に見られる。

高木層にはスダジイ、タブノキの常緑広葉樹、モミ、ヒノキなどの常緑針葉樹が混じるが、イタヤカエデ、アカシデなどの落葉広葉樹も見られる。

亜高木層にはモミ、ヒサカキ、アカシデの他にツタウルシが高所までつるを伸ばしている。

低木層はあまり発達していないが、常緑樹ではタブノキ、ヒサカキ、アオキなどがあり、ゴンズイ、ヤマウルシ、クロモジ、イヌシデ、モミジイチゴ、コゴメウツギ、アカシデなどの落葉樹も生育している。一部アズマネザサの侵入も見られる。

草本層の種類は多く、ヤブコウジ、テイカカズラ、ヒサカキ、シラカシ、ベニシダ、オオバジャノヒゲなど常緑樹林下によく見られるものが出現している。他にヤブムラサキ、ヤマユリ、アオハダ、チゴユリ、アカシデ、ウワミズザクラ、ハナイカダなどがあるが高木層の樹木の実生が無いことが問題である。

(2) コナラ林

コナラ林は山城の各地に点在している。コナラのみ林は無く、クリ、ヤマザクラ、シデ類が混じっていることが多い。南斜面のものには常緑樹もよく混じってくる。

高木層にはコナラが目立ち、他にクリ、ヤマザクラ、イヌシデ、アカシデが見られる。

亜高木層にもコナラ、ヤマザクラ、アカメガシワ、アオハダなどが出現するが、まれにシラカシ、スダジイなどが見られることもある。

低木層は手入れの程度で種類数も異なるが、ヤマツツジ、ツクバネウツギ、クリ、コナラ、ヤマウルシ、サルトリイバラ、クロモジ、ムラサキシキブ、コゴメウツギ、ヤマコウバシに混じり、ヒサカキ、シラカシ、スダジイが侵入している。

草本層はチゴユリ、ヤブコウジ、イチヤクソウ、コウヤボウキ、シシガシラ、ワラビなどの草本植物の他にアズマネザサ、ヤマツツジ、ツクバネウツギ、コナラ、アカマツ、スギ、ヒサカキ、ウリカエデ、シロダモ、イタヤカエデなどの樹木の実生がよく見られる。ミツバアケビ、スイカズラなどのつる植物もよく見られる。

やや高度の高い所に見られるコナラ林では、高木層

にコナラ、アカシデ、イヌシデ、クマシテ、ヤマザクラ、リョウブ、ウリハダカエデが見られる。亜高木層にはヤマボウシ、ウリカエデ、ホオノキ、クマシデ、リョウブ、ネジキなどがあるがあまり発達はしていない。

低木層にはヤマツツジ、ウリカエデ、クロモジ、バйкаツツジ、トウゴクミツバツツジ、アオキなどがあるがトウゴクミツバツツジはまれである。

草本層にはミヤコザサ、ミヤマウズラ、ヤブコウジ、アオキ、キッコウハグマ、コチヂミザサ、テイカカズラの他にミヤマシキミ、コアジサイ、イロハモミジの実生などが見られる。

(3) プナ林

プナ林は山地帯の温帯林を代表する林で、茨城県内では筑波山や八溝山、花園地域のもがよく知られている。本地域では吾国山頂域と難台山頂域にわずかに存在することが知られている。吾国山のプナ林の構成はおおよそ次のようである。

高木層にはプナ、コナラ、スギ、ウリハダカエデ、ハリギリ、オオモミジ、イヌシデ、ホオノキなどがあり、林冠はふさがっている。

亜高木層にはクマシデ、アカシデ、シラキ、イロハモミジ、エゴノキ、ウリハダカエデ、オオモミジ、プナなどが出現する。あまり発達してなく、プナの個体数は少ない。

低木層にはアオキ、ヤマツツジ、アズマネザサ、エゴノキ、クロモジなどが見られる。

草本層の被度は大きくないが、種類数はある。オクモミジハグマ、シシガシラ、ツクバキンモンソウ、コチヂミザサ、チゴユリ、ミツバアケビ、キッコウハグマ、ジュウモンジシダ、ヘビノネゴザ、カシワバハグマ、ミヤマウズラなどの草本の他にアオキ、ミヤマシキミ、ヤブコウジ、クロモジ、サンショウ、オオモミジなどの樹木の実生などが出現している。調査枠の中ではプナの実生は確認できなかった。春の林床にはカタクリが群生し、一斉に開花する。

難台山のプナ林はさらに貧弱で、高木層にプナは少なく、イヌシデ、コナラ、アカシデなどが目立っている。しかし、プナの実生の確認報告もある。

(4) シデ林

難台山の上部にはイヌシデ、クマシデ、アカシデなどからなる林がある。この林の構成は次のようである。

高木層には前述の3種の他にコナラ、ウリハダカエデ、イタヤカエデ、リョウブなどがある。

亜高木層にはリョウブ、ネジキ、ヤマボウシ、ホオノキ、クマシデ、ウリカエデが見られる。

低木層にはヤマツツジ、ウリカエデ、アズマネザサ、クロモジ、バイカツツジ、トウゴクミツバツツジ、アオキなどが生育している。

草本層にはミヤコザサ、ミツバアケビ、ミヤマウズラ、コウヤボウキ、キッコウハグマ、ムラサキシキブ、コゴメウツギ、シラカシ、コアジサイ、サルトリイバラ、ゼンマイ、テイカカズラ、ミヤマシキミ、イロハモミジ、サンショウなどが見られる。

(5) スギ林・ヒノキ林

スギ林・ヒノキ林は各地に広く見られるが、いずれも植林されたものである。林の構成は植林されてからの年数や手入れの状況により種類数などに変化が多い。愛宕山の南面付近の林には多くの暖地性植物が生育している。

愛宕山のヒノキ林の構成は次のようである。

高木層にはヒノキのみで、亜高木層に所によりスダジイ、シラカシが混じることがある。

低木層は手入れの状態が変わるが、ツルグミ、アズマネザサ、スダジイ、ホオノキ、サネカズラ、シロダモなどが出現する。

草本層の種類数等は明るさにより変化するが、アズマネザサ、ヒサカキ、シラカシ、スダジイ、テイカカズラ、ヤブラン、ヤツデ、ジャノヒゲ、ヤブコウジ、シロダモ、マンリョウ、フユイチゴ、クサイチゴ、ツルグミ、スギなどが見られる。

密植状態の林床は暗く、維管束植物はほとんど生育できない。

スギ林は、手入れもよく、よく生長している。明るさのある沢沿いの林では、林床に多くの植物が生育している。

高木層はスギのみ、亜高木層はなく、低木層にはヤマウルシ、タブノキ、シラカシ、シロダモ、ヒサカキ、ムラサキシキブなどがまれに見られる。

草本層の発達はよく、シュウブソウ、ドクダミ、ヒメジソ、ミズヒキ、コブシ、ハナイカダ、イヌシヨウマ、クサイチゴ、ヤマジノホトトギス、ツタウルシ、ミツバ、ヤマカシュウ、キバナアキギリ、クロモジ、アオキ、ミヤマフユイチゴ、チダケサシ、モミジイチゴ、マツカゼソウ、ヤワラシダ、ムラサキシキブ、ノササゲ、サワフタギ、コゴメウツギ、ミツバアケビ、

ベニシダ、オクマワラビ、ヤマイヌワラビ、オカタツナミソウ、ホウチャクソウ、イノデなど種類数も多い。

生長したスギ林で湿度の高い所は、シダ植物の生育地として最適の状態を示している。調査地域内では南に面したスギ林に、そのような地点が多く見られる。

ベニシダ、リョウメンシダ、イワガネソウ、ミゾシダ、ヤワラシダ、セイタカシケシダ、ホソバシケシダ、ヤマイヌワラビ、イノデ、アイアスカイノデ、アスカイノデ、フモトシダ、オオベニシダ、ヒロハイヌワラビ、ホソバイヌワラビ、ゲジゲジシダ、オオバノイノモトソウ、シケチシダなどであり、まれにオオバノハチジョウシダ、キヨスミヒメワラビ、オニヒカゲワラビ、イワシロイノデなどが出現する。

2. 注目すべき植物

(1) ハイホラゴケ コケシノブ科

沢沿いの湿った岩上にはえる常緑のシダ植物。根茎には毛が密生する。胞子囊群は裂片に頂生し、包膜はコップ状。国内では北海道（南西部にまれ）～琉球に分布し、東南アジアにも知られる。

県内では北部の山地渓谷から筑波山塊まで知られているがまれである。県レベルでは希少種に指定されている。

調査地域では岩間町の難台山の沢沿いにわずかに見られる。

(2) アオホラゴケ コケシノブ科

沢沿いの湿った岩上にはえる小型の常緑のシダ植物。根茎には毛が密生し、葉は深緑色で偽脈が見られる。本州（東北・関東・北陸にはややまれ）～琉球に分布し、国外ではインドからポリネシアにかけての旧世界の亜熱帯から熱帯の各地に知られている。

県内では多賀山地の海側や久慈山地の渓谷、八溝山地に知られているがまれである。県レベルでは希少種に指定されている。

調査地域では吾国山の笠間市側の沢沿いにわずかに生育しているのを確認した。

(3) ミズニラ ミズニラ科

池沼や湿地にはえる夏緑性のシダ植物。葉はニラの葉に似ていて、長さは10～30 cm。水田の用水路などにも見られる。国内では北海道（胆振）、本州、四国（徳島県）、九州（鹿児島県）に分布し、国外では朝鮮、中国（雲南）に知られている。

県内では山間地の休耕地や湿地，平地部の池沼のへりなどに記録されているが，生育地は少なくなっている。国レベルでは絶滅危惧Ⅱ類，県レベルでは希少種に指定されている。

調査地域では岩間町の難台山域と吾国山の笠間市域の水田で確認した。



図2. ミズニラ.

(4) オオバノハチジョウシダ イノモトソウ科

暖地の湿った林下にはえる常緑のシダ植物。葉は大きく生長すると葉身は1mを越える。胞子嚢群は裂片のへりにつく。国内では本州（東北地方南部以南）～九州に分布し，国外では朝鮮，中国中南部以南の東アジアおよび南アジアからオセアニアに知られている。福島県いわき市南部を北限地としている。

県内では北茨城市，日立市，常陸太田市真弓山，金砂郷町など北部の山地の山麓に知られ，県レベルでは危急種に指定されている。

調査地域では岩間町の愛宕山城のスギ林でよく生長した1株を確認した。



図3. オオバノハチジョウシダ.

(5) コシダ ウラジロ科

福島県いわき市を北限地とする常緑のシダ植物で，県内ではまれである。アカマツ林の減少により生育地が少なくなっている。

調査地域で確認した生育地はヒノキ林下で，コシダの生育環境としては悪化している。

(6) オオクジャクシダ オシダ科

山地のやや湿った林下にはえる常緑のシダ植物。葉柄基部の鱗片は赤褐色から褐色，胞子嚢群は羽片の縁よりにつく。国内では北海道（奥尻島）～九州に分布し，国外では中国の揚子江流域に知られている。

県内では吾国山にのみ知られ，県レベルでは希少種に指定されている。

調査地域では吾国山の笠間市域のスギ・ヒノキ林に生育している。

(7) イワヘゴ オシダ科

暖地の林下にはえる常緑のシダ植物。葉柄の鱗片は黒褐色から光沢のある黒色。胞子嚢群は羽片全面に散在する。国内では本州（山形県・新潟県で珍しく，関東地方以西）～九州に分布し，国外では朝鮮南部，中国，台湾，インド，スリランカ，ヒマラヤに知られている。

県内では北茨城市と笠間市の吾国山城に知られ，県レベルでは希少種に指定されている。

調査地域内では笠間市域に2カ所群生地がある。

(8) サイゴクベニシダ オシダ科

低山帯の林下などにはえる常緑のシダ植物。葉柄の鱗片は赤褐色から濃褐色で光沢がある。葉質はやや厚く，柔らかい革質，胞子嚢群は小羽片の縁寄りか中肋と辺縁の間につく。国内では本州（宮城県・新潟県と関東地方以西）～九州（最南部を除く）に分布し，



図4. サイゴクベニシダ.

国外では朝鮮、中国に知られている。

県内では水戸市、筑波山、新治村に知られ、県レベルでは危急種に指定されている。

調査地域では吾国山の八郷町側の尾根コースで1株確認した。

(9) オニヒカゲワラビ メシダ科

山地の林下にはえる常緑のシダ植物。葉柄の鱗片は黒褐色から茶褐色、辺縁に突起がある。胞子嚢群は線形、包膜の辺縁は細裂する。国内では本州～九州に分布し、国外では中国に知られている。

県内では北茨城市、常陸太田市真弓山、岩間町愛宕山に知られ、県レベルでは危急種に指定されている。

調査地域では以前から確認していた愛宕山のスギ林下にわずかに生育している。個体数は少ない。

(10) ノコギリシダ メシダ科

暖地の湿った山地林下にはえる常緑性のシダ植物。葉は単羽状で下部は狭くならない。国内では本州（福島県南部、関東地方・能登半島以西）～琉球に分布し、国外では朝鮮南部、中国大陸、台湾に知られている。

県内では北茨城市、八郷町真家、新治村に産し、県レベルでは危急種に指定されている。

調査地域内では以前から確認していた真家の生育地で再確認した。スギ林下で沢沿いの小さな群落である。

(11) キヨスミヒメワラビ (シラガシダ) オシダ科

暖地の山地林下の湿った場所にはえる常緑のシダ植物。葉柄基部の鱗片は開出し、卵形で薄く、若いときは白色半透明である。しだいに褐色になる。国内では本州（宮城県・関東地方以西）～九州に分布し、国外では中国大陸、台湾に知られている。

県内では八郷町の大覚寺周辺と笠間市に記録され、



図5. キヨスミヒメワラビ。

県レベルでは希少種に指定されている。

調査地域では吾国山の笠間市域のスギ林下に1株生育しているのを確認した。大覚寺付近では再確認できなかった。

(12) オオイタドリ タデ科

山野にはえる大型の多年草で、葉は大きく卵形から長卵形、基部は心形、裏面は粉白色。国内では北海道、本州（中部以北）に分布し、国外では千島、サハリン、朝鮮にも知られている。日本海側に多く分布している。県内では北部地域に数カ所知られているが、いずれも天然分布ではなく人が関係しているようである。調査地域内では愛宕山の頂上駐車場脇に1カ所群生しているが、最近生育を開始したものと思われる。



図6. オオイタドリ。

(13) イヌショウマ キンポウゲ科

山地の林内にはえる多年草で、根出葉は普通2回3出複葉でまれに1回3出複葉である。花期は8～9月。本州の特産で関東地方から近畿地方に分布する。茨城県を北限地にしていく。

県内では南部の平地部にもよく知られ、中央部の水戸付近では那珂川を越えず、内陸では御前山から大子町方面に延びている。

調査地域では各地のスギ林下などによく見られる。

(14) ブナ ブナ科

山地帯を代表する落葉高木で、葉は互生する。北海道（黒松内低地以南）～九州（大隅半島まで）に分布し、太平洋側の山地のものは一般に葉が小さく、日本海側の山地のものは葉が大きい。

調査地域のブナ林は林床にミヤコザサやスズタケが見られるものと思われるが、面積が小さくはっきりしない。吾国山頂部と難台山頂部に見られる（口絵参照）。

(15) カゴノキ クスノキ科

暖地の照葉樹林にはえる常緑高木で、生長した幹の樹皮はまだらにはげ落ちる。葉は披針形で鋸歯はない。国内では本州（関東地方・福井県以西）～九州に分布し、国外では朝鮮南部に知られている。

県内では北部の北茨城市、高萩市、日立市、常陸太田市、金砂郷町から筑波山まで続き、鹿行地域でも点在している。

調査地域では八郷町真家や愛宕山の南面で確認している（口絵参照）。

(16) サカキ ツバキ科

暖地にはえる常緑小高木で、葉は互生し、へりに鋸歯はない。枝の先端の芽は鉤状に曲がるのが特徴。花期は6～7月で、花弁は白色。国内では本州（茨城県・石川県以西）～九州に分布し、国外では朝鮮南部、中国大陸、台湾に知られている。太平洋側では福島県いわき市南部を北限地としている。

県内では暖帯域の山麓部などに点在している。

調査地域内では八郷町太田および中戸で確認した。

(17) ミヤマフユイチゴバラ科

照葉樹林域の林内にはえる常緑のつる性低木。茎に細い棘がある。葉は卵形から広卵形で急鋭尖頭。花期は8～10月で花は白色。果実は冬に赤熟する。本州（関東地方以西）～九州に分布する。太平洋側では福島県いわき市南部を北限地とする。

茨城県の産地は北限に近い生育地として注目される。

調査地域内では各地の山麓部で確認できる。

(18) フジキ マメ科

山地にはえる落葉高木で、葉は羽状複葉でフジの葉に似ている。冬芽は黄白色の膜をかぶっている。花期は6～7月で花は白色。国内では本州（太平洋側は福島県阿武隈山地、日本海側は若狭湾付近以西）と四国に分布し、国外では中国中部に知られている。

県内では多賀山地、久慈山地、鶏足山塊、筑波山塊にまれに見られる。

調査地域内では岩間町上郷の愛宕山域で確認したが個体数は少ない。

(19) ナガバノスミレサイシン スミレ科

山地の林下にはえる多年草で、無茎で、葉はやや厚く、3角状長卵形ないし、3角状披針形で長くとがり、基部は深く湾入する。花期は4～5月。本州（福島県、

関東地方以西の太平洋側）～九州に分布し、北限地は福島県いわき市である。

県内では北部にはまれであるが、筑波山塊では沢沿いの林下などによく見られる。

調査地域では吾国山の沢沿いや難台山の沢沿いなどに見られる。

(20) コハウチワカエデ カエデ科

山地の林内にはえる落葉小高木で、葉は対生し、葉柄にわずかに毛がある。葉の裏面に白綿毛を密生するが、成葉では脈上に残る。花期は5～6月。本州から九州に分布する。

県内では北部の山地から筑波山塊まで知られるが、筑波山塊では個体数は少なくなっている。

調査地域での生育地は吾国山と難台山の上部に限られ、個体数も少ない。

(21) クロガネモチモチノキ科

常緑樹林にはえる常緑高木で、葉は互生し、葉柄は黒紫色、若い枝も黒紫色。花期は6月。果実は赤熟する。国内では本州（関東地方・福井県以西）～琉球に分布し、国外では朝鮮南部、中国大陸、台湾、ベトナムに知られている。

県内では常陸太田市真弓山、金砂郷町、御前山より南部の山麓部にわずかに知られている。

調査地域内では八郷町太田、岩間町愛宕山域で確認した。

(22) オオバチドメ セリ科

山地林下にはえる多年草。葉は大きく、表面に毛があり、へりはごく浅く切れ込む。花期は7～10月。国内では本州（関東地方以西）～九州に分布し、国外では東南アジア、東アフリカ、オーストラリアに知られている。

県内では北茨城市、常陸太田市真弓山、御前山の他数カ所に知られている。

調査地域では岩間町の愛宕山麓と八郷町真家に記録があるが、今回は確認できなかった。

(23) トウゴクミツバツツジ ツツジ科

山地にはえる落葉低木で、葉は枝先に3枚が輪生し、表面は無毛、裏面の主脈の下部に軟毛が密生する。花期は4～5月で、花は紅紫色、雄しべは10本で無毛。本州（山形県東部、宮城県以南～近畿地方）の太平洋側分布する。

県内では北部山地から筑波山までに点在している。調査地域内では吾国山頂域と難台山頂域に限られ、個体数も少ない。

(24) イズセンリョウ ヤブコウジ科

暖地の山地林内にはえる常緑低木で、枝がよく伸びる。葉は楕円形、濃緑色で光沢があり、まばらに低い鋸歯がある。花期は4～6月。本州（関東地方以西）～琉球に分布し、国外では中国大陸、台湾、インドシナに知られている。茨城県の笠間市仏頂山を北限地とする。

県内の生育地も限られている。筑波山塊でもまれである。

調査地域では岩間町難台山山麓と八郷町大増の大覚寺周辺で確認している。



図7. イズセンリョウ。

(25) ギンレイカ サクラソウ科

山地の湿り気のある所に生える多年草で、葉は互生し、裏面に赤褐色の細点がある。花期は6～7月、花冠は赤みをおびた白色。国内では本州、四国、九州に分布し、国外では朝鮮に知られている。

県内では北部の山地から筑波山塊まで記録されているが、生育地も個体数も少ない。

調査地域では八郷町中戸、笠間市本戸、岩間町上郷などで確認しているが、個体数は少ない。

(26) キジョラン ガガイモ科

照葉樹林にはえる木質のつる植物で、葉は対生し、卵円形。切り口からは白色の乳液を分泌する。花期は8～9月で、種子には白色の長い毛がある。国内では本州（福島県、関東地方以西）～琉球に分布し、国外では朝鮮南部に知られている。太平洋側では福島県いわき市四倉を北限地としている。

県内では北部では海岸に沿った暖地に、筑波山塊で

は山麓部のスギ林などに点在している。県レベルでは希少種に指定されている。

調査地域内では岩間町の愛宕山城と難台山域、吾国山の八郷町域のスギ林などに群生している。



図8. キジョラン。

(27) ツルギキョウ キキョウ科

山地にまれにはえるつる性の多年草で、葉は対生し、卵心形で薄い。花期は8～10月。国内では本州（関東地方以西）～九州で、国外では台湾に知られている。

県内では常陸太田市真弓山他数カ所に知られ、県レベルでは希少種に指定されている。調査地域内では愛宕山の山麓のスギ林で確認できた。

(28) サワシロギク キク科

日当たりの良い酸性の湿地にはえる多年草。葉は線状披針形で、やや硬く、表面の脈はへこんでしわがある。国内では本州～九州の温帯から暖帯に分布している。

県内では山間の湿地に多く見られるが、低地部にはきわめてまれである。

調査地域では岩間町の難台山域で確認したが、この地域ではまれである。

(29) スズラン ユリ科

山地や高原の草地にはえる多年草。花期は4～6月で、花は白色。国内では北海道、本州、九州に分布し、国外では朝鮮、中国、シベリア東部に知られている。

県内では北部山地から筑波山塊にかけて数カ所で見られている。

調査地域では岩間町の生育地は古くから知られ観光資源としても保護されている。他の地点では確認できなかった。

(30) ワニグチソウ ユリ科

山地の林下にはえる多年草。葉の裏面はやや粉白色。花期は5～6月で、花柄の先に2つの苞がつき、その内側に2個の花がつく。国内では北海道（西南部）～九州に分布し、国外では朝鮮、中国東北部、ウスリーに知られている。

県内では山地にややまれで、平地部にもまれに産する。

調査地域では難台山域では各所に見られるが個体数は少ない。吾国山ではまれである。



図9. ワニグチソウ。

(31) ユウシュンラン ラン科

山地林下にはえる多年草。ギンランに近く、葉が退化して鱗片状から小型で2 cm以下。北海道～九州に分布するがまれである。

県内でもまれで奥久慈男体山、西金砂山、仏頂山、筑波山などの記録がある。国レベルでは絶滅危惧Ⅱ類、県レベルでは危急種に指定されている。

調査地域では以前から確認していた吾国山頂域でシダ類の林下に生育している。葉は鱗片状から2 cmほどのものが1枚ついたものまでであった。

(32) ハクウンラン ラン科

山地の林下にはえる小型の多年草。葉は小さく長さ7 mm以下。花期は7～8月で花は白色。国内では本州、九州に分布し、国外では朝鮮に知られている。本州北部ではヒノキアスナロ林下であるが、それ以外の地域では常緑広葉樹と落葉広葉樹の混交林にはえるとされている。

県内では北部の北茨城市や里美村のブナ帯の山地にまれに生育するという記録がある。県レベルの危急種

に指定されている。

調査地域では愛宕山から難台山への尾根部の落葉樹林下に数カ所小さな群生が見られた。

(33) ヒトツボクロ ラン科

明るい山地林下にはえる多年草。目立つ葉は1枚で卵円形、表面は深緑色、裏面は紫色。花期は5～6月。国内では本州～九州に分布し、国外では朝鮮南部に知られている。

県内では山地に知られているが個体数は少ない。県レベルでは危急種に指定されている。

調査地域では吾国山で確認した。

(34) コ克蘭 ラン科

暖地の照葉樹林下にはえる多年草。葉は広楕円形で鋭頭。花期は6～7月で花は暗紫色。国内では本州（福島県南部以南）～九州に分布し、国外では中国本土、台湾に知られている。北限は福島県いわき市である。

県内では常陸太田市より南部の地域にまれに生育している。県レベルでは危急種に指定されている。

調査地域内では岩間町上郷の愛宕山城のアカマツ林下で2個体確認した。まれである。

(35) ナンダイミヤコザサ イネ科

節間に逆向きする細毛が密生するものをナンダイミヤコザサという。基準産地は難台山である。

Sasa nandaiensis Koidzumi in Acta Phytotax. Geobot. 6: 76 (1937)

Sasa nipponica Makino et Shibata form. *nandaiensis* (Koidzumi) S.Suzuki in Jap. J. Bot. 19: 437 (1967)

参考文献

福島県植物誌編さん委員会（編）. 1987. 福島県植物誌, 481 pp., 福島県植物誌編さん委員会.

茨城県環境保全課. 1997. 茨城における絶滅のおそれのある野生生物（植物編）. 253 pp., 茨城県環境保全課.

環境庁自然保護局野生生物課（編）. 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 8 植物 I（維管束植物）, 660 pp., 自然環境研究センター.

倉本嗣王. 1992. 筑波山系のシダ植物. 茨城の生物平成4年版. pp. 139-140. 茨城県高等学校教育研究会生物部.

大谷市右衛門. 1992. 筑波山塊の種子植物. 茨城の生

物平成 4 年版, pp. 141-146. 茨城県高等学校教育研究会生物部.

鈴木昌友・清水 修・安見珠子・安 昌美・藤田弘道・中崎保洋・和田尚幸・野口達也. 1981. 茨城県植物誌. 339 pp., 茨城県植物誌刊行会.

調査研究

安 昌美 (茨城県立水戸南高等学校長)

小沼信行 (小川町立下吉影小学校教諭)

執筆

安 昌美

仏頂山・佐白山の維管束植物

はじめに

仏頂山・佐白山は、笠間県立自然公園の中央部に位置しており、自然環境が保護されている山である。

仏頂山は茨城県と栃木県との県境、笠間市の北西部に位置する山で、麓の楞厳寺裏山付近には、暖帯性の植物が生育している。上部にはカエデ類などの落葉広葉樹が多く見られる。

仏頂山の麓にある楞厳寺裏山は、国指定の天然記念物ヒメハルゼミの発生地である。

佐白山は、笠間市市街の東部にある二連峰の山で、ほとんどが花崗岩から成り、南斜面は関東ロームにおおわれている。山頂付近には花崗岩が露出しているところもある。また、史跡や文化財も多く残っており、公園やハイキングコースも整備されている。城山として昔から自然が守られてきた場所である。

佐白山の麓は、クスノキ、ユリノキ、アカガシ、シラカシ、ソメイヨシノ、サワラ、イチヨウなどの大木がある山麓公園になっている。

佐白山の中腹には、スダジイやカシ類の林の中に千人留駐車場や市内が見下ろせる城跡公園がある。さらに、城の石垣が残っている山頂には、佐志能神社がある。佐白山の西側の愛宕台は、つつじ公園になっている。

この地域の植物については、茨城大学生物研究会や茨城県植物誌刊行会などによる調査や個人による断片的な調査報告がなされている。

調査方法

1. 調査地の選定

調査地は図1に示した範囲とした。北は栃木県境の仏の山峠からの登山道、西は関東ふれあいの道登山道までの仏頂山、および笠間市側の仏頂山麓とした。佐白山域は北のつつじ公園、中央の城山、東側の東沢の峰までとした。

2. 調査期間

平成9年度は予備調査と文献調査を行った。

現地調査4回

7月7日 8月4日

8月5日 10月10日

平成10年度は本調査と写真撮影を行った。

現地調査8回

6月19日 8月5日

8月14日 8月23日

8月27日 11月8日

11月13日 12月12日

平成11年度は本調査と写真撮影を行った。

現地調査14回

3月29日 4月10日

5月2日 5月5日

5月28日 7月10日

8月10日 9月25日

9月30日 10月31日

12月11日 1月8日

1月10日 1月16日

3. 調査項目

維管束植物（シダ植物、種子植物）を対象として、植物相と植生の概要の調査を行った。調査項目は次の通りである。

(1) 本調査地に生育する全植物の確認と記録。

(2) 本調査地の植生の概要。

(3) 生育する植物の採集と標本の作成（原則として花・実が付いている個体を採集、1種の植物につき、2～4点作成）。採集植物の目録は付表1に示した。なお、付表1に示した種数は次の通りである。

・確認種 776種

・文献種 41種

(4) 写真の撮影（採集した主な植物とその生育状況がわかる写真を撮影）。

結果

1. 仏頂山の植生概況

仏頂山は茨城県と栃木県との県境付近にあり、笠間市の北西部に位置する海拔430.9mの山である。山の中腹までカシ類、スダジイなどの常緑広葉樹林が広がり、上部にはコナラ、カエデ類、アカシデなどの落葉広葉樹が見られる。

仏頂山麓の笠間市片庭地区には、きれいな沢水の流れこむ水田がある。水田のあぜに春はゲンゲの花が、夏にはノカンゾウが美しい。山裾の畑には近年リンゴが植えられた。畑の土手には、早春にオオイヌノフグリ、ホトケノザ、フキのとうが見られ、5月ごろカントウタンポポ、セイヨウタンポポ、ヤハズエンドウ、スズメノエンドウ、コウゾリナ、ハハコグサ、ノアザミの花が見られる。秋にはノハラアザミやキクタニギク（アワコガネギク）の花が美しい。

楞嚴寺付近は暖かく、寺の境内にはフクレミカン、ナツミカンも育つ。大きなカヤやニッケイ、ラッキョウヤダケなど珍しい木がある。また、コヒロハハナヤスリも植込の元に見られる。

(1) スギ林

楞嚴寺の下には、沢に沿ってスギが植林されており、低木としてキブシ、アオキ、クロモジ、シロダモ、ガマズミ、タマアジサイなどが見られる。草本として春にはニリンソウ、ムラサキケマン、シャガ、ホウチャクソウ、タチツボスミレ、夏にはヤブカンゾウ、ヤマユリ、ハグロソウなどの花が目立つ。また、ベニシダ、リョウメンシダ、イワガネソウなどのシダ植物が茂っている。南向きの土手には、ホシダ、タチシノブ、カニクサが見られる。

(2) カシ・シイ・スギ林

楞嚴寺裏山のヒメハルゼミ発生地付近は、暖帯性の植物が最も多い所である。高木層としてシラカシ、スダジイ、スギなどがあり、亜高木層にはアラカシ、ヤブツバキ、リンボク、シロダモ、サカキ、タブノキ、ツクバネガシ、モチノキ、ウリノキなどが見られる。目通幹囲1.5 m 位のカゴノキも、数本点在している。

低木層としてはアオキ、ヒサカキ、クロガネモチ、ミヤマシキミ、ヤブニッケイ、ヒイラギ、カゴノキ、ウラジロガシ、イヌガヤ、ツルグミ、マンリョウ、サネカズラ、イズセンリョウ、ハナイカダなどが生育している。その中にキジョラン、ムベ、フジなどがからみついている。草本層にはカンスゲ、ナキリスゲ、シュンラン、コ克蘭、シャガ、ジャノヒゲ、キッコウハグマ、モミジガサ、ツルギキョウ、キジノオシダ、サトメシダ、オオバノイノモトソウ、イワガネソウ、リョウメンシダ、ベニシダ、トウゴクシダ、ハカタシダなどが見られる。

(3) 落葉広葉樹林

中腹付近の森林には、アカシデ、イヌシデ、ヤマザクラ、コナラなどの高木が多く、モミ、ハリギリ、シラカシなどが混じっている。亜高木層としてヤマボウシ、リョウブ、ウリカエデ、ウリハダカエデ、ウラジロガシが見られる。低木にはクロモジ、コバノガマズミ、オトコヨウゾメ、コゴメウツギ、サカキ、ツルグミ、ヤマツツジ、パイカツツジ、ミヤマシキミ、キブシ、ニワトコなどがある。草本はハエドクソウ、タチツボスミレ、カシワバハグマ、フタリスズカ、ヒメノガリヤス、チゴユリなどが生育している。

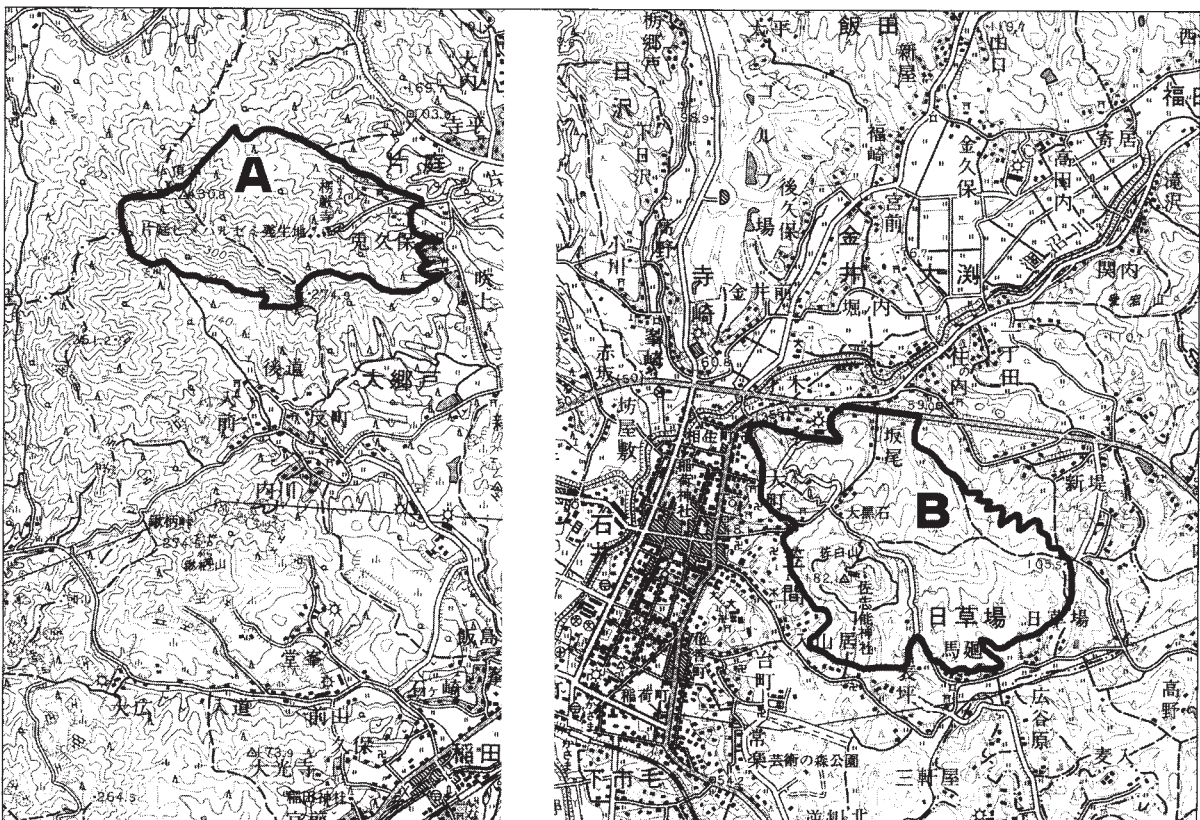


図1. 調査地 A: 仏頂山城 B: 佐白山城 (国土地理院発行 1: 50,000地形図「真壁」「水戸」を使用)。

さらに登っていくとアカマツが見られる。アカマツの中にアカシデ、ヤマザクラ、コナラ、アオハダ、ハリギリなどの高木が多い。亜高木としてウラジロノキ、ネジキ、エゴノキ、リョウブ、ヤマボウシ、ウリカエデ、ウリハダカエデ、ツノハシバミ、クロモジなどがあり、低木はヤマツツジ、ガマズミ、オトコヨウゾメ、コゴメウツギ、ツクバネ、ニガイチゴ、マルバアオダモ、コウヤボウキなどが生育している。草本は、フタリシズカ、タチツボスミレ、シラヤマギク、ミヤマナルコユリ、シュンラン、キンラン、チヂミザサ、ヒメノガリヤス、ワラビなどの間にチゴユリの大群落がある。登山道のへりにヒトツボクロが見られた。

山頂下の雑木林内は、ヤマザクラ、ホオノキ、ハリギリ、コナラなどの大木にテイカカズラやフジがからみつき、山の手入れがなされていないため植物の種類が多い。ヤマボウシ、コハウチワカエデ、ダンコウバイ、ミヤマガマズミ、オトコヨウゾメ、ムラサキシキブ、ネジキなどの亜高木やナツハゼ、ニシキウツギ、ツルグミ、ヒサカキ、コアジサイ、モミジイチゴ、コウヤボウキ、ヤブコウジなどの低木が生育している。以前あったイヌブナはかなり少なくなってしまった。草本はヤマユリ、オオナルコユリ、ナルコユリ、ヤマジノホトトギス、チゴユリ、ニオイタチツボスミレ、イチヤクソウ、タガネソウ、ナキリスゲ、ヘビノネゴザ、ワラビなどやシュンラン、キンラン、ギンラン、ミヤマウズラ、ヒトツボクロなどのラン科植物が生育している。

山頂へ向かう急斜面の東側には雑木林が、西側には人工のヒノキ林がある。雑木林内にはコナラ、アカシデ、クマシデ、イタヤカエデ、イヌブナ（少ない）の中に高さ4～5mのヒサカキやシラカシ、ウラジロガシなどの常緑樹が混じっている。チゴユリ、ナルコユリ、ヤマジノホトトギス、ツクバキンモンソウ、キッコウハグマ、ベニシダ、トウゴクシダ、オオベニシダなどの下草が生育している。ヒノキ林内には植物が少なく、アオキ、ミヤマシキミ、ヤブコウジ、テイカカズラ、コウヤボウキなどの低木の中にジャノヒゲ、オオベニシダなどが見られる。

山頂付近は雑木林でコナラ、クヌギ、クリ、ヤマザクラ、アカシデ、ホオノキなどの大木の中にイタヤカエデ、クマシデ、エゴノキ、クロモジ、アオハダ、クマノミズキなどの亜高木が生育し、アケビ、ミツバアケビ、テイカカズラ、フジ、ツタウルシなどがからみついている。また、ニシキウツギ、オトコヨウゾメ、コバノガマズミ、ムラサキシキブ、サワフタギ、コゴ

メウツギ、ゴンズイ、ヤマウグイスカグラ、コアジサイ、ニワトコ、モミジイチゴ、ヤマツツジなどの低木がおおい茂っている中にアオキ、ヒイラギ、ヒサカキ、イヌツゲなどの常緑の低木も混生している。草本は、ツクバキンモンソウ、ニオイタチツボスミレ、キンミズヒキ、オクモミジハグマ、センボンヤリ、キッコウハグマ、キバナアキギリ、チゴユリ、ナルコユリ、ミヤマナルコユリ、ヤマジノホトトギス、トウギボウシ、マムシグサなどが生育している。

2. 仏頂山で注目すべき植物

仏頂山で注目すべき植物は、キジノオシダ、ハカタシダ、コヒロハハナヤスリ、ヨウラクラン、ヒトツボクロ、ムヨウラン、コクラン、ツクバネガシ、ヤブニッケイ、クロガネモチ、リンボク、ミヤマトベラ、ミヤマフユイチゴ、ムベ、サカキ、イズセンリョウ、マンリョウ、キジョラン、ツルギキョウ、オオバチドメ、カゴノキなどがあげられる。

(1) コヒロハハナヤスリ ハナヤスリ科

楞嚴寺境内の植込の間に生育している。栄養葉は、広卵形～長楕円形で葉の基部には変化が多い。個体数が少なく、笠間市内の生育地も減っているため、大切にしたい。

(2) ハカタシダ オシダ科

楞嚴寺裏山の暖帯性植物が多く見られる斜面に10株位生育している。葉は斑がなく緑色で大きく、生育状況は大変良い。コクランが見られる沢にも数株生育している。

(3) ムヨウラン ラン科

楞嚴寺裏山の麓と暖帯性植物が多く見られる斜面に2株生育していた。花は、黄褐色で、7月初旬に咲いていた。

(4) ヨウラクラン ラン科

楞嚴寺裏山の暖帯性植物が多く生育している林の中の倒木にたくさん着いていた。茎が3cm位のものには花が見られる。

(5) コクラン ラン科

楞嚴寺裏山のやや湿ったカシ林下に生育している。7月中旬に新茎の葉の間からのびた茎に黒紫色の花が咲く。種子から芽生えた小さな個体も見られる。



図2. ムヨウラン

(6) クロガネモチ モチノキ科

暖帯性の常緑樹，葉は広楕円形で毛がなく皮質である。楞巖寺裏山に生育している。大きいものは少ないが，樹高1～2m位のものたくさんある。なお市内の民家には目通幹周囲1m位のものがあり，実をつけている。

(7) ミヤマトベラ マメ科

楞巖寺裏山の暖帯性植物が多い林の中にわずかに生育している。冬枯れした1月に種子から芽生えた小さい個体を数本確認することができた。

(8) イズセンリョウ ヤブコウジ科

楞巖寺裏山の沢ぞいのカシ・シイ林下に生育している。高さ1m位で，初夏に花が咲く。佐白山のものより生育状況が良い。

(9) キジョラン ガガイモ科

楞巖寺裏山から仏頂山の中腹まで生育している。特に楞巖寺裏山には大きなものが多く，カシ類やスギの幹にからみついている。

(10) ツルギキョウ キキョウ科

楞巖寺裏山の暖帯性植物が多い林の中にたくさん生育している。茎が長くのび，他の物にからみ初秋に花が咲く。初冬には紫色の美しい液果を見た。

3. 佐白山の植生概況

佐白山は笠間市のほぼ中央部に位置し，高さ182.1m

の低い山であるが，笠間県立自然公園として，保護されており，植物の種類が多い。また，笠間城址で，「城山」と呼ばれ，春のサクラ，ツツジ，初夏のアジサイ，秋のキク祭りでにぎわっている。

カシ類，スタジイの常緑広葉樹林内には暖帯性の植物が多く生育しており，オオキジノオ，キジノオシダ，オオベニシダのようなシダ植物や，カヤラン，クモランなどの着生ランが見られる。

山頂付近にはヒトツバの群落や果実をつけたイタビカズラが生育している。また，北東斜面にはウスギムヨウランが点在している。

東沢の林内にはウラジロの大群落やマンリョウ，サカキ，サネカズラ，ジュズネノキ，イズセンリョウ，ハイチゴザサなどの暖帯性の植物やヒナノシャクジョウなど珍しい植物が見られる。

つつじ公園となっている愛宕台には，コシダの群落がモミの樹下に広がっている。

山麓には小さな沢がいくつもあり，モウセンゴケ，サワギキョウなどの湿地の植物が生育している。トウキョウサンショウウオやマムシも生息している。山麓の墓地に以前生育していたコハナヤスリ，コヒロハハナヤスリは見られなくなってしまった。除草剤の影響と思われる。

(1) アカマツ林

佐白山の南側斜面や山をとりまく地域にはアカマツ林がある。30年位前からアカマツが枯れはじめたが，まだ残っている。林内には，ガマズミ，ネジキ，ヤマツツジ，ナツハゼ，ヒサカキ，コアジサイなどの低木があり，草本は，ススキ，ヒメノガリヤス，ヒメヤブラン，アキノキリンソウ，シラヤマギク，リンドウ，センブリ，ワラビ，ヘビノネゴザ，ハリガネワラビなどが見られる。

(2) スギ林

佐白山の北側と東沢の峰には，人工のスギ林が美しい。スギ林内はうす暗く，アオキ，ハナイカダ，タマアジサイ，サカキ，ミヤマシキミなどの低木の下に，カンズゲ，ヤブラン，キチジョウソウ，ヤブコウジ，ベニシダ，トウゴクシダ，リョウメンシダ，ミゾシダなどの草本が生えている。

(3) 常緑広葉樹林

佐白山の城山をとりまいて，カシ類・スタジイの常緑広葉樹林の中には，暖帯性の植物であるサカキ，サ

植 物

ネカズラ、リンボク、クロガネモチ、マンリョウ、カラタチバナ、ミヤマシキミ、イタビカズラ、フユイチゴ、ミヤマフユイチゴ、ムラサキニガナ、ササクサ、ヤブミョウガ、キチジョウソウなどが生育している。また、ウラジロ、キジノオシダ、オオキジノオ、オオベニシダ、トウゴクシダ、マルバベニシダなどのシダ植物やクモラン、カヤランなどの着生ランも見られる。

(4) ヒノキ林

佐白山の南側石倉付近には、ヒノキの自然林が見られる。東側の百坊跡や東沢の峰には、人工のヒノキ林がある。石倉付近では、アカマツと混生しており、下にウラジロガシ、ネジキ、リョウブ、ナツハゼ、ウスノキ、ホツツジ、ヤマツツジなどの低木が生育している。人工のヒノキ林下には、あまり植物が見られないが、アオキ、ヒサカキ、ハナイカダ、マンリョウ、ツルリンドウ、キッコウハグマなどが生育している。

(5) 落葉広葉樹林

佐白山の山麓をとりまく地域は、コナラ、アカシデなどの落葉広葉樹林である。コナラ、クヌギ、アカシデ、イヌシデ、クリなどの高木の中にガマズミ、ネジキ、ナツハゼ、ヤマツツジ、ムラサキシキブ、イボタノキなどの低木が見られる。草本としては、ササクサ、ノガリヤス、アブラススキ、タガネソウ、チゴユリ、アキノキリンソウ、カシワバハグマ、シラヤマギク、リンドウ、ヘビノネゴザ、ハリガネワラビなどである。

4. 佐白山で注目すべき植物

佐白山で注目すべき植物は、オオキジノオ、イノモトソウ、マルバベニシダ、コシダ、ヒトツバ、ヒナノシクジョウ、リンボク、クロガネモチ、サカキ、ツクバネガシ、マンリョウ、カラタチバナ、キジョラン、タカクマヒキオコシ、イズセンリョウ、カヤラン、クモラン、ウスギムヨウラン、ハイチゴザサ、エンコウソウ、ブナ、マツグミ、ジュズネノキなどがあげられる。

(1) オオキジノオ キジノオシダ科

佐白山の北西側水源地付近に生育している。キジノオシダより個体数が少ない。混生している所もあるが中間型は見られない。

(2) イノモトソウ イノモトソウ科

佐白山周辺の暖かい石垣などに、1株位ずつ生育して

いる。高さは20 cm 位で実葉も見られる。最近増えている。

(3) コシダ ウラジロ科

暖地に多い常緑のシダ植物で、葉の下面は白色をおびている。同じ科のウラジロより小型である。

佐白山つつじ公園の群落は、茨城県では珍しいほどよく茂っている。

(4) ヒトツバ ウラボシ科

暖地の乾いた樹上や岩上に根茎をのばして着生している常緑のシダ植物である。根茎のところどころから披針形の厚くてかたい単葉をだす。胞子囊群をもつ葉は、裸葉より幅がせまく長い。佐白山の頂上付近に大きな群落があり実葉も見られる。



図3. ヒトツバ。

(5) ヒナノシクジョウ ヒナノシクジョウ科

佐白山から東沢の峰に行く沢ぞいの北斜面に生育している。高さ2~5 cm 位で、全体が白色である。花は初秋に咲く。果実は初冬まで観察できる。

(6) カヤラン ラン科

佐白山ではモミ、カシ類、スタジイなどに着生して



図4. カヤラン。

いるが、湿度の高いカシ・シイ林内に多く見られる。4～5月に淡黄色の美しい花が咲く。

(7) クモラン ラン科

根が気根となってクモのようにひろがっている着生ランである。佐白山では、カシ類、スタジイ、クリ、コナラ、モミなどに着いており、6月ごろ小さい花が咲く。山麓の屋敷の庭木にも見られる。



図5. クモラン。

(8) ウスギムヨウラン ラン科

佐白山の東側斜面に多く見られるが全山に生育している。高さ10 cm 位になり、花は白色でわずかに紫色をおびている。高さ20 cm 位になり数本が株立になっているものもあった。花後果実をつけ全体が黒くなり、冬まで見られる。



図6. ウスギムヨウラン。

(9) エンコウソウ キンポウゲ科

佐白山東側の湿地にわずかに生育している。4月下

旬～5月上旬ごろ斜上した茎の上部に花をつける。茎は長く株から四方に広がり地について節から根を出している。

(10) ブナ ブナ科

佐白山東側斜面（海拔約150 m）に、胸高直径110 cmの大きなものが1本生育している。以前は2本あったが現在は1本しか見あたらない。

(11) ジュズネノキ アカネ科

東沢のスギ林、カシ・シイ林、ヒノキ林内の沢沿いや沢の上部に数カ所生育している。刺の長さは、4～9 mm、葉の長さは、2～4 cm 位である。3カ所で確認したが、根は数珠状になっていなかった。果実をつけている個体も多くある。

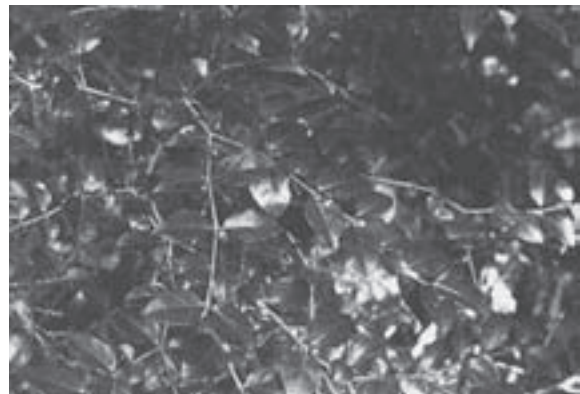


図7. ジュズネノキ。

参考文献

- 安見珠子. 1964. 佐白山のシダ植物. フロラ茨城, 26.
- 安見珠子. 1968. 笠間市付近のシダ植物目録. フロラ茨城, 40.
- 安見珠子. 1975. コヒロハハナヤスリの産地. フロラ茨城, 67.
- 安見珠子. 1981. 佐白山・吾国山の植物. 茨城の生物第2集. pp., 136-138. 茨城県高等学校教育研究会生物部.
- 茨城県植物研究会代表安 昌美. 1986. 茨城植物研究第1号. 98 pp. 茨城植物研究会.
- 笠間の自然編集委員会 (編). 1992. 笠間の自然. 297 pp., 笠間市教育委員会.
- 鈴木昌友・清水 修・安見珠子・安 昌美・藤田弘道・中崎保洋・和田尚幸・野口達也. 1981. 茨城県植物誌. 339 pp., 茨城県植物誌刊行会.

植 物

調査研究

安見珠子（笠間市立佐城小学校教頭）

安見迪生（元笠間市立南小学校長）

執筆

安見珠子

鶏足山・御前山の維管束植物

はじめに

御前山から鶏足山は茨城県と栃木県との境を南北に細長く結ぶ地域で、標高300 m 前後の山並みが続いている。この地域は暖帯性と温帯性の植物が混在し、生育している。植生の大部分はスギ・ヒノキ林であり、アカマツ林、コナラなどの雑木林が散在している。自然植生のひとつと考えられる常緑広葉樹林は少なく、カシ林がわずかに見られる。また、御前山のスギ、ヒノキの一部は自然分布と考えられている(林, 1969)。

御前山は東茨城郡桂村と御前山村にまたがる海拔約200 m の山である。旧藩時代は留山として保護され、現在は御前山県立自然公園となっている。四季を通じての御前山の眺めは素晴らしく、「常陸嵐山」の呼び名もある。登山コース是那珂川大橋のたもとからスギ林やカシ林をぬけて見晴らし台に至るルートと皇都川沿いに赤沢林道に進み、鐘楼堂に至るルートが主である。頂上から尾根沿いに進むと青少年旅行村に向かうこともできる。御前山の北側是那珂川、西側は相川、東南側は皇都川が流れていることもあり、多湿な沢が多い。また含石灰質粘板岩及び細粒砂岩やケイ岩からなる急峻な断崖が見られ、岩上にはイワヒバ、シシラン、フクロシダ、ヤシャゼンマイ、マメツタランなどの特徴ある種類が生育している。

鶏足山は、茨城県西茨城郡七会村と栃木県芳賀郡茂木町にまたがる海拔431 m の山である。山頂近くに鶏の足の形をした岩があり、このことから鶏足山と呼ばれている。この付近の岩場ではかつてヒナランが生育していた記録がある。登山ルートは上赤沢から県境を尾根沿いに登るコースと県道鶏足山線の赤沢から沢沿いに登るコースなどがある。頂上付近や尾根筋はアカマツ林で占められ、ヤマツツジ、ヤマハギ、ナツハゼ、ウスノキなどの低木類が目立つ。山麓から中腹までの沢沿いはスギの植林が多く見られ、林床にはイワガネソウ、ベニシダ、ジュウモンジシダ、シケシダなどのシダ植物が目立つ。また、下赤沢大沢開拓付近の砂防ダム上部にはヌマガヤの優占する湿地があり、ヤマラッキョウ、コオニユリ、クサレダマなどの湿地性植物が見られる。

仏国寺は、西茨城郡七会村の北東部に位置し、付近には海拔355 m の高取山がある。寺院の南東部には数カ所の岩塊がありヒカゲツツジ、ヒトツバ、カタヒバ、ヌリトラノオなどのシダ植物が着生している。沢沿い

のスギ・ヒノキ林は低木層にアオキ、ヤブツバキ、ハナイカダ、草本層にヤマイトチシダ、フタバアオイ、ホウチャクソウ、カンスゲ、ミヤマカンスゲなどが見られる。

この調査は茨城県自然博物館による平成9年度から11年度にわたるものである。

調査地域のフロラに関してはこれまでいくつかの報告がある。茨城県植物誌(1981)は県内のフロラについて唯一まとめたもので、御前山、鶏足山に産する種類が多数取り上げられている。

御前山のフロラに関しては、茨城大学生物教育学会(1976)が、周辺地域の白山や住谷山に関しては安(1988)などの他、断片的な報告がある。

鶏足山のフロラに関しては小倉(1972)による報告があるにすぎない。

調査方法

1. 調査地の選定

調査地は図1に示した範囲とした。北側是那珂川、南側は七会村を通る県道鶏足山線～県道阿波山徳蔵線沿い、西側は栃木県との境、東側は白山神社から高取山を結ぶ範囲である。

2. 調査期間

平成9年度は文献調査と6回の予備調査を行った。

5月19日	御前山地域
8月27日	鶏足山地域
1月24日	鶏足山地域
2月8日	鶏足山地域
3月19日	鶏足山および御前山地域
3月28日	鶏足山地域

平成10年度は延べ6回の調査を行った。

4月21日	御前山地域
5月7日	鶏足山地域
5月9日	鶏足山地域
5月20日	鶏足山地域
6月20日	鶏足山地域
9月13日	鶏足山地域

平成11年度は延べ35回の調査を行った。

4月10日	鶏足山地域
4月16日	鶏足山地域
4月17日	鶏足山地域
4月24日	鶏足山地域
4月26日	鶏足山地域
5月1日	鶏足山地域

植 物

5月4日	鶏足山地域	8月9日	鶏足山地域
5月8日	鶏足山地域	8月20日	鶏足山および御前山地域
5月16日	鶏足山地域	8月23日	鶏足山地域
5月20日	御前山地域	8月24日	鶏足山地域
5月21日	御前山地域	8月28日	鶏足山地域
5月22日	仏国寺付近	8月31日	鶏足山地域
5月23日	鶏足山地域	9月14日	鶏足山地域
5月29日	鶏足山地域	9月15日	鶏足山地域
6月5日	御前山地域	9月25日	御前山地域
6月26日	鶏足山地域	10月2日	鶏足山地域
6月28日	仏国寺付近および御前山地域	10月6日	鶏足山地域
7月1日	鶏足山地域	10月11日	鶏足山地域
7月19日	鶏足山地域	10月13日	御前山地域
7月30日	御前山地域	10月17日	御前山地域
8月6日	鶏足山地域		

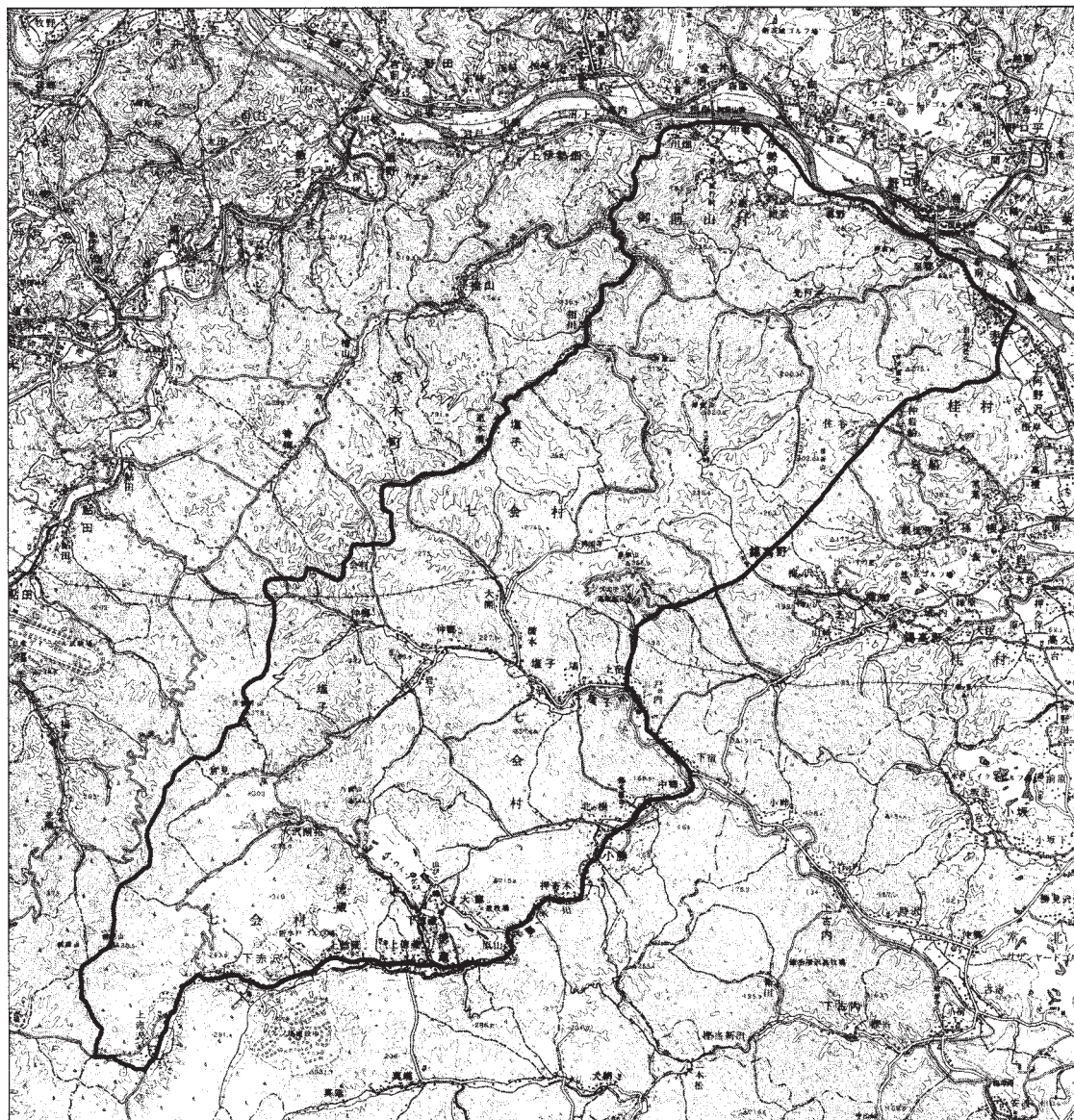


図1. 調査地（国土地理院発行1：50,000地形図「鳥山」「常陸大宮」「真岡」「水戸」の原図を1/2に縮小して使用）.

3. 調査項目

維管束植物（シダ植物，種子植物）を対象として，植物相と植生の調査を行った。調査項目は次の通りである。

- (1) 調査地に生育する全植物の確認と記録。
- (2) 調査地の植生の概要。
- (3) 生育する植物の採集と標本の作成（原則として花・実が付いている個体を採集，1種の植物につき，2～4点作成）。採集植物の目録は付表1に示した。なお，付表1に示した種数は次の通りである。

- ・確認種 934種
- ・文献種 55種

- (4) 写真の撮影（採集した主な植物とその生育状況がわかる写真を撮影）。

結果

1. 植生の概況

(1) カシ林

御前山の皇都川沿いや那珂川沿いの斜面にはカシ林が見られる。

那珂川沿いの北側斜面には，岩が露出した所にアラカシ林が見られる。高木層はアラカシ，シラカシ，ウラジロガシ，モミなどで占められ，樹幹にはコケ類やテイカカズラが着生している。亜高木層にはヤブツバキ，イヌガヤ，アラカシ，サカキ，ウワミズザクラ，ウリカエデ，低木層にはアオキ，コアジサイ，ヤブムラサキなどが見られる。草本層はコカンスゲとカンスゲの2種類が目立ち，キジノオシダ，ベニシダ，ヤマイヌワラビ，ヒロハイヌワラビ，オオベニシダ，ハリガネワラビ，マメヅタなどのシダ植物が多い。また付近の岩上にはフクロシダ，シシラン，ウチワゴケ，カタヒバナなどのシダ植物やイワタバコ，テイカカズラなどが目立つ。

また，アラカシやウラジロガシなどの常緑広葉樹とイヌブナ，コナラなどの落葉広葉樹が混じり，優占種が明らかでない林もある。ここでは亜高木層にアオハダ，オオバマンサク，ウワミズザクラ，タカノツメ，アラカシ，低木層はツクバネ，シキミ，コアジサイ，ウラジロガシなどが出現するが植被率は低い。しかし，草本層は植被率が高く，コカンスゲで一面覆われ，シシガシラ，ミヤマイトチシダ，ベニシダなどのシダ植物やオオバマンサク，バイカツツジ，モミ，コバノガマズミ，ウラジロノキ，リョウブなどの幼木が目立つ。

(2) スギ・ヒノキ林

スギ・ヒノキの植林はこの地域で最大の面積を占める。スギは湿り気のある沢沿い，ヒノキはやや乾燥した斜面などに植林されている。またスギとヒノキの混植林もある。スギ・ヒノキ林の種類構成は立地の違いばかりではなく，林齢，植栽密度，育林作業のちがいなどによって異なっている。ヒノキ林は内部が乾燥して暗いので林床に生育する植物はスギ林より少ない。御前山と鶏足山のスギ林とヒノキ林の植生は次のようである。

御前山の山麓部では胸高直径30～35 cm のスギ林が見られ，低木層はアオキが優占している。早春の林床はハルトラノオ，ニリンソウ，トウゴクサバノオなどが群生しミヤマカタバミ，ユリワサビ，リョウメンシダ，カンスゲ，フユイチゴ，ミヤマフユイチゴ，コバギボウシ，ウワバミソウ，セントウソウ，キバナアキギリ，ミズヒキ，イヌショウマ，コウモリカズラ，ホウチャクソウなどが見られ，草本層を構成する種類が非常に多い。

鶏足山（七会村下赤沢）のスギ林では低木層にタマアジサイが優占し，草本層にはキヨタキシダ，クマワラビ，ホソバナライシダ，ゼンマイ，ジュウモンジシダ，イノデ，ヤマイヌワラビ，ホソバシケシダ，ミヤマシケシダなどのシダ類が目立っている。

ヒノキ林（七会村上赤沢）は亜高木層が発達せず，低木層はアズマネザサが優占している場合が多い。草本層の植被率は少なくヤブソテツ，オクマワラビ，ミゾシダ，イヌワラビなどのシダ植物の他，センニンソウ，ドクダミ，ダイコンソウ，ヤマブキ，フジ，ミヤマカタバミ，アマチャヅル，タニギキョウ，コウヤボウキ，オオバジャノヒゲ，タチシオデ，チゴユリ，サルトリイバラ，コバギボウシ，ヤマジノホトトギス，ヒメカンスゲなどが見られる。

(3) アカマツ林

アカマツ林は御前山では比較的少ないが，鶏足山では松枯れの被害が少なく，尾根筋などの乾燥した場所を中心にかなりの面積が残っている。

御前山の尾根筋のアカマツ林の構成種は亜高木層にヤマウルシ，コナラ，タカノツメ，低木層にトウゴクミツバツツジ，ヤマツツジ，バイカツツジなどのツツジ類，草本層にウスノキ，ツルリンドウ，アラカシ，オトコヨウゾメ，コバノガマズミ，ウラジロなどが見られる。

鶏足山（七会村上赤沢）では亜高木層にコナラ，ヤマウルシ，リョウブ，ヤマボウシ，ネジキ，低木層に

植 物

ヤマツツジ (優占種), クロモジ, ヒサカキ, ウワミズザクラ, ヤマウルシ, イヌツゲ, ゴンズイ, リョウブ, ネジキ, ミヤマガマズミ, オトコヨウゾメ, 草本層にチゴユリ (優占種), アラカシ, シラカシ, コナラ, コアジサイ, ヤマウルシ, イタヤカエデ, ウリカエデ, ウリハダカエデ, ハリギリ, ナツハゼ, ヤブコウジ, ツルリンドウ, コウヤボウキ, タチシオデ, サルトリイバラ, ミヤマナルコユリ, ヤマユリ, タチドコロ, ミヤコザサ, シュンラン, ノヤマトンボなどが見られる。

(4) コナラ林

御前山の北側に見られるコナラ林はモミ, アラカシ, アカシデなどが混在し, 樹幹にはマメツタやノキシノブが着生している。亜高木層にはアオハダ, オオバマンサク, タカノツメ, アラカシ, ウワミズザクラ, 低木層にはツクバネ, モミ, コバノガマズミ, バイカツツジ, コアジサイ, シキミ, アラカシ, ウラジロガシ, 草本層はコカンスゲ (優占種), ミヤマシキミ, ヤブコウジ, シシガシラ, ミヤマイトチシダ, モミ, コバノガマズミ, テイカカズラ, ツタウルシ, ベニシダ, ササクサ, ヤブツバキ, ゼンマイ, ヤマユリ, ミヤマナルコユリ, トウギボウシ, ウラジロノキ, タチドコロ, ツクバネウツギ, コウヤボウキ, ウスノキ, イロハモミジ, リョウブ, ツルアリドオシなどが見られる。

鶏足山 (七会村下赤沢) では高木層のコナラに混じってアカマツ, ヤマザクラ, ハリギリなどが見られる。亜高木層にはシラカシ, シラキ, アオハダ, ヤマボウシ, 低木層はヤマツツジが優占し, クロモジ, ダンコウバイ, ヒサカキ, コアジサイ, ウラジロノキ, シラキ, ウリカエデ, リョウブ, ネジキ, ヤブムラサキ, ムラサキシキブ, オトコヨウゾメ, コバノガマズミ, 草本層にゼンマイ, コアジサイ, フジ, ヤマウルシ, ウリカエデ, フモトスミレ, ウスノキ, コバノガマズミ, ミヤマガマズミ, コウヤボウキ, オクモミジハグマ, チゴユリ, オニドコロ, タチドコロ, ノガリヤス, ホソバヒカゲスゲ, タガネソウ, シュンランなどが見られる。

(5) クヌギ林

鶏足山 (七会村上赤沢) の手入れされたクヌギ林では, 林床の構成種は多くゼンマイ, スギ, コナラ, クリ, ミツバアケビ, アオツツラフジ, コゴメウツギ, ワレモコウ, カスミザクラ, ミツバツチグリ, ズミ,

モリイバラ, テリハノイバラ, フジ, ヤマハギ, タチツボスミレ, タラノキ, ノダケ, ナツハゼ, オカトラノオ, サワフタギ, コバノカモメヅル, ヤマハッカ, ママコナ, ガマズミ, オトコヨウゾメ, ツリガネニンジン, シラヤマギク, ノアザミ, ニガナ, アキノキリンソウ, ヨモギ, チゴユリ, トウギボウシ, サルトリイバラ, タチシオデ, ミヤマナルコユリ, ヤマユリ, オニドコロ, アズマネザサ, ススキ, ノガリヤス, コチヂミザサ, ヒカゲスゲ, ササバギンラン, ノヤマトンボなどが見られる。

(6) ケヤキ林

皇都川沿いのケヤキ林は明治17年に植林された。現在は学術参考林として保護され, 同時に植生の変化も記録されている。林床にはアズマネザサが優占しているが, 春にはカタクリ, アズマイチゲ, ニリンソウ, イチリンソウ, キクザキイチゲ, キバナノアマナ, ハルトラノオ, セントウソウ, ヒメニラ, ヒカゲスミレ, ツボスミレなどが見られる。

(7) カツラ林

御前山の北側には植林されたと思われる胸高直径30~60 cm のカツラの純林がある。亜高木層にはカツラ, ヤブツバキ, シラキ, アラカシ, 低木層にはアオキが優占している。草本層にはクマワラビ, カンスゲ, オオバジャノヒゲ, ヤマイタチシダなど見られるが植生率は低い。

(8) 湿地

鶏足山付近では沢沿いに湿地が所々に見られる。下赤沢ではヌマガヤ (優占種) に混じって, ミズオトギリ, チダケサシ, ノイバラ, テリハノイバラ, ツリフネソウ, ツボスミレ, クサレダマ, ヒメシロネ, ゴマナ, ヤマラッキョウ, コオニユリ, コイヌノハナヒゲなどが生育している。

(9) 休耕田

御前山や鶏足山の山麓部には休耕田が各所で見られる。休耕田の植生は変化しやすく, 出現種は年毎に変化する。鶏足山 (七会村上赤沢) に見られる休耕直後のところでは, コナギ, スギナ, ミゾハコベ, チョウジタデ, アゼナ, タカサブロウ, オモダカ, ウキクサ, ハリイなどが見られる。

休耕して2~3年過ぎ乾燥した御前山 (御前山村下伊勢畑) の休耕田では, セイタカアワダチソウが優占

するようになり、マツカサススキ、アブラガヤ、イヌホタルイ、カヤツリグサ、マツバイなどのイネ・カヤツリグサ科の植物が混じって見られる。

2. 注目すべき植物

(1) カタヒバ イワヒバ科

本州（宮城県以南）～九州に広く分布。常緑性のシダで岩上などに生育する。地上茎は3～4回羽状に分岐し、長さ10～25 cm。御前山から鶏足山まで分布しているが生育地が岩場なので個体数は少ない。県レベルでは希少種に指定されている。

(2) イワヒバ イワヒバ科

北海道～沖縄に分布。常緑性の草本でやや湿った岩上に生育する。葉は卵形または長卵形で長さ10～20 cmで乾くと内側に巻き込む。御前山から鶏足山まで分布しているが乱獲され、小さな個体がわずかに見られた。県レベルでは危急種に指定されている。

(3) ミズニラ ミズニラ科

北海道～九州に分布する夏緑性のシダ。葉は長さ10～30 cm。御前山から鶏足山にかけての数カ所で確認した。生育地は休耕田や谷津田などで大きな群落も見られた。県レベルでは希少種に指定されている。

(4) コシダ ウラジロ科

本州（福島県以南）～沖縄に分布。日当たりのよい乾燥した場所にはえる常緑性のシダ。葉は2～4回叉状に分かれる。暖地性シダで県内各地にややまれに分布する。御前山の乾燥したアカマツ林の下にわずかに生育していることを確認した。

(5) シシラン シシラン科

本州（関東地方以西）～沖縄に分布。常緑性草本で



図2. シシラン。

山地の湿った岩上に生育する。根茎は短く匍匐する。葉身は革質で、長さ15～45 cm。孢子嚢群は辺縁に近い葉の裏の溝にできる。県内では大子町と御前山に記録がある。今回の調査で御前山の生育地を再確認した。県レベルでは危急種に指定されている。

(6) シノブカグマ オシダ科

北海道～九州に分布。ブナ林から針葉樹林の林床にはえる常緑性のシダ。高萩市や三鈷室山などの県北山地や鶏足山に記録がある。今回の調査で七会村下赤沢の標高250 mのスギ林下で1個体確認した。

(7) キヨスミヒメワラビ オシダ科

本州（東北地方以南）～九州に分布。陰湿な林下に生育する常緑性のシダ。根茎は塊状。葉柄は長さ20～50 cm。葉が若い時、鱗片は白色透明でのちに褐色になる。葉身は広卵状長楕円形で長さ35～55 cmで大型。県内では笠間市、吾国山に記録がある。今回の調査で鶏足山の2カ所で確認した。生育地はどちらもスギ林下で個体数は少ないが生育状態はよい。県レベルでは希少種に指定されている。



図3. キヨスミヒメワラビ。

(8) イノデモドキ オシダ科

本州（山形県、関東地方以西）～九州に分布する日本固有種。山地の林床に生育する常緑性のシダ。根茎は短く塊状で鱗片をつける。県内では県北山地や筑波山、千代田町などに記録がある。今回の調査で御前山の湿潤な沢沿いに生育を確認した。県レベルでは希少種に指定されている。

(9) ウスヒメワラビ メシダ科

本州（東北地方南部以南）～九州に分布。比較的湿潤な林下に生育する夏緑性のシダ。根茎は横走する。葉柄は長さ20～30 cm。県内では県北山地や御前山、七

植 物

会村に知られている。今回の調査で御前山の生育地を1カ所確認した。県レベルでは希少種に指定されている。

(10) ヒトツバ ウラボシ科

本州（茨城県以西）～沖縄に分布。乾燥した岩上にはえる常緑性のシダ。根茎は長くは、葉は厚くて裏面は褐色。県内では七会村と佐白山の産地がある。今回の調査で七会村での生育地を再確認した。県レベルでは危急種に指定されている。

(11) コバノイシカグマ コバノイシカグマ科

本州（東北地方中部以南）～九州に分布。根茎は長く匍匐し、長さ2～4mmの毛がある。全体に毛があるが、毛が落ちた後も基部が残りざらつく。葉身は三角状長楕円形で長さ20～60cm、両面にあら毛がある。今回の調査で鶏足山で確認した。県内では銚田町に記録があるが、その後未確認であった。県レベルでは希少種に指定されている。

(12) ヌリトラノオ チャセンシダ科

本州（関東地方以西）～九州に分布し、山林中やや湿った岩上などに生育する常緑性のシダ。根茎は短く斜上し、葉は叢生する。葉身は単羽状、披針形から線状披針形で上部に芽をつける。県内では御前山と仏国寺に記録がある。今回の調査で2カ所の産地を再確認した。個体数は比較的多いが、県内の産地が少ないので貴重である。県レベルでは危急種に指定されている。

(13) コタニワタリ チャセンシダ科

北海道～九州に分布し、やや湿り気のある林床に生育する常緑性のシダ。根茎は短く、斜上し、葉を放射状に出す。葉は単葉で披針形、長さ12～50cm。県内では水府村、吾国山、常陸太田市などで確認されている。今回の調査で鶏足山のヒノキ林下に貧弱な1個体を確認した。県レベルでは危急種に指定されている。

(14) コゴメヤナギ ヤナギ科

本州（関東地方～近畿地方）に分布。日当たりのよい川岸や湿地にはえる高さ10～20mの落葉高木。樹皮は黒褐色で縦に裂ける。葉の裏面は粉白色で白い軟毛がある。花期は4～5月。県内では水戸市、加波山で確認されているが最近の確認の報告はなかった。今回の調査で七会村小勝において1本確認した。

(15) オノオレカンバ カバノキ科

本州（中部地方以北の太平洋側）に分布する。岩の多い山地に生える落葉高木。樹皮は暗灰色から黒褐色で厚く、亀甲状に割れる。葉身は長卵形から広卵形。県内では県北山地や鶏足山に知られている。今回の調査で鶏足山山頂の岩場で1本再確認した。県レベルでは希少種に指定されている。

(16) マダイオウ タデ科

本州～九州に分布。水辺などにはえる大形の多年草で高さ約1m。根葉は長い柄があり卵状楕円形、茎葉は卵状披針形。花期は7～8月。県内では西金砂山と鶏足山で記録されている。今回の調査において七会村塩子の川沿いで再確認した。個体数は少ないが生育状態は良好である。

(17) エンコウソウ キンポウゲ科

北海道、本州に分布。浅い水中や湿地にはえる多年草。リュウキンカに似ているが花茎は倒れるように曲がって地につく。県内では七会村と笠間市に記録がある。今回の調査で七会村の用水路で再確認した。生育状態は良好であった。県レベルでは危急種に指定されている。

(18) イヌショウマ キンポウゲ科

本州（関東地方～近畿地方）に分布。山地の林床のやや湿った所に生育する多年草。根出葉は通常2回3出複葉。花期は8～9月。御前山から鶏足山までのスギ林下などに生育しているのを確認した。生育環境は安定しており個体数は比較的多く見られた。県レベルでは希少種に指定されている。

(19) ヤマシャクヤク ボタン科

本州（関東地方以西）～九州に分布する多年草。おもに落葉樹林下に生育する。根茎は横には、太い根を出す。茎は高さ30～40cm。花期は5月。県内では県北山地と鶏足山に記録がある。今回の調査で鶏足山のスギ林下で確認した。花が目立つので園芸目的で採取されやすい。

(20) ヤマブキシソウ ケシ科

本州～九州に分布。林床や土手などに群生することが多い多年草。全体にやわらかく鮮緑色。根出葉は長い柄がある。葉は羽状複葉で、小葉は5～7個。花期は4～5月。葉の切れ込みによりホソバヤマブキシソウ、セリバヤマブキシソウなどの品種がある。御前山の群生

地は数年前より園芸目的と思われる採取により個体数が著しく減少した。鶏足山ではセリバヤマブキソウ、ホソバヤマブキソウも確認した。県レベルでは希少種に指定されている。

(21) ギンバイソウ ユキノシタ科

本州（関東地方以西）に分布する多年草。茎は高さ50～80 cm。花期は7～8月。白色または淡紫紅色の中性花と白色の両性花がある。県内では八溝山と御前山の産地がある。今回の調査で御前山の生育地を再確認した。県レベルでは危急種に指定されている。

(22) タコノアシ ユキノシタ科

本州～沖縄に分布し、休耕田や河原などに生育する多年草。茎は紫紅色、分枝せずに直立し、高さ30～80 cm。葉は披針形から狭楕円形。花期は8～10月。花序の枝は、はじめ先端が渦巻き状に巻いている。御前山のセイタカアワダチソウの優占する休耕田で確認した。県レベルでは希少種に指定されている。

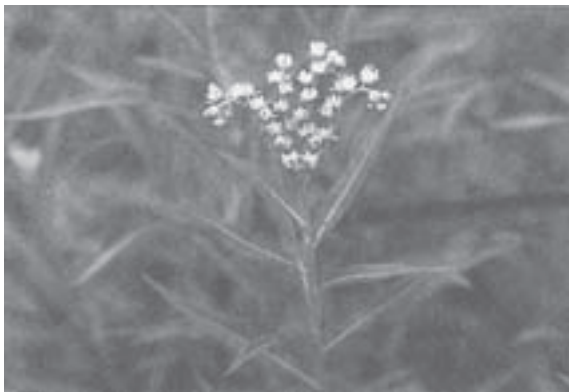


図4. タコノアシ。

(23) エドヒガン バラ科

本州～九州に分布し、山地にはえる落葉高木。葉は長楕円形で葉柄とともに軟毛がある。花期は3～4月。花は淡紅色で葉が展開する前に咲く。県内では県北山地で確認されている。今回の調査では御前山から仏国寺にかけて生育しているのを確認した。

(24) モリイバラ バラ科

本州（関東以西）～九州に分布し、比較的明るい林床に生育する落葉低木。茎には3～7 mmの刺がありよく分枝する。葉は長さ4～10 cm。花期は5～6月で、小枝の先に通常1個つく。県内では仏頂山、笠間市、筑波山などに記録がある。今回の調査で鶏足山の生育地を確認した。個体数は比較的多かった。県レベルで

は希少種に指定されている。

(25) コジキイチゴ バラ科

本州（関東以西）～九州に分布し、日当たりのよい荒地に生育する落葉低木。幹は高さ1～2 m。葉は互生し、奇数羽状複葉で長さ10～20 cm。花期は5～6月で、枝の先に散房状集散花序につく。県内では御前山の産地が知られているが、今回の調査で再確認した。比較的明るい林内に生育していた。県レベルでは希少種に指定されている。



図5. コジキイチゴ。

(26) ナガハシスミレ スミレ科

本州の日本海側に多くはえる多年草。花は淡紫色で、長さ1～2 cmの長い距が目立つ。花期は4～5月。県内では御前山から雨巻山にかけて知られている。今回の調査で御前山や鶏足山で再確認した。

(27) ヒメミソハギ ミソハギ科



図6. ヒメミソハギ。

本州～沖縄に分布し、水田や湿地にはえる1年草。茎は4稜で直立し、高さ10～30 cm。葉は対生しほとんど柄がなく広線形。花期は9～11月。県内の分布はややまれ。御前山の休耕田において確認した。県レベルでは希少種に指定されている。

(28) ミズマツバ ミソハギ科

本州～沖縄に分布し、水田や湿地にはえる1年草。茎の基部はふつう地面をはい、分枝して、高さ約3～10 cm。葉は3～4個輪生し、線形から長披針形。花期は8～10月で葉腋につける。鶏足山の山麓の収穫の終わった水田で確認した。キカシグサやサウトウガラシなどに混じって生育している。県内での分布はややまれで、除草剤の影響で減少していると思われる。注意しないと小さい植物なので見落としがちである。県レベルでは希少種に指定されている。

(29) オオバチドメ セリ科

本州（関東地方以西）～九州に分布し、山地の林下にはえる多年草。葉は大きく、表面に毛がある。花期は7～10月。県内では北茨城市、真弓山、御前山など他数カ所に知られている。今回の調査で御前山のスギ林下に生育地を確認した。県レベルでは希少種に指定されている。

(30) ヒカゲツツジ ツツジ科

本州（関東地方以西）～九州に分布し、山地の崖地に生える常緑低木。高さ1～2 mでよく分枝する。葉は互生し披針形から楕円形、枝の先に集まってやや輪生し、長さ4～9 cm。花は4～5月、枝の先に散状につく。県北山地や七会村などに生育し、大子町は北限に近い生育地である。仏国寺から御前山まで生育するのを確認した。園芸目的に採取されていると思われ、個体数は減少している。ウラジロヒカゲツツジの記録



図7. ヒカゲツツジ。

があるが、今回の調査では確認できなかった。県レベルでは絶滅危惧種に指定されている。

(31) スズサイコ ガガイモ科

北海道～九州に分布し、日当たりのよいやや乾いた草地にはえる多年草。茎は高さ40～100 cm。葉は長披針形～線状長楕円形。花序は茎の先や上部の葉腋から出る。花期は7～8月。花は早朝に開き、日が当たると閉じる性質がある。土手などの草地が減少するとともに、生育地が消失している。鶏足山山麓で1カ所の生育地を確認した。県レベルでは希少種に指定されている。

(32) コイケマ ガガイモ科

本州（関東地方以西）～九州に分布する多年性のつる植物。葉は卵形で先が尾状にとがる。イケマによく似ているが、花序の柄が葉柄と同長かやや短いことが特徴。花期は7～8月。県内では県北地域と御前山などにまれに生育する。今回の調査では御前山では確認できなかったが、七会村の上赤沢で確認した。

(33) カリガネソウ クマツヅラ科

北海道～九州の山地にはえる多年草。茎は高さ50～90 cm。花期は8～9月。長い柄の先に青紫色の花がつく。花冠の先は5裂し、下側の1個が大きい。県北山地や御前山、鶏足山などにややまれに知られている。今回の調査では、御前山では確認できなかったが、鶏足山で数カ所の生育地を再確認した。

(34) ヒイラギソウ シソ科

本州（関東地方、中部地方）に分布し、林床にはえる多年草。茎は直立し高さ30～50 cm。葉は卵形～広卵形で長さ5～10 cm。花は上部の葉腋に3～5段につく。花期は4～6月。県内では筑波山、雨巻山、御前山などに知られており、御前山は北限地とされている。今回の調査で再確認した。さらに鶏足山での生育も確認した。県レベルでは希少種に指定されている。

(35) キセワタ シソ科

北海道～九州に分布し、草地にはえる多年草。茎は直立し、4角で高さ60～100 cm。葉は卵形または狭卵形で長さ5～9 cm。花期は8～9月で、数個ずつ上部の葉腋につき、紅紫色で長さ2～3 cm。県北山地にまれに知られている。今回の調査で鶏足山の中腹で数個体の生育を確認した。県レベルでは危急種に指定され

ている。

(36) テンニンソウ シソ科

北海道～九州の山地にはえる多年草。茎は高さ50～90 cm。花期は9～10月。穂状の花序に淡黄色の花を多数つける。県内では八溝山や花園山などの県北山地や筑波山に生育する。今回の調査では七会村塩子の沢沿いで確認した。

(37) マルバノサワトウガラシ ゴマノハグサ科

本州～九州に分布し、水田や湿地にはえる1年草。水田の改変、除草剤の散布などで激減した。水戸市などに記録があるが、県内での分布はごくまれである。今回の調査で仏国寺付近の休耕田に群生しているのを確認した。県レベルでは希少種に指定されている。

(38) ミヤマママコナ ゴマノハグサ科

北海道～九州の乾いた山林にはえる半寄生の1年草。茎は高さ20～50 cm。花は紅紫色で、花期は8～9月。県内では主に県北山地に生育地がある。今回の調査で鶏足山での生育を確認した。生育地は岩場のやや乾燥した場所で個体数は比較的多かった。

(39) オオヒキヨモギ ゴマノハグサ科

本州（関東地方以西）、四国に分布し、低地のやや乾燥した草地にはえる1年草。茎は斜上して高さ30～70 cm、葉とともに開出した腺毛が密にはえる。花期は8～9月、上部の葉腋ごとに1花をつける。県内では高鈴山、岩瀬町、友部町などにまれに生育する。鶏足山で1カ所の生育地を確認した。県レベルでは危急種に指定されている。

(40) キキョウ キキョウ科

北海道～九州に分布し、山野の草地にはえる多年草。茎は高さ50～100 cm。葉は狭い卵形で長さ4～7 cm。花期は8～9月で、茎上部に数個つく。県内ではやや普通に見られたが、園芸目的の採取や生育地の消失で激減した。御前山から鶏足山にかけて数カ所の生育地を確認したが、いずれも個体数は少ない。県レベルでは危急種に指定されている。

(41) ハバヤマボクチ キク科

本州（福島県以南）～九州に分布し、日当たりのよいやや乾いた草原にはえる多年草。茎は直立し高さ1～2 m。葉は長さ10～20 cmで、裏面に白綿毛がある。

花期は10月。県内では県北地域にまれに生育する。今回の調査で鶏足山で確認した。県レベルでは希少種に指定されている。

(42) イトトリゲモ イバラモ科

北海道～九州に分布し、溜池や水田に生育する沈水性の1年草。トリゲモ類の中では最も細く繊細な葉をもつ。全長は10～20 cm。葉は5輪生状。花期は6～9月。花は葉腋につき、1節に1個の雄花と2個の雌花が並んでつく。県内ではややまれに生育する。水田などに生育することが多いので除草剤などの影響で急激に減少している。鶏足山付近の水田に見られた。

(43) ヒメニラ ユリ科

北海道、本州、四国に分布し、山野にはえる多年草。葉は長さ5～10 cmで花茎の基部に2枚つく。花茎の先に淡紅色の花を1個つける。花期は3～4月。県内では県北山地、御前山、筑波山などに生育することが知られている。今回の調査では御前山と鶏足山で確認した。いずれの生育地もやや湿り気のある場所であった。

(44) キバナノアマナ ユリ科

北海道、本州、四国に広く分布し、山野にはえる多年草。鱗茎は卵形で長さ10～15 mm。花期は4月。花茎の先に4～10個の花が散形状につく。県内では県北山地や御前山などに知られている。今回の調査で御前山で1カ所の生育地を再確認した。



図8. キバナノアマナ。

(45) イワギボウシ ユリ科

本州（関東地方、東海地方）の山中の湿った岩上などにはえる多年草。葉は根生し、長い葉柄があり、基部に暗紫色の細点がある。花期は8～9月。花は淡紫色で、花茎の先に多数集まってつく。県内では県北山

地や御前山、筑波山などにややまれに生育することが知られている。今回の調査では、井殿山付近や鶏足山でわずかな個体数を確認した。

(46) ヒメコヌカグサ イネ科

本州（関東地方以西）～九州に分布し、半日陰の湿地に生育する多年草。茎は高さ40～70 cm。花期は6月。県央地域の平地に知られている。今回の調査で鶏足山の湿地で確認した。県レベルでは絶滅危惧種に指定されている。

(47) ハイチゴザサ イネ科

本州（関東地方以西）～九州などの湿地にはえる多年草。茎は基部が地をはい、節や葉鞘に毛がある。葉は広披針形で両面に伏毛がある。花期は9～10月。県内では御前山、笠間市、筑波山などにまれに確認されている。今回の調査で御前山で再確認した。

(48) ササクサ イネ科

本州（関東地方以西）～沖縄に分布。路傍や明るい林内に生える多年草。茎は高さ40～80 cm。葉は広披針形で長さ10～30 cm。花期は8～10月。暖地性の種類で県南地域に多い。御前山から鶏足山にかけて広く生育していることを確認した。県レベルでは希少種に指定されている。

(49) ヒロハノハネガヤ イネ科

北海道～九州の山中の林床にまれに生育する多年草。茎は直立し、高さ50～100 cm。花期は6～8月。県内では県北山地にやや普通に生育する。今回の調査で七会村上赤沢で確認した。

(50) マメヅタラン ラン科

本州（福島県以南）～沖縄に分布し、山地の樹幹や岩上に着生する多年草。根茎は細長く匍匐し、まばらに葉をつける。葉は革質。花茎は葉の基部から出て糸状。花期は5～6月。県内では奥久慈山地、御前山、七会村などに知られている。今回の調査では御前山と井殿山の2カ所で確認した。県レベルでは危急種に指定されている。

(51) ヒトツボクロ ラン科

本州～九州に分布し、明るいアカマツ林の林床に生育する草本。偽球茎は狭卵形で2～3個が連なる。葉は卵状楕円形。花茎は直立し高さ20～30 cm。5～6月に黄緑色の小さな花を5～10個まばらにつける。県内

数カ所に記録がある。鶏足山で2カ所の生育地を確認した。生育環境は安定した落葉樹林下とスギ林下で個体数はいずれも少ない。県レベルでは危急種に指定されている。

引用文献

- 林 弥栄. 1969. 有用樹木図説 材木編. 472 pp., 誠文堂新光社.
- 茨城大学生物教育学会編. 1976. 第6回日本植物分類学会春季大会資料 茨城県御前山産植物目録. 16 pp.
- 茨城県環境保全課. 1997. 茨城における絶滅のおそれのある野生生物（植物編）, 253 pp., 茨城県環境保全課.
- 根矢 征. 1979. 茨城県産ラン科植物の産地. フロラ茨城, 73: 1-2.
- 小倉洋志. 1972. 鶏足山及びその近辺の植物相. フロラ茨城, 55: 2-3.
- 鈴木まさ江. 1987. 赤沢富士の植物. 茨城生物, 11: 5-9.
- 鈴木昌友. 1967. 茨城県産植物雑記（18）ギンバイソウ. フロラ茨城, 37: 1-2.
- 鈴木昌友. 1969. ヒナランの分布. フロラ茨城, 44: 1-2.
- 鈴木昌友. 1973. 茨城県のフロラ. 植物と自然, 7（7）: 17-22.
- 鈴木昌友・森口茂子. 1978. 茨城県産のスミレ属植物. 茨城大学教育学部研究紀要, 27: 1-18.
- 鈴木昌友・清水 修・安見珠子・安 昌美・藤田弘道・中崎保洋・和田尚幸・野口達也. 1981. 茨城県植物誌. 339 pp., 茨城県植物誌刊行会.
- 安 昌美. 1998. 東茨城郡桂村白山・住谷山の植物. 茨城生物, 18: 1-16.

参考文献

- 秋山茂雄. 1955. 極東亜産スゲ属植物. 257 pp., 北海道大学.
- 茨城県環境局. 1991. 茨城県自然公園特別地域内指定植物図鑑. 266 pp.
- 茨城県生活環境局. 1985. 特定動植物分布調査報告書 茨城の特定動植物の分布. 532 pp.
- 茨城県生活環境部. 1995. 特定動植物分布調査報告書 1 茨城の特定動植物の分布—植物編—. 494 pp.
- 岩槻邦男編. 1992. 日本の野生植物 シダ. 311 pp., 平凡社.
- 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑. 178 pp., 文一総合出

- 版。
- 環境庁自然保護局編. 1988. 植物目録1987. 737 pp., 大蔵省印刷局.
- 北村四郎他・村田 源・掘 勝. 1957. 原色日本植物図鑑 草本編〔I〕. 297 pp., 保育社.
- 北村四郎・村田 源. 1961. 原色日本植物図鑑 草本編〔II〕. 離弁花類. 390 pp., 保育社.
- 北村四郎・村田 源・小山鐵夫. 1964. 原色日本植物図鑑 草本編〔III〕. 464 pp., 保育社.
- 中池敏之. 1982. 新日本植物誌 シダ篇 改訂増補版. 868 pp., 至文堂.
- 日本植物分類学会編著. 1993. レッド・データ・ブック日本の絶滅危惧植物. 141 pp., 農村文化社.
- 大井次三郎 (著)・北川政夫 (改訂). 1992. 新日本植物誌顕花篇. 1716 pp., 至文堂.
- 大滝末男・石戸 忠. 1980. 日本水生植物図鑑. 318 pp., 北隆館.
- 長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜. 759 pp. 平凡社.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫 (編). 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ. 259 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫 (編). 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ. 318 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫 (編). 1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ. 305 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫 (編). 1989. 日本の野生植物 木本Ⅰ. 321 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫 (編). 1989. 日本の野生植物 木本Ⅱ. 305 pp., 平凡社.
- 杉本順一. 1979. 日本草本植物誌総検索誌Ⅲ シダ編. 481 pp. 井上書店.
- 杉本順一. 1973. 日本草本植物誌総検索誌Ⅱ 単子葉編. 630 pp., 井上書店.
- 杉本順一. 1978. 日本草本植物誌総検索誌 双子葉編. 871 pp., 井上書店.
- 杉本順一. 1972. 新日本樹木総検索誌. 583 pp., 井上書店.
- 上野雄規 (編). 1991. 北本州産高等植物チェックリスト. 365 pp. 東北植物研究会.
- 我が国における保護上重要な植物種及び群落に関する研究委員会種分科会 (編). 1989. 我が国における保護上重要な植物種の現状. 320 pp., (財)日本自然保護協会・(財)世界自然保護基金日本委員会.
- 吉川純幹. 1957・1958・1960. 日本スゲ属植物図譜 第壹巻 第貳巻 第参巻. 421 pp., 北陸の植物の会.

調査研究および執筆

安嶋 隆 (茨城県立太田第一高等学校教諭)

内山治男 (大成女子高等学校教諭)

県央・南部地域海岸の維管束植物

はじめに

本地域における調査研究の主なものを示す。水戸博物学会は「鹿島神宮神域の植物目録」（1938）の中で鹿島町下津海岸の景観を述べ、分布上特筆すべきものとしてハマナデシコとハマビシをあげている。その後36年経過した下津海岸の植物の変遷について野原幸之助は「鹿行の植物」（1975）でハマビシ・ハマウツボ・モウセンゴケなどが消滅したと指摘している。斉藤卯内は「茨城博物同好会会誌第12号」の中で、福島・茨城・千葉3県における主要海浜植物の分布について論じ、寒地性植物と暖地性植物との錯綜している場所として磯崎・湊帯を設定して分布上の要点としている。

銚子観光協会の編になる「銚子の自然」（1965）は銚子市の千葉大学臨海実験所の関係者による調査研究であり、沼田 眞が中心となってまとめられた銚子海岸の植物相と群落の項は、波崎町の調査結果も含み有益である。茨城県高等学校教育研究会生物部は1969・1970、1972に鹿島・行方開発地区の自然財分布調査を実施し、「特別地域自然財分布調査」（1970、1972）、「自然財分布調査報告書」（1971）としてまとめた。また、同部は海岸植物調査会を設け、「茨城の生物平成4年版」（1992）で、「茨城の海浜植物」を載せ、稀な種類、南限・北限種等について報告している。

今回実施した調査は、波崎町からひたちなか市磯崎に達する約100 kmの海岸線が調査区域である。また、この地域内及びこれに隣接する県指定の自然・緑地環境保全地域の調査もあわせて行った。

本調査を実施するにあたって種々便宜をいただいた郵政省通信総合研究所平磯宇宙環境センター、波崎町水商観光課、各小中学校・高等学校に対し深く感謝の意を表する。

調査方法

1. 調査地の設定（調査地の詳細は図1と表1を参照）

調査地は下記のことに留意して、波崎町東町波崎漁港より、ひたちなか市磯崎町酒列磯前神社に至る太平洋岸の46カ所（採集のみの地点も含む）、うち太平洋岸に近い環境保全地域（照葉樹が優占する社寺林）9カ所に設定した。

（1）約100 kmにわたる太平洋岸における植生と植物相を明らかにするために、調査地はほぼ均等に46カ所

設定した。

（2）調査地の環境は、漁港等のコンクリート護岸、工業地等造成区域、調査地の大部分を占める砂浜とそれに連なる砂防林（クロマツ林）、海岸へ流入する河川とその河口、海岸台地の端のクロマツ林、台地の海岸に臨む崖、環境保全地域の社寺林等、幅広い環境に設定した。

2. 調査期間

（1）平成9年度は4月～10月に全員で15回の本調査と、2回の間中まとめを行った。

（2）平成10年度は4月～10月に全員で16回の本調査と、2回の間中まとめを行った。

（3）平成11年度は4月～10月に全員で16回の本調査と、5回の間中まとめを行った。

3. 調査項目

維管束植物（シダ植物・種子植物）を対象として、植生の概要と植物相の調査を行った。調査は同一調査地の植物の生育季節をずらして観察・調査ができるように配慮して次のように行った。

平成9年度は波崎町南端より調査を開始して順次北上した。平成10年度は波崎町南端から北へ約33 kmの地点より調査を開始して北上し、分担区域北端に達した後、波崎町南端へと反転して、以後北上した。平成11年度は波崎町南端から北へ約65 kmの地点から調査を開始し、以後は平成10年度と同様の方法をとった。

調査項目は次のとおりである。

（1）各調査地毎の植生概要の記録。

（2）各調査地毎に生育する全植物の確認と記録。

（3）生育する植物の採集と標本の作成（原則として、花・実が付いている個体を採集、1種の植物につき、全調査地で2～4点作成）、採集植物の目録は付表1に示した。

（4）写真の撮影と記録（原則として、採集した全植物の個体と、その生育状況のわかる生態を撮影）。

結果

1. 調査地の植生概要

波崎町利根川河口からひたちなか市磯崎にいたる約100 kmの海岸線は、波崎町から大洗港までの穏やかに延びる弧状の単調な砂浜海岸と、それより以北のやや変化に富む磯海岸とによって特徴づけられる。流入する大きな河川として那珂川があるが、最南端の利根川の影響も考慮に入れなければならない。また近年、砂

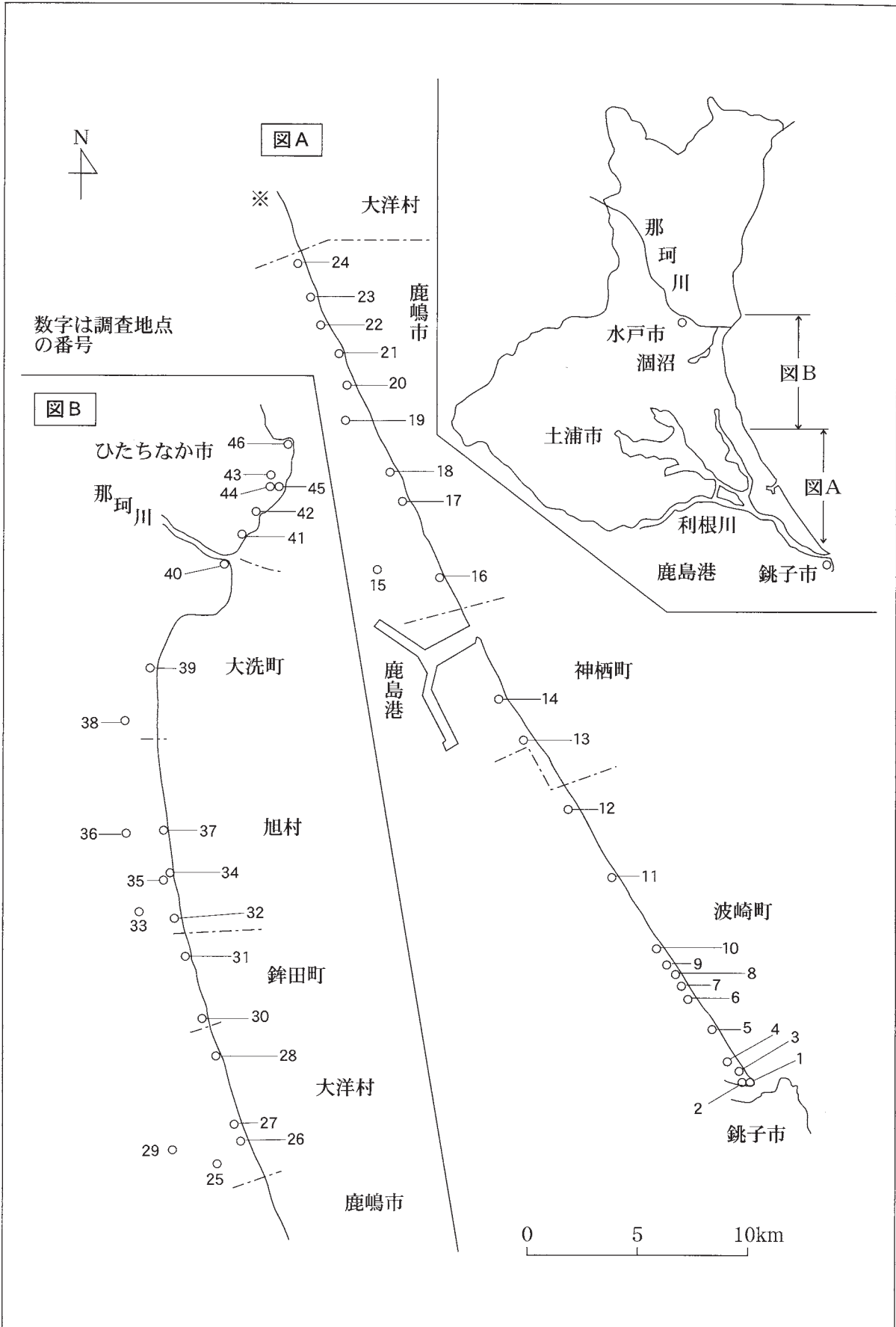


図1. 調査地.

植 物

表 1. 県央・南部地域海岸の調査地及び調査日.

No.	調 査 地	調 査 日		
		1997年	1998年	1999年
1	波崎町東町 波崎漁港	5/26	9/28	6/21
2	波崎町東町 かもめ公園	5/26		
3	波崎町仲島 東部地区	5/26	9/28	6/21
4	波崎町仲島 国民宿舎跡	5/26	9/28	6/21
5	波崎町仲島 砂丘公園		10/12	
6	波崎町舍利浜 南	6/9	9/28	7/5
7	波崎町舍利浜 北		10/12	7/5
8	波崎町大沼			7/5
9	波崎町押植	6/9		6/21
10	波崎町東松下			7/5
11	波崎町須田浜	6/9	10/12	7/5
12	波崎町高砂	6/23	10/12	7/19
13	神栖町知手浜	6/23	10/26	7/19
14	神栖町奥野谷浜	6/23	10/26	7/19
15	鹿嶋市粟生 粟生八幡社	7/7	11/9	8/2
16	鹿嶋市平井浜 (新押合)		10/26	8/2
17	鹿嶋市小宮作	7/7	11/9	8/2
18	鹿嶋市明石		9/14	8/2
19	鹿嶋市小山 小山不動尊 自然環境保全地域28	7/22	4/13	8/16
20	鹿嶋市角折	7/7		8/16
21	鹿嶋市青塚		4/13	
22	鹿嶋市荒井			8/16
23	鹿嶋市武井釜		9/14	6/7
24	鹿嶋市大小志崎	5/6	9/14	6/7
25	大洋村飯島 八幡神社 緑地環境保全地域4	7/22	4/27	8/30
26	大洋村田子沼	7/22	4/27	8/30
27	大洋村組塚	7/22		
28	大洋村濁沢	7/22	5/11	9/27
29	大洋村大蔵 近津神社	8/4	4/27	8/30
30	銚田町下荒地	8/4	5/11	9/27, 10/25
31	銚田町柏熊	8/4	5/11	9/27
32	旭村滝浜	8/4	6/8	9/27
33	旭村樅山 樅山神社 自然環境保全地域26	8/18	5/25	10/12
34	旭村冷水 海岸	8/18	6/8	10/25
35	旭村冷水 玉沢稲荷社 自然環境保全地域27	8/18	5/25	10/12
36	旭村弁天 子生弁天社 自然環境保全地域2	9/1	5/25, 6/8	10/12
37	旭村玉田	8/18	6/8	10/25
38	大洗町成田 成田神明社	9/1	6/22	4/12
39	大洗町浜掛	9/1	6/22	4/12
40	大洗町祝町	9/16	6/22	4/12
41	ひたちなか市姥の懐	10/20	9/7	6/7
42	ひたちなか市平磯 平磯中下海岸	11/4	9/7	5/24
43	ひたちなか市平磯 電波研	11/4	8/17	5/24
44	ひたちなか市平磯 観涛所		8/17	5/24
45	ひたちなか市平磯 電波研下海岸	11/4	9/7	5/24
46	ひたちなか市磯崎 酒列磯前神社	11/4	8/17	5/24

の流失が著しく、これを防止するために、1985年から海岸にヘッドランド（人工岬）が1 km 間隔で設置され始め、徐々にその効果が現れつつある。

後背地の大部分は標高30～40 m の洪積台地であるが、鹿嶋市栗生以南は標高0～10 m の沖積低地である。このことから海岸を、鹿嶋港の南北に区分し、更に大洗以北の堆積岩からなる磯浜に分けた。また、鹿島工業地帯の開発による特殊環境下にある地域を考慮に入れ次のように区分した。

(1) 砂浜海岸

① 南部の海岸

鹿嶋港以南の南部の海岸は陸に向かって上り傾斜のごく緩い砂浜が続き、小砂丘の起伏を経て堆砂堤に達する。その内側にある砂丘部分は砂防用のクロマツ植林がなされている。

砂浜の不安定帯である最前線にはコウボウムギ、ハマヒルガオ、オニシバ、ハマニガナなどが点在する。次いでネコノシタの株が小砂丘を形成し、ケカモノハシの株が目立つようになると植被率も高まり、海浜植物の種類も多くなってくる。この地域ではネコノシタ、ピロードテンツキ、ワセオバナなどの暖帯性植物の出現頻度は高い。

② 北部の海岸

鹿嶋港以北の海岸では下津浜付近から北方は後背地の台地が海岸に近づき、砂浜の傾斜も増し、コンクリート護岸堤から汀線まで50 m にも満たない箇所もある。この場合、護岸堤の陸側に砂質の傾斜地を生じ、そこに海浜植物が多くみられる。北上するに従ってネコノシタ、ピロードテンツキ、ワセオバナなど暖帯性植物は減少し、代わってハマナシ、テンキグサ、シロヨモギなど温帯性植物が出現し、両種の混交をみる。

砂浜の幅が比較的広い海岸にも近年、コンクリート護岸堤が設置されるようになり、海岸の様態が変化を強いられている箇所を見るようになった。

(2) 磯海岸および崖地

大洗以北の磯海岸には台地が迫り、海岸は大小の岩塊よりなる岩場となっている。大きなコンクリートの防潮壁のすぐ近くまで波が打ち寄せ、防潮壁の陸側は舗装道路になっていることが多い。岩の間の堆砂地には、ハマヒルガオ、スナビキソウ、テンキグサの他に、砂浜海岸に見られなかったハマボスや温帯性のマルバトウキも出現する。

この道路をはさんで陸側は切り立った海食崖で、急斜面の植生は豊富で、オオバイボタ、シャリンバイ、タブノキ、ヒサカキ、トベラなど常緑樹が目立つ。なお、茨城県を南限とするハマギク、コハマギクが生育する。

(3) 砂防・防潮林

海岸には砂の飛散・移動を防ぎ、潮風をやわらげるための防備林が保護育成されている。砂丘に割竹柵で方形の小区画を連続して設け砂を防ぎ、主にクロマツが植えられ、更にトベラ、アキグミなど耐塩性のある樹種が植えこまれる。草本としてはコマツヨイグサの定着が早く、コウボウムギ、チガヤなどが続き、次第に植被量が多くなり、クロマツの定着、生長をみ、やがてクロマツ林が形成される。

この林内の環境は裸地に比べて安定しているので、ヒサカキ、オオバイボタ、マサキ、エノキなどの低木・幼苗の他に、ヒメヤブラン、ハマアオスゲなど林床の植物も増えてくる。エビヅル、フジ、ツルウメモドキ、スイカズラなどのつる植物が繁茂することもある。

(4) 工場地・漁港

かつては大砂丘であった所が人工的に平坦化、港湾掘削、松林の工場用地造成により従来の植生が全く破壊・攪乱され、消滅した所も多い。その後の植栽は全く人為的に管理された芝生や目隠し用の樹林が目立つ。

また巨大な港湾施設や漁港は砂浜がコンクリート化され、植生は乏しくなっている。これらの施設や工場は、陸上および海上からの輸送にともない新たな植物侵入の最前線であることが多い。

造成された工場予定地のセイタカアワダチソウやチガヤの草原では、ブタナ、ヒメムカシヨモギ、メリケンカルカヤ、オニウシノケグサ、ヒメスイバ、コマツヨイグサなど帰化植物の占める割合が大きい。時にはアメリカオニアザミ、アカバナリハコベなど思わぬ帰化植物を見ることがある。

(5) 社寺林

調査した社寺林は関東平野の東縁に位置し、東は鹿島灘にのぞみ、標高20～30 m の鹿島台地である。気温は年平均14.3℃、温量（暖かさの）指数114.6で、ヤブツバキクラス域に属する。雨量は年平均1460.3 mm である。これらの環境の下で成り立つ社寺林は、南は鹿嶋市栗生から北はひたちなか市磯崎町まで点在し、こ

れらからこの地域の自然植生を知ることができる。

調査地は暖帯性植物と温帯性植物の分布が重なっているため、植物の種類は多い。スダジイの優占する社寺林にもタブノキが高い被度で混生することが多い。高木層はその他にアカガシ、シラカシ、シロダモなど、亜高木層にはヤブツバキ、モチノキ、スダジイなど、低木層にはヒサカキ、アオキ、ヤブツバキ、スダジイ、タブノキ、トベラなどが見られる。草本層にもキツタ、マンリョウ、イタビカズラ、テイカカズラ、ベニシダなどが見られる。これらの社寺林にはスギ・ヒノキの植栽のほかにモミ、イヌガヤなどの針葉樹が混生している所もある。また、部分的にはクヌギ・コナラ群集が存在しヤマザクラ、イヌシデ、ムクノキなどが混じるとともにシラカシが混生し、低木にもスダジイ、ヒサカキ、ネズミモチなどの常緑樹があって植生の遷移がうかがわれる。

2. 主な調査地点の概要

(1) 砂浜海岸

① 南部の海岸

ア 波崎町舎利浜南（調査地点 No. 6）

調査地点は波崎町南部に位置し、コンクリート護岸が築かれ、汀線に至る間は植生に乏しい。護岸堤の内側は、砂の堆積が著しく、例えば付近の家屋では砂防・防風生垣や竹垣・笹垣に沿って砂がうず高く堆積し、小砂丘状を呈している。生垣に利用されている樹種はクロマツ、マサキ、トベラ、ヤブツバキ、シャリンバイなどで、いずれも樹高は高くなれない。

小砂丘にはチガヤ、テンキグサ、ケカモノハシ、オニシバ、ススキ、コウボウムギ、コウボウシバ、ピロードテンツキ、ハマニガナ、ネコノシタ、ハマナデシコ、コマツヨイグサ、ハマボウフウ、ハマヒルガオなどが生育しており、注目すべきはイソギク、ハナイソギクが認められたことである。

砂防用の小區画内には植栽されたクロマツ、トベラ、アキグミの幼樹の他にコウボウムギ、コウボウシバ、ハマスゲ、ハマアオスゲ、チガヤ、オニシバ、ハマニガナ、ネコノシタ、コマツヨイグサ、マルバアカザ、オカヒジキなどが生育している。

また、護岸堤下の砂浜にゲンバイヒルガオの幼苗を5個体確認し、近くの護岸石垣の間にオニハマダイコンを新たに確認した。

近くを通る海岸道路をはさんだ内陸側の集落のあたりではチガヤ、ヤマアワ、メマツヨイグサ、ヨモギなどが草丈を伸ばし、地表にはテリハノイバラ、ハイネ

ズ、ヒメヤブランなどが繁茂している。

イ 波崎町須田浜（調査地点 No. 11）

調査地点は波崎町北部に位置し、県指定天然記念物ウチワサボテン群生地がある。砂浜はやや広く、ケカモノハシ、コウボウムギが目立ち、その間にオニシバ、テンキグサ、コマツヨイグサ、ハマヒルガオ、ハマニガナ、ネコノシタなどが点在する。砂浜に流入している排水溝にはオオフサモ、オランダガラシ、カワヂシャ、ヒエガエリなどが見られた。

堆砂堤の内陸側は起伏の多い小砂丘が連なり、ピロードテンツキが多く見られ、その他、オニシバ、テンキグサ、チガヤ、コウボウムギ、ハマエンドウ、スナビキソウ、ウンラン、ハマナデシコ、スカシユリなど海浜植物が豊富である。更に内陸部に入るとクロマツが樹高を増し海岸林となる。林内にはトベラ、マサキ、モチノキ、オオバイボタ、アキグミ、ハリエンジュ、などが混生する。付近にはハイネズ、ハマゴウが地表をはっているのを見かけることが多い。

小砂丘に囲まれた窪地のヨシ、キショウブ、チガヤ、セイタカアワダチソウなどの茂みの中にハマナスが群生しており特筆に値する。これらは開花・結実しており、生育状態も良好である。

クロマツの林床や林縁には、ハマカキランが生育し、海岸道路の法面にトガリバツメクサが帰化している。

② 北部の海岸

ア 鹿嶋市大小志崎（調査地点 No. 24）

調査地点は鹿嶋市の北端に位置し、国指定特別天然記念物ハマナス自生南限地がある。ハマナス自生地は柵が設置され、内部は下草刈りがされて個体数も増加の傾向にある。付近にはセイタカアワダチソウ、チガヤ、ヤマアワ、ススキ、スイバ、ウンラン、ヤダケなどが生育し、特にワセオバナが多く見られる。イヌコモチナデシコも帰化している。

海岸はコンクリート護岸堤が築かれており、砂浜は比較的広い。護岸に沿って砂浜に出るとハチジョウナの群落が目を引き、ネコノシタの群落に堆砂し、成長した小砂丘（舌状丘）が見られる。チガヤ、オニシバ、キシウズズメノヒエ、スカシユリ、ハマナデシコが多く、テンキグサ、コウボウムギ、コウボウシバ、ハマヒルガオ、コマツヨイグサ、スナビキソウ、ツルナ、ハマニガナ、ウンラン、オカヒジキ、ハマナシ、トベラ、オオバイボタなど海浜植物が豊富である。

付近の台地縁のクロマツ林下に山地性のオオヤマフ

スマが生育している。

イ 鉾田町柏熊（調査地点 No. 31）

鹿島台地の縁に沿うように走る国道51号から海岸側の集落をぬけると狭い道は急坂を下って浜に出る。海岸はコンクリート護岸堤が築かれ、斜面は飛砂防備保安林の標識のあるクロマツ林になっている。林縁部にあたる護岸近くでは樹高が低く、背丈ほどもないが、内陸部に行くに従って高くなる。この付近の堆砂地ではクロマツ、トベラの幼樹にオニシバ、ケカモノハシ、テンキグサ、ヒメヤブラン、コマツヨイグサ、テリハノイバラなどが混生している。

また、他の林縁の堆砂地では、チガヤ、オニシバが多く、このほかハマハタザオ、マルバアカザ、ワセオバナ、ケカモノハシ、コウボウムギ、ウンラン、コマツヨイグサ、オオフトバムグラ、テリハノイバラなどが見られる。

護岸堤外の砂浜にはコウボウムギ、ハマヒルガオ、コマツヨイグサ、ケカモノハシに混じってシロヨモギ20株ほど数え、さらに、2×6m程度の広さに群生しているのを確認した。

ウ 大洗町祝町（調査地点 No. 40）

調査地点は大洗水族館、かもめ荘付近で、那珂川の河口右岸にあたる。かもめ荘裏のクロマツ林の斜面にはオオバイボタ、ネズミモチ、アキグミ、ナワシロイチゴ、テリハノイバラ、ススキ、メリケンカルカヤ、ヤマカモジグサ、アキノキリンソウ、ブタクサ、セイタカアワダチソウ、ネコハギ、コマツナギなどに混じって、ホタルブクロ、ヒメイズイなども生育する。

人の出入りの激しい海岸なのでオオアレチノギク、セイヨウタンポポ、ヒメジョオン、ウラジロチチコグサ、チチコグサモドキ、オオオナモミ、イガオナモミ、イヌムギ、ネズミムギ、オニウシノケグサ、シナダレスズメガヤ、メマツヨイグサ、コメツブツメクサ、ヒメスイバ、アメリカイヌホオズキなどの帰化植物もかなり侵入している。

海門橋近く的那珂川河川敷ではススキ、オギ、チガヤ、ヨシ、セイタカアワダチソウ、アズマネザサが丈高く茂り、テリハノイバラ、ブタクサ、カワラケツメイ、ヤハズエンドウ、イタドリ、メリケンカルカヤ、ヘラオオバコなども生育している。

海に面した砂地では、ハマヒルガオ、コウボウムギ、コウボウシバ、チガヤ、テンキグサ、ハマスゲ、コマツヨイグサ、オオバイボタ、トベラなどの海浜植物が

目立つ。なおこの付近でフラサバソウが生育しているのを確認した。

(2) 磯海岸および崖地

ア ひたちなか市姥の懐（調査地点 No. 41）

那珂湊港の北側の台地が海に接した部位は、高さ約20mの海食崖が形成されている。この海食崖に面した海が姥の懐である。崖地は永年の風化作用を受けて複雑な形状になっており、種の存続に好適な環境となっている。崖の直下は海岸道路及び防潮堤になっている。崖地にはクロマツ、オオバイボタ、タブノキ、マサキ、モチノキ、ヤブツバキ、ヒサカキ、イヌツゲ、シャリンバイなどの常緑樹が多く見られ、特にイヌツゲ、マルバシャリンバイが特徴的である。

海岸道路沿いの斜面には、ヨモギ、ススキ、テリハノイバラ、スギナ、イヌタデ、ウマノアシガタ、ミツバアケビ、サルトリイバラ、センニンソウなどの在来種も豊富であるが、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、アメリカセンダングサ、アレチギシギシ、ヘラオオバコなどの帰化植物もかなり混生している。これらに混じってラセイタソウ、カジイチゴ、オニヤブソテツが多く見られ、この地を南限とするハマギクが崖面を飾り、これらが海岸の景観を特徴づけている。また、崖地からのしほり水の流れる湿地には、ノハナショウブやカキランも見られる。

イ ひたちなか市平磯 平磯中学校下海岸（調査地点 No. 42）

海岸道路の海側はやや広い法面があり、コンクリート護岸堤が築かれている。護岸堤の直下は狭い磯になっている。

法面で広い面積を占めるのはクコ、セイタカアワダチソウ、ワルナスビ、テンキグサ、ススキなどで、その他ラセイタソウ、ハマスゲ、ハマエノコロ、オニウシノケグサ、イヌムギ、コマツヨイグサ、ハマエンドウ、スナビキソウ、オヤブジラミ、ヨモギ、ヘラオオバコ、ナガバギシギシ、テリハノイバラ、ヤイトバナ、ノブドウ、ヤブカラシなどが生育している。

護岸堤下の砂の寄っている所にテンキグサの群落が見られ、テリハノイバラ、ハマボッス、ハマヒルガオ、スナビキソウ、コウボウシバも見られた。

水産試験場の近くでは当地が南限であるエゾオオバコの生育を確認した。また放射線医学研究所下の磯でマルバトウキを、電波研およびその付近でコハマギク、マヤラン、ハマウツボを確認できた。

(3) 砂防・防潮林

ア 波崎町高砂 (調査地点 No. 12)

調査地点は波崎町北部に位置し、多少起伏のある沖積低地に形成されたクロマツ林で、集落に接している。堆砂堤・砂防柵より内陸側はチガヤ、ヤマアワ、ススキ、ワセオバナ、ハマゴウ、テリハノイバラ、ハイネズなどからなる砂地草原になっており、所々にクロマツの幼樹が見られる。これより更に内陸側は草原の中にクロマツ群落の占める割合が増加し、やがてクロマツ林へと移っている。ここで見られるクロマツは樹高5～6m程度で、海岸風衝形をしていない。

クロマツ林の構成はクロマツ以外にトベラ、マサキ、モチノキ、オオバイボタ、イヌツゲ、アキグミ、ヤツデなどの木本類とツルウメモドキ、ツタ、エビヅル、ノブドウ、キツタ、フジ、カラスウリ、ヤイトバナ、スイカズラなどのつる植物、クロマツの樹幹に着生するノキシノブ、林床にヒメヤブラン、ハマカキラン、ハマゴウ、ハイネズのほか、チヂミザサ、ススキ、ヤマカモジグサ、エノキグサ、ツユクサ、ノコンギク、ヒメムカシヨモギ、ヤブジラミ、ナワシロイチゴ、オニユリ、タカサゴユリなどの海岸砂丘植物以外の要素も混入している。

集落に接する部分にはヤダケが繁茂し、ツルニチニチソウ、ヒメヒオウギズイセンなどの園芸植物が逸出している。

イ 大洋村田子沼 (調査地点 No. 26)

調査地点は上沢地区の海岸で、鹿島台が海に迫り、斜面はクロマツ林、浜はコンクリート護岸が施されている。

海岸防備林として保護育成されているクロマツ林内は低木層にトベラ、タブノキ、シロダモ、スタジイ、ヒサカキ、アキグミ、モチノキ、イボタノキ、オオバイボタ、マサキ、ヤブツバキ、ガマズミ、コナラ、ヤマウルシなどが見られ、クロマツの樹幹にはノキシノブ、ウメノキゴケ類が着生している。草本層にはトラノオシダ、テリハノイバラ、アキノキリンソウ、ノコンギク、オオアレチノギク、カワラナデシコ、オオヤマフスマ、イヌツゲ、ヤブコウジ、ヒメヤブラン、チヂミザサ、ワセオバナ、コウボウシバ、ナキリスゲ、ネコハギ、ハイメドハギなどが生育している。この他つる植物としてヤイトバナ、エビヅル、タンキリマメ、ツタウルシ、スイカズラなどが見られる。

クロマツ林内に窪地が所々に見られ、土壌的・微気象条件によるためか植生が豊富で、タブノキ、スタジ

イを中心にヒサカキ、トベラ、ムラサキシキブ、アキグミ、アカガシ、コナラなどの低木が茂り合い、タンキリマメ、サルトリイバラ、ミツバアケビなどがからんでやぶ状になっている。

なお、付近の海岸でシロヨモギの生育を確認した。

(4) 工場地・漁港

ア 波崎町東町 (調査地点 No. 1)

波崎町の最南端、利根川河口左岸に新たに築かれた大規模な漁港である。造成された敷地には未利用の区画がかなり残っており、植物の侵入が見られる。

利根川べりはコンクリート護岸が施されており、付近の路傍や法面にはワセオバナ、ススキ、チガヤ、メヒシバ、イヌムギ、オニウシノケグサ、ヒゲナガズメノチャヒキ、ナギナタガヤ、ムギクサなどのイネ科植物が多く、これにハマゴウ、セイタカアワダチソウ、ヨモギ、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ、ヤハズエンドウ、シロツメクサ、ヤイトバナ、ノブドウ、コマツヨイグサ、オオフタバムグラなどが生育している。

空地になっている区画は、セイタカアワダチソウやチガヤが優占しているが被度は高くない。ここに生育しているものは上記路傍にみられた植物とほぼ同様の傾向を示し、その他スズメノカタビラ、マメゲンバイナズナ、カモガヤ、ブタクサ、シロザ、マツヨイグサ、シロバナマンテマ、スギナなどが見られる。木本類の幼樹としてクロマツ、トベラ、タブノキ、エノキなども生育している。また、ハマヒルガオ、ハマエンドウ、ハマスゲ、ピロードテンツキ、コウボウムギ、コウボウシバ、ハマアオスゲ、ハマニガナ、スナビキソウ、ツルナなどの海浜植物も見られる。注目すべき種として、空地に点在していたアカバナリハコベおよびコンクリート上の堆砂に生育していたマルバマンネングサがあげられる。

イ 神栖町知手浜 (調査地点 No. 13)

調査地点は鹿島港の南、かつて砂浜であった場所を埋め立てて工場用地として造成された地域にある。

護岸堤近くに小高い土手が続き、そこには、チガヤ、ススキ、メリケンカルカヤ、コマツヨイグサ、ブタナ、セイヨウタンポポ、セイタカアワダチソウ、ウラジロチチコグサ、ハイネズ、テリハノイバラなどに混じってハマナデシコが数多く見られる。この土手の下は樹高2～3mのクロマツ、トベラ、マサキ、オオバイボタ、アキグミなどが土手に沿って細長い林を形成して

いる。

この林の前面は広い工場用地の区画になっているが、いまだ空地のままなので植物の侵入・定着が進み、草原状になっている。チガヤあるいはセイタカアワダチソウが優占しているが、生育している植物の種類は比較的多い。ススキ、チガヤ、キンエノコロ、スズメノヤリ、チチコグサ、オトコヨモギ、カタバミ、ヤハズエンドウ、アリノトウグサなどの一般的な植物や、ハマナデシコ、ハマエンドウ、ハマヒルガオ、ハマゴウ、ヤマアワ、ワセオバナなどの海浜植物も生育するが、最も多いのはブタナ、ヒメムカシヨモギ、セイタカアワダチソウ、オオアレチノギク、セイヨウタンポポ、ヒメジョオン、メリケンカルカヤ、オニウシノケグサ、カモガヤ、イヌムギ、シラゲガヤ、コマツヨイグサ、マツヨイグサ、オオフタバムグラ、ヒメスイバ、マンテマ、シロツメクサ、ヘラオオバコ、アレチギシギシなどの帰化植物である。この調査地では、アメリカオニアザミが確実に個体数を増やしている。

深さ4～5mほど掘り下げ、両岸を垂直にコンクリートで固めた排水路にカンガレイ、エゾウキヤガラ、ケイヌビエ、オランダガラシ、ヘラオモダカ、ミゾバに混じって危急種のミズアオイ、ミクリが生育しているのを確認した。また、流水中にイトモが見られた。

海に面したコンクリート護岸とその下の消波ブロックとの間の堆砂上にタイトゴメが見られた。

(5) 社寺林

ア 鹿嶋市粟生 ^{あおう} 粟生八幡社（城跡林）（調査地点 No. 15）

標高約30mの台地上の城跡に形成された照葉樹林である。

スダジイ、タブノキ、アカガシ、ヤブツバキ、シロダモ、マテバシイなどの高木層の林床に、ヤマハゼ、ニッケイ、カクレミノ、ムベ、センリョウ、イズセンリョウ、ツルグミ、サネカズラ、ホシダなどの暖帯性の植物が多く自生している。さらにトベラ、オニヤブソテツなどがみられ、海近くの林相を示している。特にスダジイ、アカガシ、マテバシイの巨木も多く、ムベやマンリョウの多いことも目をひく。荒地には、メリケンカルカヤが帰化している。

イ 鹿嶋市小山 小山不動尊

（調査地点 No. 19, 自然環境保全地域28）

標高約30mの台地上の照葉樹林である。ほぼ中央に

東から西へ沢が入り、湧水が流れている。

東斜面は、タブノキを優占種としてスダジイ、アカガシ、ヤブツバキなどが混生している。

タブーイノデ群集である林床に、ベニシダ、オオバノイノモトソウなどのシダ植物が豊富に生育している。また、東西に切れ込む沢の周囲は、ケヤキ、ムクノキの落葉樹とアカガシ、スダジイの常緑樹の混交林となっている。そのために適湿な環境が保たれ、常緑大型シダ植物のイノデをはじめリョウメンシダ、イワガネソウなどの個体数も多い。さらに、暖帯性植物のカラタチバナ、マンリョウが広い範囲にわたって生育している。

ウ 大洋村飯島 八幡神社（調査地点 No. 25, 緑地環境保全地域4）

標高約30mの平坦な台地にある照葉樹林であり、集落に接している。

本殿の裏および東側に群生しているスダジイの純林は、見事な暖帯性の様相を呈している。クロマツの枯損した跡に植栽されたスギ、ヒノキがよく育ち、林床にはヤブミョウガが生育し、イヌマキ、ヒサカキ、サンショウなどの幼木が多い。その他に、ヤブニッケイ、トベラ、ゴンズイ、マンリョウなどがあり豊かな植生である。さらに、隣接の休耕畑にオオエノコロが多数自生していた。

エ 大洋村大蔵 近津神社（調査地点 No. 29）

標高約30mの平坦な台地にある照葉樹林で、集落に接し南北に長い社地をもっている。

スダジイを優占種とする典型的な極相林である。社地の幅は狭いが、モチノキ、ヒサカキ、ホオノキ、タブノキなどの巨木が揃い、ヤブツバキ、シロダモ、イヌガヤ、ウワミズザクラ、ケヤキなどの高木も多く、樹種も多様である。境内の極相林に比し、国道側の伐採された草原にはブタクサ、ワルナスビ、ヨウシュヤマゴボウなどの帰化植物が増えている。また、本殿裏のモミの純林も減少している。しかし、林床にはカラタチバナ、エビネなどの自生もみられ、マメツタの着生も多く、暖帯林の様相を示している。

オ 旭村樺山 樺山神社（調査地点 No. 33, 自然環境保全地域26）

標高約30mの舌状台地上にあり、周囲には池をもつ低湿地が続く。照葉樹林の社地は広い。

タブノキ、スダジイ、モミなどが混生し、大木のタ

植 物

ブノキが広い群落をつくる。モミが大径木となって混生していることは、潜在植生の上から珍しい樹相である。

本殿裏の植生は、スダジイ、タブノキ、ヤブツバキなどの常緑樹と、ヤマザクラ、コブシ、ケヤキなどの落葉樹が混生している。また、日当たりのよい草原には、ヤマハッカ、アシボソ、コブナグサ、ユウガギク、サワヒヨドリ、キバナアキギリなどが生育している。路傍には、海辺帰化植物のオオフタバムグラの群落もみられた。

カ 旭村冷水 玉沢稲荷社（調査地点 No.35, 自然環境保全地域27）

旭村の中央東側海岸に面した開析谷の両側および標高30 m の稲荷神社周辺の森林である。谷の斜面は高木層のスダジイ、タブノキ、ヤブツバキ、シロダモ、亜高木層にヤブツバキ、トベラ、モチノキ、シロダモ、低木層にヤツデ、ヒサカキ、スダジイ、草本層にアスカイノデ、ベニシダ、アズマネザサ、ジャノヒゲ、テイカカズラなどの暖帯性や海岸性の植物が生育し、タブーイノデ群集の照葉樹林である。

また、推定樹齢800年のスダジイのある神社の裏側には、ヤブツバキを優占種としてスダジイ、タブノキなどの常緑樹林がある。ここは海に向かっての台地突端であり、強い風が当たるので、常緑樹の樹高が4～5 m と低木化しており、生態的にも海岸性の特徴を示している。なお、路傍にはオニウシノケグサ、カモガヤ、イヌムギなどの帰化植物が増え、林縁にはスイカズラ、ノブドウ、アカネなどのつる性植物が多く見られる。

キ 旭村弁天 ^{こなま}子生弁天社（調査地点 No. 36, 緑地環境保全地域2）

旭村の北東部国道51号線及び子生集落の西側に位置し、その面側から東西に向かって細長く発達した谷津田に面した斜面と標高30 m の台地からなっている地域である。ここの植生は、樹勢のよいスギ、ヒノキの人工林と、一部斜面にスダジイ、タブノキなどの常緑広葉樹が密に混生している地域からなっている。その中には、地域的には珍しいモミが生育しているなど、良好な自然環境が見られる。

スギ、ヒノキの人工林の低木層にはヒサカキ、ムラサキシキブ、ゴンズイなどが生育しており、林床にはテイカカズラ、ハナタデ、マムシグサ、カシワバハグマ、チゴユリ、ベニシダ、イヌガンソク、トウゲシバ

などが見られ、豊かな植生を示している。さらに、ミヨウガ、ヒメヒオウギズイセンなどの逸出植物も多い。なお、林縁にハシカグサが認められた。また、斜面にはスギ、スダジイ、ホオノキの大木が見られる。

ク 大洗町成田 成田神明社（調査地点 No.38）

原研大洗研究所の西側約1 km の標高25 m の台地に神明社がある。北側の谷津田に連なる低湿地に御手洗池があり、その周囲に常緑広葉樹が群生している。スダジイを優占種としてタブノキ、ヤブツバキ、ユズリハなどの高木層、スダジイ、ヒサカキなどの亜高木層、林床にはユズリハ、ヒサカキ、ツルグミ、タブノキ、スダジイなどの低木が多く見られる。また、サネカズラ、ツルグミ、サカキなどの暖帯性の植物が見られ、階層構成の安定した極相林である。御手洗池付近にはセキシヨウなどの湿地植物が多い。サイハイラン、トウゲシバが自生している。

ケ ひたちなか市磯崎町 ^{さかつらいぞぎ}酒列磯前神社（調査地点 No. 46）

阿字ヶ浦に臨む標高30 m の台地突端の境内林である。参道の両側は、スダジイ、タブノキ、ヤブツバキなどの高木の下にモチノキ、ヒサカキ、ヤツデ、アオキなどの低木が群生している照葉樹林である。林床にはトベラ、ヤブソテツなどが生育し、林縁にはラセイタソウ、オニヤブソテツ、ハマギクなどが見られ、海岸の社寺林の特徴を示している。なお、社殿の北および東側の樹林は最も自然林の面影をとどめており、高木が多く、林床にシロダモ、ヒサカキ、ナキリスゲ、トベラなど暖帯性の林相を示している。また、ドクウツギが自生している。

3. 注目される主な植物（絶滅危惧種・北限種・南限種等）の分布

今回の調査で確認された植物を、(1) 絶滅危惧植物、(2) 温帯性植物、(3) 暖帯性植物、(4) その他の植物の4つの観点から検討して種を選定した(表2)。()内の数字は調査地点を示す。

(1) 絶滅危惧種

取り上げた種は、茨城県環境保全課(1997)および環境庁自然保護局野生生物課(編)(2000)でリストアップされたものである。これらのうちには、今回の調査によりはじめて生育を確認した種もある。

① ハマナデシコ ナデシコ科

本州～沖縄の海岸に生育する。鹿嶋市以南ではやや普通に見られるが、北上するとともに減少し、太平洋側では岩手県中部海岸を北限とする。花が美しいので、乱獲の対象となる。

確認地点: 波崎町 (4) (6) (7) (11), 神栖町 (13) (14), 鹿嶋市 (16) (17) (18) (20) (21) (22) (23) (24), 銚子市 (30), ひたちなか市 (42)。

② イワダレソウ クマツヅラ科

関東地方南部～沖縄の海岸に生育し、銚子市が北限



図 2. イワダレソウ。

とされている。県内では、長本ほか (1956) は波崎町太田で記録し、佐藤新司は1958年ごろ須田浜で採集しているが、その後は生育が確認されていない。今回、波崎海岸砂丘植物公園内の土手の礫籠上に生育している個体を確認した。ただし、この礫籠の由来は不明であり、自生か否か疑問を残す。なお、銚子市観光協会 (1965) によると銚子市黒生 (岩場)、海鹿島 (草地)、君ヶ浜 (砂礫地) を生育地としてあげており、銚子市との関係を考慮する必要がある。

確認地点: 波崎町 (5)。

③ エゾオオバコ オオバコ科

温帯性の海浜植物で、太平洋側の南限はひたちなか市である。今回、同市平磯の茨城県水産試験場付近で生育を確認した。

確認地点: ひたちなか市 (42)。

④ イソギク キク科

斎藤卯内 (1939) はイソギクの北限を須田新田と報じ、長本ほか (1956) はイソギクを鹿島で確認し、鈴木 (1970) は、鹿島町下津にイソギク、日立市水木に

表 2. 絶滅危惧種・分布極限種の選定基準。

種名	確認地点数	茨城版レッドデータブックの基準	環境庁基準	茨城県特定動植物基準	備考
1. 絶滅危惧植物					
ハマナデシコ <i>Dianthus japonicus</i>	16	危急種		絶滅の危機	
イワダレソウ <i>Lippia nodiflora</i>	1	絶滅種		北限	
エゾオオバコ <i>Plantago camtschatica</i>	1	絶滅危惧種		南限	
イソギク <i>Dendranthema pacificum</i>	2	絶滅種		北限	
ミズアオイ <i>Monochoria korsakowii</i>	1	危急種	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅の危機	
ミクリ <i>Sparganium erectum</i>	2	危急種	準絶滅危惧	絶滅の危機	
ハマカキラン <i>Epipactis papillosa</i> var. <i>sayekiana</i>	4	危急種	絶滅危惧Ⅱ類	分布域限定	
エビネ <i>Calanthe discolor</i>	1	絶滅危惧種	絶滅危惧Ⅱ類	乱獲	
2. 温帯性植物					
ハマナシ <i>Rosa rugosa</i>	6	危急種		南限	
マルバトウキ <i>Ligusticum hultenii</i>	1	危急種		南限	
シロヨモギ <i>Artemisia stelleriana</i>	5	危急種		南限	
コハマギク <i>Dendranthema arcticum</i> subsp. <i>maekawanum</i>	3	希少種		南限	
ハマギク <i>Nipponanthemum nipponicum</i>	3	希少種		南限	
スカシユリ <i>Lilium maculatum</i>	12			絶滅の危機	南部海岸激減
3. 暖帯性植物					
タチシノブ <i>Onychium japonicum</i>	1			北限に近い	
アカバナリハコベ <i>Anagallis arvensis</i> form. <i>phoenicea</i>	3				新たに確認
タイトゴメ <i>Sedum uniflorum</i> subsp. <i>oryzifolium</i>	5				北限と思われる
カクレミノ <i>Dendropanax trifidus</i>	3	危急種		北限に近い	
ハマウド <i>Angelica japonica</i>	2				新たに確認、北限と思われる
カラタチバナ <i>Ardisia crispa</i>	3			北限に近い	
グンバイヒルガオ <i>Ipomoea pes-caprae</i>	5				漂着、一過性
ネコノシタ <i>Wedelia prostrata</i>	16	希少種		北限に近い	
ワセオバナ <i>Saccharum spontaneum</i> var. <i>arenicola</i>	14				北限と思われる
ピロードテンツキ <i>Fimbristylis sericea</i>	12			北限	
マヤラン <i>Cymbidium nipponicum</i>	1	危急種	絶滅危惧ⅠB類	北限	
コ克蘭 <i>Liparis nervosa</i>	2	危急種		北限に近い	
4. その他の植物					
マルバマンネングサ <i>Sedum makinoi</i>	1				県北山地の岩上
ハマゼリ <i>Cnidium japonicum</i>	3				南部海岸ごくまれ
ハマボウフウ <i>Glehnia littoralis</i>	19				乱獲
ハマボス <i>Lysimachia mauritiana</i>	2				南部海岸みられず

ハナイソギクの生育を確認し、鹿島がイソギクの北限と考えられると記している。斉藤吉永（1971）は下津海岸で僅かのイソギクと1株のハナイソギクを見たと報じている。その後の消長については不明のまま、佐竹ほか（1981）は、イソギクは海岸の崖に生え、千葉県犬吠埼から静岡県御前崎まで分布すると記している。茨城県環境保全課（1997）はイソギクを絶滅種として取り扱っている。

今回の調査で、波崎町舎利浜の小砂丘上にイソギクおよびハナイソギクの群生を確認した。ただし、付近に住居跡があり、自生か否か検討の余地がある。また、波崎海岸砂丘植物公園には多数のイソギクが植栽されており、敷地外に逸出開花している個体をいくつも見た。今後、この地区のイソギクの分布に関して十分考慮すべきであろう。

ハナイソギクは鹿嶋市荒井浜ほかでも確認したが、イソギクと栽培ギクとは、必ずしも接近していなくとも虫媒による交雑の可能性もあり得るのではないかと

確認地点：イソギク、波崎町（6）（7）、ハナイソギク、波崎町（6）、鹿嶋市（22）、ひたちなか市（42）。

⑤ ミズアオイ ミズアオイ科

海浜植物ではないが、知手浜の工場造成地内の人工河川で生育を確認した。在来の植物が意外な所で生育している例である。

確認地点：神栖町（13）。

⑥ ミクリ ミクリ科

神栖町ではミズアオイと同一地点で、他は台地から流入する小川で生育を確認した。

確認地点：神栖町（13）、大洋村（28）。

⑦ ハマカキラン ラン科

青森県～愛知県の海岸のクロマツ林内に生育する。鹿島町教育委員会（1979）は、鹿島町国末浜から粟生浜の群生地をあげ、佐藤（1987）は波崎町利根川べりのクロマツ林内で確認している。今回4カ所で確認した。

確認地点：波崎町（11）（12）、神栖町（14）、大洗町（39）。

⑧ エビネ ラン科

照葉樹林の林床に1ヶ所、生育を確認した。



図3. ハマカキラン。

確認地点：大洋村（生育地保護のため詳細は削除）。

(2) 温帯性植物

温帯性植物のうち、茨城県を南限とするものおよび乱獲等により著しく減少したものを取り上げた。

① ハマナシ（ハマナス）バラ科

海岸砂地に生育し、太平洋側では茨城県南部海岸が南限である。鈴木（1970）は、ハマナシは県北海岸で見られなくなったとし、海浜植物調査会（1992）でも県中央部海岸より北でハマナシを確認していないと記している。今回の調査で6カ所生育を確認したが、その中に国指定天然記念物ハマナス南限地と波崎町指定文化財ハマナス群生地を含む。長本ほか（1956）が記録しているひたちなか市では確認できなかった。

確認地点：波崎町（6）（11）、鹿嶋市（16）（24）、旭村（32）、大洗町（40）。

備考：波崎町のハマナシについては佐藤（1979）の記録がある。

② マルバトウキ セリ科

海岸の崖地などにまれに生育し、ひたちなか市海岸が南限である。今回の調査では、ひたちなか市の放射線医学研究所下の海岸で確認した。

確認地点：ひたちなか市（45）。



図4. マルバトウキ.

③ シロヨモギ キク科

海岸の砂地に生育し、茨城県が南限である。和田(1964)は旭村玉田海岸のシロヨモギを南限とした。これが、現行の図鑑類に記載されているものである。野原(1985)は大洋村別所釜海岸で、海浜植物調査会(1992)は旧大野村で生育を確認した。今回の調査では、5カ所で生育を確認した。

確認地点: 大洋村(27)(28)、銚田町(30)(31)、旭村(34)。

備考: 玉田海岸の自生地は護岸工事のため消滅した。

④ コハマギク キク科

海岸の岩上や崖地に生育し、ひたちなか市が南限である。県北部海岸にはやや多く見られる。

確認地点: ひたちなか市(42)(43)(44)

⑤ ハマギク キク科

海岸の岩上や崖地に生育し、ひたちなか市が南限である。県北部海岸には普通に見られる。

確認地点: ひたちなか市(41)(42)(46)

⑥ スカシユリ ユリ科

海岸の砂浜や崖地に生育し、太平洋側では紀伊半島以北に分布する。花が美しいので乱獲され、個体数は著しく減少している。

確認地点: 波崎町(6)(7)(11)、鹿嶋市(17)(21)(22)(24)、銚田町(31)、旭村(32)(37)、ひたちなか市(42)(43)。

(3) 暖帯性植物

暖帯性植物のうち、茨城県を北限とするものおよびそれに近いものなどを取り上げた。

① タチシノブ ホウライシダ科

太平洋側の北限地は、福島県いわき市である。照葉樹林内の斜面で1カ所生育を確認した。

確認地点: 鹿嶋市(15)。

② アカバナリハコベ サクラソウ科

1~2年草で沿海性、全世界の温熱帯に分布する。長田(1976)は、従来小笠原諸島でみられていたが、戦後本州や四国で時々出会うようになったと記している。千葉県や神奈川県植物誌に記載がないが、杉本(1984)は清水市(1952)まれ、と記録している。平泉近郊の麦畑で生育していたという小水内(1978)の報告もある。

茨城県では、1985年7月に波崎町柳川飛地で佐藤新司が発見、翌年にも再確認している。今回、茨城県南部海岸3カ所で生育を確認した。

確認地点: 波崎町(1)、神栖町日川浜、鹿嶋市(16)。



図5. アカバナリハコベ.

③ タイトゴメ ベンケイソウ科

海岸の岩上に生え、太平洋側では銚子市が北限とされている。銚子市観光協会(1965)はタイトゴメの生育場所に岩石の間、崖面、礫地、砂地をあげている。なお、鹿島灘沿岸地区(引用者注: 波崎町)でも生育がみられたとしている。一般に岩石の間などに生育する傾向があるので、今後海岸の護岸堤・ヘッドランド周囲を注意する必要がある。

確認地点: 神栖町(13)、鹿嶋市(16)(24)、ひたちなか市(41)(42)。

④ カクレミノ ウコギ科

福島県以南の照葉樹林内に生育する。今回の確認地

植 物

点は、いずれも社寺林である。

確認地点: 鹿嶋市 (15) (19), 大洋村 (29)。

⑤ ハマウド セリ科

海岸に生育し、銚子市が北限といわれている。今回、海岸クロマツ林下と海岸砂地で生育を確認した。

確認地点: 波崎町 (9), 鹿嶋市下津。

備考: 棚谷 (1998) はハマウドについて報告している。



図 6. ハマウド。

⑥ カラタチバナ ヤブコウジ科

福島県以南の照葉樹林下に生育する。今回の確認地点は、いずれも社寺林である。

確認地点: 鹿嶋市 (15) (19), 大洋村 (29)。

⑦ グンバイヒルガオ ヒルガオ科

四国・九州南部以南、亜熱帯・熱帯の海岸砂地に生育する。茨城県では漂着種子が発芽し、ある程度生長することもあるが、寒さのため定着することはできない。和田 (1962) は波崎町で、中島 (1970) は日立市久慈浜で、佐藤 (1979) は波崎町でそれぞれ生育を確認している。今回 5 カ所で生育を確認したが、1.5 m ほどに生長したものの以外はいずれも幼苗であった。その 1 本を高田和男が持ち帰り、自宅温室で栽培した個体は開花した。

確認地点: 波崎町 (6) (7) (12) および柳川, 鹿嶋市 (16)。

⑧ ネコノシタ キク科

海岸の砂地に生育し、太平洋側では日立市が北限と

考えられている。茨城県南部海岸では普通に見られる。

確認地点: 波崎町 (6) (7) (11) (12), 鹿嶋市 (16) (17) (18) (20) (22) (24), 大洋村 (28), 銚田町 (30) (31), 旭村 (32) (34) (37)。

備考: 分布については海浜植物調査会 (1992) の報告がある。

⑨ ワセオバナ イネ科

海岸に生育し、関東地方南部から東海地方にかけて分布する。ひたちなか市が北限と考えられる。茨城県南部海岸ではやや普通に見られる。

確認地点: 波崎町 (1) (4) (6) (7) (11) (12), 神栖町 (13) (14), 鹿嶋市 (16) (17), 大洋村 (26), 銚田町 (31), 旭村 (34), 大洗町 (39)。

備考: 分布については海浜植物調査会 (1992) の報告がある。

⑩ ビロードテンツキ カヤツリグサ科

海岸の砂地に生育し、太平洋側では茨城県東海村が北限と考えられる。茨城県南部海岸ではやや普通に見られる。

確認地点: 波崎町 (1) (6) (7) (11) (12), 神栖町 (14), 鹿嶋市 (17), 大洋村 (28), 銚田町 (30), 旭村 (32) (37), 大洗町 (39)。

備考: 分布については海浜植物調査会 (1992) の報告がある。

⑪ マヤラン ラン科

照葉樹林下に生育し、関東地方南部以西に分布する。日立市のマヤランが再確認されていないので、今回の調査の確認地が北限と思われる。

確認地点: ひたちなか市 1 カ所 (生育地保護のため詳細は削除)。

備考: マヤランについては、安 (1973), 佐藤 (1987), 環境を守る日立市民会議 (1988) の報告がある。

⑫ コ克蘭 ラン科

福島県いわき市以南の、主として照葉樹林下に生育する。今回 2 カ所で生育を確認したが、1 カ所は照葉樹を伴うクロマツ林下であった。

確認地点: 波崎町 1 カ所, 鹿嶋市 1 カ所 (生育地保護のため詳細は削除)。

(4) その他の植物

分布の傾向に特徴がある種、乱獲の対象になってい

る種、当地区で新たに確認された種を取り上げた。

① オニハマダイコン アブラナ科

今回、本州太平洋岸で新たに生育が確認された帰化海浜植物である。

浅井（1982）は新潟県北部の海岸砂丘地で採集された標本を検討した結果、本邦新産種であることが判明し、オニハマダイコンの和名を与えた。その後1991年山形県、1993年秋田県、1995年北海道日高地方（浅井、1996）、そして今回茨城県波崎町の海岸で発見された。

1998年10月12日波崎町舍利浜を調査した際、階段状に設置された護岸のコンクリートブロックの堆砂上やすき間に異様な植物を3株発見した。同地から採取生育させた標本を東京大学総合研究博物館大場秀章教授に送付、同定を依頼した結果、種名が判明した。

オニハマダイコンは海岸砂地に生育する一年生（ないしは二年生）草本、全草多肉質無毛で光沢を帯びた淡緑色を呈する。茎は直立し、多数の枝を出し、高さ40～50 cm、時に横臥しブッシュ状となる。葉は互生し多肉質、へら状ないし卵状披針形で長さ2～6 cm、全縁または大形不整波状縁、時に歯状縁または浅く羽裂する。花期は6～9月、10～20 cmの総状花序に径6 mmほどの白ないし桃紫色の4弁の花をつける。果実（角果）は特異的で上下2節の果体が合着し、上節はほぼ球形で約8 mm、先端は短いくちばし状、下節は円柱状で、長さ7 mm、径5 mm内外で3 mmほどの短柄がある。各室に1種子を生じ、成熟すると上節は脱落し、下節は残存する。いずれも裂開しない。また、下節の種子は未成熟に終わることもある。

原産地は北アメリカ東部沿岸地方、英名は American sea-rocket.

なお、波崎海岸では1999年にさらに個体数を増し、分布域拡大の傾向にある。

確認地点：波崎町（7）



図7. オニハマダイコン群落。

備考：本調査にあたり同定、資料の提供等、種々ご教示を賜った大場秀章、浅井康宏両氏に対し深く感謝の意を表す。

② マルバマンネングサ ベンケイソウ科

茨城県では北部山地に普通に見られ、岩上に生育することが多い。今回の調査で、漁港のコンクリート上の堆砂に生育しているのを確認した。

確認地点：波崎町（1）

③ ハマゼリ セリ科

海岸の礫地や崖地に生育し、茨城県内では北部海岸に多い。今回確認した鹿嶋市の生育地では、護岸堤の石垣間の堆砂に生育していた。護岸やヘッドランドが新たな生育場所になる可能性が考えられる。

確認地点：鹿嶋市（18）、ひたちなか市（42）（45）。

④ ハマボウフウ セリ科

海岸砂地に生育し、山菜として乱獲され激減したといわれている。今回19カ所で生育を確認したが、その各地点で1ないし数個体を確認したにすぎず、決して量的に多いものではない。

確認地点：波崎町（6）（7）（11）（12）、鹿嶋市（16）（17）（18）（20）（21）（22）（23）（24）、大洋村（28）、銚田町（30）（31）、旭村（32）（34）（37）、大洗町（39）。

⑤ ハマボッサ サクラソウ科

海岸の礫地や砂地に生育する。茨城県内の分布はひたちなか市以北であるが、過去に波崎町に記録があり、現在銚子市にも生育している。ハマゼリと同様新たな生育地の可能性が考えられる。

確認地点：ひたちなか市（42）（45）。

備考：波崎のハマボッサについては、銚子市観光協会（1965）、佐藤（1991）の報告がある。

⑥ 新たに確認された植物

今回の調査分担区域内で新たに生育が確認された種（前述種は略）の主なものとして、ハチジョウクサイチゴ（バラ科、大洋村）、トガリバツメクサ（マメ科、波崎町）、ツボミオオバコ（オオバコ科、波崎町）、アメリカオニアザミ（キク科、神栖町）、イガオナモミ（キク科、波崎町・鹿嶋市・大洗町）があげられる。



図8. アメリカオニアザミ.

付記

調査対象地外であったが、調査地付近で絶滅が危惧される下記の種を確認した（産地の詳細は省略）。

マツバラシ（マツバラシ科、波崎町）、ヌマダイコン（キク科、波崎町）、ウラギク（キク科、波崎町）、キンガヤツリ（カヤツリグサ科、波崎町）。

引用文献

- 浅井康宏. 1982. 北米原産の新帰化植物オニハマダイコン（新称）について. 植物研究雑誌, 57: 187-191.
- 浅井康宏. 1996. アブラナ科の帰化植物オニハマダイコン追記. 植物研究雑誌, 71: 50-52.
- 銚子市観光協会. 1965. 銚子の自然. 275 pp., 銚子市観光協会.
- 茨城県環境保全課. 1997. 茨城における絶滅のおそれのある野生生物〈植物編〉. 253 pp., 茨城県環境保全課.
- 茨城県環境局. 1985. 茨城の特定動植物の分布. 532 pp., 茨城県環境局.
- 茨城県高等学校教育研究会生物部. 1970. 昭和44年度特別地域自然財分布調査報告書.
- 茨城県高等学校教育研究会生物部. 1971. 昭和45年度自然財分布調査報告書, 106 pp.
- 茨城県高等学校教育研究会生物部. 1972. 昭和46年度特別地域自然財分布調査報告書, 190 pp.
- 茨城県生活環境部. 1995. 茨城県の特定動植物の分布—植物編—. 494 pp., 茨城県生活環境部.
- 海浜植物調査会. 1992. 茨城の海浜植物. 茨城の生物平成4年版. pp.117-122, 茨城県高等学校教育研究会生物部.
- 環境を守る日立市民会議（編）. 1988. 日立の植物. 295 pp., 日立市.
- 環境庁自然保護局野生生物課（編）. 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—8 植物I（維管束植物）. 660 pp., 財団法人自然環境研究センター.
- 鹿島町教育委員会（編）. 1979. 鹿島の植生. 236 pp., 鹿島町教育委員会.
- 小水内長太郎. 1978. 高等植物分布資料（98）アカバナリハコベ. 植物研究雑誌, 53: 274.
- 水戸博物学会（編）. 1938. 鹿島神宮神域の植物目録. 宮幣大社鹿島神宮社務所.
- 中島明男. 1970. グンバイヒルガオを久慈浜海岸で見. フロラ茨城, 50: 3-4.
- 野原幸之助. 1975. 鹿行の植物. 129 pp., やまと孔版社.
- 野原幸之助. 1985. シロヨモギの南限地を確かめる. 鹿行の自然, 6: 75.
- 長本欣三・佐藤正己・鈴木昌友・田所稔朗・光榮弘. 1956. 茨城県植物目録第1版. 94 pp., 茨城県植物目録刊行会.
- 長田武正. 1976. 原色日本帰化植物図鑑. 425 pp., 保育社.
- 斉藤卯内. 1939. 茨城・千葉・福島に於ける主な海浜植物の分布. 茨城博物同行人会誌, 12: 10-17.
- 斉藤吉永. 1971. 茨城県の植物覚え書（2）ハナイソギクを鹿島に採る. フロラ茨城, 51: 5.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村二郎・亘理俊次・富成忠夫（編）. 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ. 259 pp., 平凡社.
- 佐藤新司. 1979. ふるさとの生き物自慢. 鹿行の自然, 1: 53-54.
- 佐藤新司. 1987. 波崎町の植物紹介（3種）. 鹿行の自然, 7: 17-19.
- 佐藤新司. 1991. 波崎町の主な植物自生地案内図（謄写印刷）.
- 杉本順一. 1984. 静岡県植物誌. 814 pp., 第一法規.
- 鈴木昌友. 1970. 茨城の植物. 490 pp., 茨城新聞社.
- 棚谷満広. 1998. 鹿行植物管見（9）ハマウド. 鹿行生物愛好会ニュース, 17: 4-5.
- 和田 幸. 1962. 海浜植物採集記（1）グンバイヒルガオ. フロラ茨城, 18: 6.
- 和田 幸. 1964. 海浜植物採集記（3）シロヨモギ. フロラ茨城, 23: 3-4.
- 安 昌美. 1973. マヤランの産地. フロラ茨城, 58・59: 2-3.

参考文献

- 千葉県生物学会（編）. 1975. 新版千葉県植物誌. 567 pp., 井上書店.
- 福島県植物誌編さん委員会（編）. 1987. 福島県植物誌（1987）. 481 pp., 福島県植物誌編さん委員会.
- 茨城県環境管理課. 1984. 北浦・鹿島灘県立自然公園候補地学術調査報告書. 198 pp., 茨城県環境管理課.
- 茨城県環境局. 1979. 茨城の保全地域第1集. 136 pp., 茨城県環境局.
- 茨城県環境局. 1979. 茨城の緑地環境保全地域. 151 pp., 茨城県環境局.
- 茨城植物研究会（編）. 1986. 茨城植物研究第1号. 98pp., 茨城植物研究会.
- 神奈川県植物誌調査会・神奈川県立博物館（編）. 1988. 神奈川県植物誌1988. 1442 pp., 神奈川県立博物館.
- 宮脇昭. 1977. 日本の植生. 535 pp., 学習研究社.
- 宮脇昭・奥田重俊・藤原一絵・木村雅史・箕輪隆一・弦牧久仁子・片桐正行・山崎惇・荻原忠敬・成瀬正行. 1972. 鹿島及びその周辺地域の植生. 122 pp., 横浜植生学会.
- 長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜. 759 pp., 平凡社.
- 鈴木昌友・清水 修・安見珠子・安 昌美・藤田弘道・中崎保洋・和田尚幸・野口達也. 1981. 茨城県植物誌. 339 pp., 茨城県植物誌刊行会.
- Tiner, R. W. Jr. 1987. A field guide to coastal wetland plants of the north-eastern United States. 285 pp., University of Massachusetts Press, Amherst.

- 上野雄規（編）. 1991. 北本州産高等植物チェックリスト. 365 pp., 東北植物研究会.
- 山と溪谷社（編）. 1970. カラー海辺の花. 199 pp., 山と溪谷社.
- 山崎睦男・野原幸之助・後藤直和・五木田悦郎. 1977. 茨城県の自然. 273 pp., 暁印書館.

調査研究

- 倉本嗣王（元茨城県高等学校教育研究会生物部長, 理学博士）
- 須田直之（元茨城県高等学校教育研究会生物部長）
- 五木田悦郎（元茨城県立水海道第一高等学校教諭）
- 高田和男（元茨城県立取手第一高等学校教諭）
- 棚谷満広（元茨城県立鉾田第一高等学校教諭）
- 野原幸之助（元北浦村立北浦中学校長）

執筆

- 須田直之
- 棚谷満広
- 野原幸之助

調査協力

- 大内 董（土浦植物友の会長）
- 坂寄俊子（取手自然友の会員）
- 佐藤新司（波崎町文化財保護審議会会長）
- 鈴木順子（土浦植物友の会員）
- 松永真弥（土浦植物友の会員）

涸沼の維管束植物

はじめに

涸沼は大洗県立自然公園の一部をなしている。

この涸沼は茨城県東茨城郡茨城町・同郡大洗町および鹿島郡旭村の境にある周囲23.9 km、面積8.8 km²、最大水深3.5 mの湖沼である。かつて1882年（明治15年）には周囲28.8 km、面積11.1 km²あったが、その後沼の西端右岸茨城町宮ヶ崎地区・同町左岸東永寺地区および東北端右岸大洗町神山地区・同左岸茨城町下石崎地先が干拓され湖面が減少した。

沼の西端より茨城町新橋地先で涸沼前川を合流した涸沼川が流入している。湖水は水戸市常澄町と大洗町との間を、東北端より流出し、大洗町とひたちなか市を結ぶ海門橋上流部で那珂川に合流して太平洋に注いでいる。

沼は海と接続しているため、潮位により40 cm 前後の水位変化が見られる汽水湖である。

したがって生息する魚類もコイ・フナなどの淡水性の種とともに汽水性のボラ・ハゼ類・ウグイ・ワカサギなどの種も多く、とくにニシンの南限となっている。またシジミも汽水性のヤマトシジミである。

涸沼は県都水戸市に隣接し、また藩政時代からの内陸水運、海上輸送、の拠点であった那珂湊および景勝地大洗に接して、古くからその景観は称賛されてきた。下石崎広浦は水戸八景の1つとして公園が設けられ、砂州のある上石崎親沢には保養所「涸沼常陽荘」があり、かつては茨城大学涸沼臨湖実験所があった。さらに下石崎には老人保健センター「ひぬま荘」があり、旭村箕輪には勤労者いこいの村「涸沼」があって、休養・観光の地となっている。なお沿岸各地に釣舟の基地が設けられている。

以上のように沿岸各地の湿原が干拓され、耕地化されると共に休養・観光の施設が整備増設され、沿岸のほとんどにコンクリート護岸がほどこされてきた。そのためヨシ・ガマ類・マコモなどの抽水植物群落もごく一部を残し失われ、浮葉性・沈水性の種も見られなかったほどである。

調査方法

1. 調査地の選定（調査地の詳細は図1と表1を参照）

調査地は下記のことを留意して涸沼の湖岸とその近辺に8カ所設定した。

(1) 涸沼湖岸全地域における植生と植物相を明らかに

するために、湖岸がコンクリートの堤防に全く覆われている場所を除き設定した。

(2) 調査地の環境は、湖岸堤外側のヨシ原・堤内の湿地・放置耕作地・遊園地・流入する河川の河口・堤防の内外法面・湖水辺など、幅広い環境に設定した。

2. 調査期間

(1) 平成9年度は9月～10月に全員で3回、平成10年度は8月～9月に全員で2回、平成11年度は4～5月に全員で2回行った。

(2) 各年度毎の中間まとめおよび最終まとめは、県央・南部地域海岸のまとめと同時に行った。

3. 調査項目

維管束植物（シダ植物・種子植物）を対象として、植生の概要と植物相の調査を行った。

調査項目は次のとおりである。

- (1) 各調査地毎の植生概要の記録。
- (2) 各調査地毎に生育する全植物の確認と記録。
- (3) 生育する植物の採集と標本の作成（原則として、花・実が付いている個体を採集、1種の植物につき、全調査地で2～4点作成）、採集植物の目録は付表1に示した。
- (4) 写真の撮影と記録（原則として、採集した全植物の個体と、その生育状況のわかる生態を撮影）。

結果

1. 調査地点の植生概要

涸沼はその沿岸がほとんどコンクリート護岸され、自然の汀帯植生を見ることのできる個所に乏しいため、河口付近、舟溜まり周辺、堤防、堤防に接する休耕地や公園緑地など次の8カ所を選び、調査地とした。

(1) 大洗町松川報国（調査地点No.1）

調査地は涸沼の東岸に位置し、沼岸に沿う干拓地に望む場所である。調査地の干拓地は水田であったが放棄され、ヨシ・ガマ群落となっている所が少ない。近くに養護施設と排水機場があり、沿岸に沿う主要道に面して、大部分は道路に続く草地である。

したがってススキ、ヨモギ、カゼクサ、オオバコ、ヤブカラシ、メヒシバ、ツククサ、カタバミ、スギナ、ヤハズソウなど路傍雑草が主である。またヘラオオバコ、エゾノギシギシ、コメツブツメクサ、ムラサキツメクサ、ヒメオドリコソウなど帰化植物も多い。

しかし干拓地のヨシ・ガマ群落に接する部分や水路

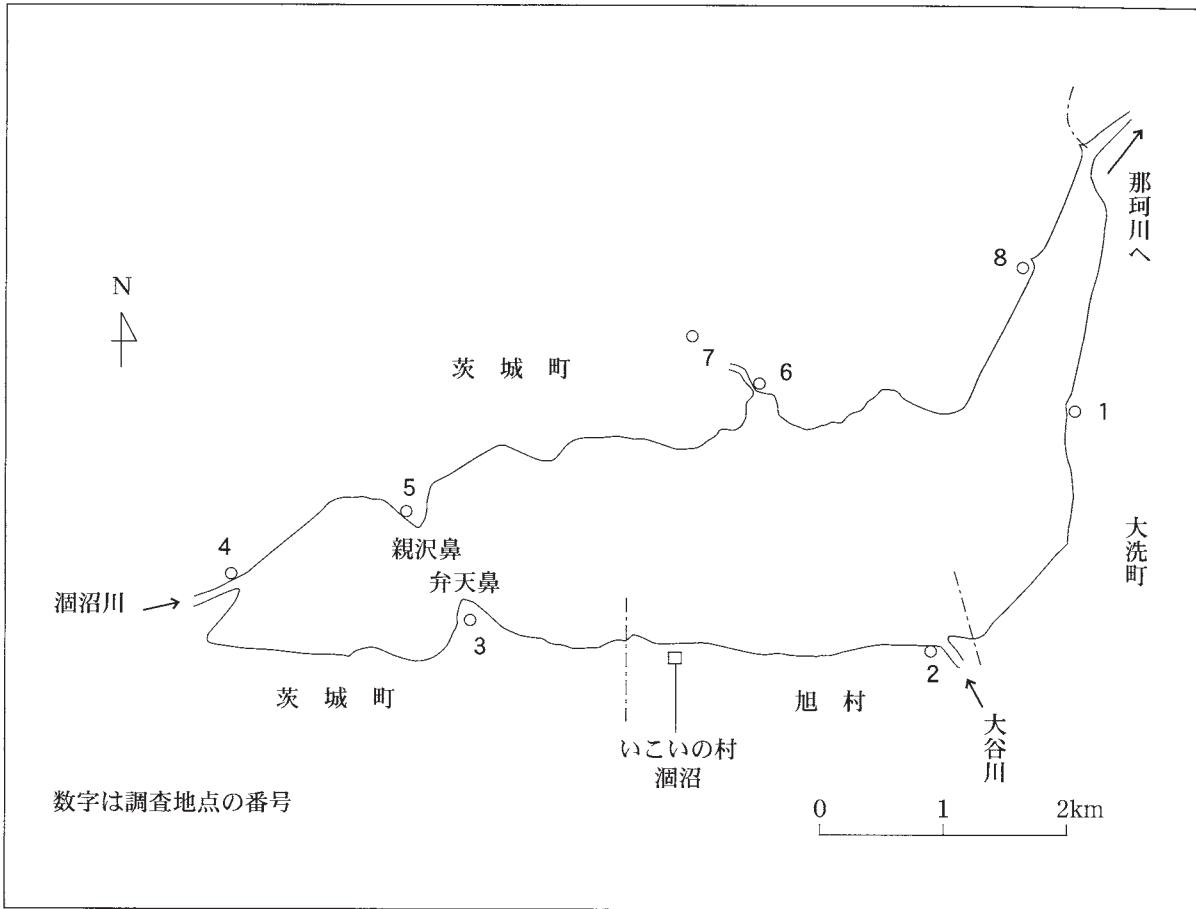


図1. 調査地.

表1. 濁沼とその周辺の調査地及び調査日.

No.	調 査 地	調 査 日		
		1997年	1998年	1999年
1	大洗町松川報国	9/ 16	7/ 21	4/ 26
2	旭村箕輪 大谷川河口	9/ 16	7/ 21	4/ 26
3	茨城町 網掛公園	10/ 6	7/ 21	4/ 26
4	茨城町上石崎 濁沼川河口	10/ 6	8/ 3	5/ 10
5	茨城町親沢 旧茨大臨湖実験所跡	10/ 6		
6	茨城町宮前	10/ 20	8/ 3	5/ 10
7	茨城町中石崎 ひぬま荘北			5/ 10
8	茨城町前谷	10/ 20	8/ 3	5/ 10

の法面にはヨシ、オギとともにウキヤガラ、ウシノシッペイ、ケイヌビエ、シロバナサクラタデ、イシミカワ、ママコノシリヌグイ、カヤツリグサ類など水湿地に生育する種が見られる。とくに水路の縁にアイアシが小群落をつくり生育しているのは特筆されるだろう。

(2) 旭村箕輪大谷川河口（調査地点 No.2）

調査地は潤沼の東南岸に位置し、北流する大谷川の河口左岸に当たる。川および沼の沿岸は全てコンクリート護岸がほどこされている。しかし、大谷川の流入による土砂の堆積のため、川岸にはマコモ、ヨシ、ガマ類が岸をうずめ、その間にショウブ、キショウブなどが見られる。また湖岸には主としてヨシが帯状に群落をつくっている。護岸のコンクリートブロックの面にはツルマンネングサが点々と小群落をなしている。

川に沿う堤防上の道路沿いの集落に近い台地辺縁には小規模の畑地・墓地・マダケ林などが見られる。沼に近い低地は水田となっている。道路に沿ってはヨモギ、メドハギ、メヒシバ、チガヤ、イノコズチ、エノコログサ類などの路傍雑草が続く。

沼畔のヨシ群落と護岸との間にある狭い湿地にはノイバラ、シロバナサクラタデ、イシミカワ、アレチウリ、ヤブマメ、クズなどが見られ、タチヤナギ、オニグルミなどの木本も点々と生育している。

堤防上にはススキ、ワラビ、チガヤなどとともにオニウシノケグサ、オオアワガエリ、シナダレスズメガヤなどのイネ科の帰化植物が目立つ。

水田は休耕している場所が点々とあり、ミゾソバ、チゴザサ、キシウズズメノヒエなどが群落をつくり、その間にオモダカ、コナギ、ヒメガマなどが見られる。また畦にはツボスミレ、コオニタビラコ、セリ、ノミノフスマ、カントウヨメナや白と紫のサギゴケも生育している。

(3) 茨城町網掛（調査地点 No.3）

調査地は潤沼の西南岸に位置し、弁天鼻と呼ばれ、親沢鼻と相対して南方より突出した砂州である。網掛集落の北側、砂州の突端は弁財天社を含め一帯を公園として駐車場・トイレ・広場が設けられている。

沿岸はコンクリート護岸におおわれた堤防によって囲まれ、植生はわずかに小規模な舟だまり周辺にヨシやマコモが生育するのみで、堤外には見るべきものはほとんどない状態である。

堤防の内部法面や路肩にはイヌムギ、シナダレスズ

メガヤ、ネズミムギ、ヒロハウシノケグサ、ススキなどのイネ科植物が多く、その間にハイメドハギやマツヨイグサ類が混じっている。

堤外法面のコンクリートブロック面にはツルマンネングサやシナダレスズメガヤが点々と定着している。

堤防に囲まれた広場は丈低い草地となり、オオバコ、カタバミ、スズメノカタビラ、ツユクサなどとともにシロツメクサ、マメゲンバイナズナ、アメリカクサネム、アメリカスズメノヒエ、ナギナタガヤ、ヒメスイバ、ニワゼキショウなどの帰化植物が多く、3回の調査とも確認種数の30%前後であった。これは調査地が公園であり、人の出入りが多いことによると思われる。

広場の中央には植栽されたタブノキ、エノキ、スダジイ、クロマツ、セイヨウハコヤナギなどよりなる木立がある。

(4) 茨城町上石崎潤沼川河口（調査地点 No.4）

調査地は潤沼西端に位置し、潤沼川が沼に流入する河口左岸である。沿岸はコンクリート護岸された堤防に囲まれ、堤防上は自動車の走れる舗装道路となっている。南側になる堤防外は河口となり、沿岸部はヨシ・ガマ類が帯状に群落をつくり、所々にある舟つなぎの周りにはマコモが生育している。北側は広い干拓地の水田がひろがり、所々に休耕田が見られ、湿性植物が種々観察できた。

堤防法面や路傍にはススキ、セイタカアワダチソウ、メマツヨイグサなどとともに乾燥に強いネズミノオ、シバ、オオバコ、カナビキソウやコマツナギ、マルバハギなども見られた。

堤防外の河口に面する法面にはエノキ、ネムノキ、オニグルミ、タラノキ、ウツギ、ノイバラが点々と生え、その間にミツバアケビ、スイカズラ、フジ、ツルウメモドキ、サルトリイバラ、センニンソウなどのつる植物が低木類をおおっている。舟つなぎの周りにはショウブ、フトイ、ヒメサルダヒコ、クサヨシなどが生育している。

休耕田にはアシカキ、チゴザサ、キシウズズメノヒエなどが群落をつくり、その中にオモダカ、コナギ、クログワイなどが、点々と小群落をつくっている。またイガガヤツリ、タマガヤツリ、カワラスガナ、ミズガヤツリやヒデリコ、テンツキ、ヒメクグなどのカヤツリグサ科の植物が見られた。

この湿地で希少種のミズワラビ、タコノアシ、オオマルバノホロシを確認することができた。

(5) 茨城町上石崎親沢 (調査地点 No. 5)

調査地は酒沼の西北岸に位置し、北方より突出した砂州の先端部である。一帯は親沢鼻と呼ばれて、古くから景勝の地として知られ、保養施設や臨湖実験所(現在廃所)が設けられている。

水辺は木製の護岸がほどこされてはいるものの一部には砂質の汀も見られる。しかし、行楽地であるため踏圧が大きく、路傍雑草のオオバコ、ノチドメ、シロツメクサ、チカラシバ、カゼクサなどが多く見られるだけである。ただし砂質の汀帯にはツルヨシやクワモドキが、やや乾いた場所にはコウボウシバが群落をつくっている。

なお、植栽されたクロマツ、エノキ、マテバシイなどの木立がある。

(6) 茨城町中石崎宮前 (調査地点 No. 6)

調査地は酒沼の北岸に位置し、茨城町の長洲と宮前集落の間に湾入した部分である。湾入部に中石崎地区のほぼ中央を南流する水路が西北方より流入している。水路は両岸に帯状の水田を伴っている。湾入部の沿岸はコンクリート護岸がほどこされた低い堤防に囲まれて、堤外はヒメガマ、マコモ、ヨシなどの大形抽水植物が密生している。またイヌコリヤナギ、タチヤナギ、マルバヤナギやハンノキなど湿地性の木本が点在し、堤防上にはクワ、ヌルデ、サワフタギ、ケヤキ、ネムノキなども見られた。

水路の流入する水門付近の湿地にはミゾソバ、アキノウナギツカミ、キシウスズメノヒエなどとともマツバイ、ヤマイ、アゼガヤツリ、ハマスゲ、メアゼテンツキ、タマガヤツリ、イガガヤツリ、シオクグ、コゴメガヤツリ、カワラスガナ、カサスゲ、ウキヤガラ、カンガレイなどのカヤツリグサ科植物が生育していた。

堤内には新築中の民家があり、周辺部は造成中の裸地がひろがって、ウラジロチチコグサ、ツボミオオバコ、メリケンカルカヤ、オオマツヨイグサ、アレチウリ、ハルザキヤマガラシなど帰化植物が、メヒシバ、スギナ、ノボロギク、スベリヒユ、イヌムギ、シロツメクサ、チガヤなどの路傍雑草とともに多く見られた。なおキランソウも確認できた。

(7) 茨城町中石崎ひぬま荘北 (調査地点 No. 7)

調査地は湖岸の西北方で、宮前で酒沼に流入する川の上流部にある谷津田の休耕田である。ここにはガマ類の群落が多く、その密度が低い場所にサワオグルマ

が多数開花していた。

(8) 茨城町下石崎前谷 (調査地点 No. 8)

調査地は酒沼川の流出部左岸に当たり、前谷集落の東方約500 m に位置する小規模な舟溜まりの周辺である。後背部は広い干拓地となっている。沿岸部はすべてコンクリート護岸がほどこされ、堤防上は無舗装の通路となっている。堤防上の路肩及び法面はススキ、セイタカアワダチソウ、法下はオギなどの大型多年草本やアズマネザサにおおわれ、その辺縁にメマツヨイグサ、ナギナタガヤ、マメグンバイナズナ、カタバミ、オオバコ、クスダマツメクサなどの路傍雑草が多い。その中にフシグロが点々と生育していた。フシグロは県北山地には普通であるが、県中部以南の平地ではきわめてまれである。またオニグルミ、ヌルデ、ネムノキ、フジなどの低木が点在していた。

堤外汀部の植生は、ヨシを主とし幅数 m の帯状をなしている。ヨシ群落の辺縁にはミゾソバ、ウキヤガラ、ヒロハホウキギク、シロバナサクラタデなどが生育して、暖帯性のキシウスズメノヒエも多く見られた。とくにアイアシの群落が1部に見られたことは特筆すべきであろう。アイアシは暖帯性の種で県内での生育はきわめてまれである。

また、護岸堤にコシロノセンダングサ、その下部付近にツルマンネングサも確認された。

2. 注目すべき主な植物 (希少種など)

(1) ミズアオイ ミズアオイ科

環境庁 (絶滅危惧Ⅱ類) 茨城県 (危急種)

県南部の池沼やハス田に生育しているが水質悪化や除草剤の影響によって個体数が減少している。

今回の調査では茨城町上石崎酒沼川河口の休耕田で生育が確認された。

(2) ミズワラビ ホウライシダ科

茨城県 (希少種)

茨城県では中部以南の水田にややまれに見られるが、除草剤の使用や圃場整備により生育場所・個体数とも減少している。

茨城県中部が分布の北限とされている。

今回の調査では茨城町上石崎酒沼川河口付近の休耕田で生育が確認された。

(3) タコノアシ ユキノシタ科

環境庁 (絶滅危惧Ⅱ類) 茨城県 (希少種)

植 物

茨城県内では河川敷・湖岸・湿地、休耕田などでやまれに見られる。しかし、除草剤の使用とともに水辺がコンクリート護岸されたことにより生育地が少なくなっている。

今回の調査では茨城町上石崎涸沼沼川河口付近の休耕田で生育が確認された。

(4) アイアシ イネ科

環境庁（対象外） 茨城県（危急種）

茨城県植物誌（鈴木ほか，1981）によれば分布の確認は茨城町のみがあげられ，茨城県自然博物館第1次総合調査報告書の霞ヶ浦維管束植物目録には含まれていない。

今回の調査では茨城町下石崎前谷と松川報国の2カ所で生育が確認された。

(5) サワオグルマ キク科

環境庁（対象外） 茨城県（対象外）

環境庁，茨城県ともに指定の対象外であるが，茨城県植物誌（前出）によれば分布の確認は北茨城市と水戸市のみである。

また，茨城県自然博物館第1次総合調査報告書の霞ヶ浦目録（前出）においては生育が確認されていない。



図2. サワオグルマ。

引用文献

- 鈴木昌友・清水 修・安見珠子・安 昌美・藤田弘道・中崎保洋・和田尚幸・野口達也. 1981. 茨城県植物誌. 339 pp., 茨城県植物誌刊行会.
- ミュージアムパーク茨城県自然博物館. 1998. 茨城県自然博物館第1次総合調査報告書－筑波山・霞ヶ浦を中心とする県南部地域の自然－. 349 pp., ミュージアムパーク茨城県自然博物館.

参考文献

- 茨城県環境保全課. 1997. 茨城における絶滅のおそれのある野生生物〈植物編〉. 253 pp., 茨城県環境保全課.
- 環境庁自然保護局野生生物課（編）. 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－8 植物I（維管束植物）. 660 pp., 財団法人自然環境研究センター.

調査研究

- 倉本嗣王（元茨城県高等学校教育研究会生物部長，理学博士）
- 五木田悦郎（元茨城県立水海道第一高等学校教諭）
- 須田直之（元茨城県高等学校教育研究会生物部長）
- 高田和男（元茨城県立取手第一高等学校教諭）
- 棚谷満広（元茨城県立鉾田第一高等学校教諭）
- 野原幸之助（元北浦村立北浦中学校長）

執筆

- 五木田悦郎
須田直之

調査協力

- 大内 董（土浦植物友の会長）
坂寄俊子（取手自然友の会員）
鈴木順子（土浦植物友の会員）
松永真弥（土浦植物友の会員）

付表 1. 茨城県央地域の維管束植物目録

学名	和名	調査地						確認種	文献種
		1	2	3	4	5	6		
		No. 調査地						637	153
		1 加波山・雨引山						827	44
		2 吾国山・難台山・愛宕山						776	41
		3 仏頂山・佐白山						934	55
		4 鶏足山・御前山						774	*
		5 県央・南部地域海岸						398	*
		6 湊沼							
		文献種:茨城県植物誌(1981)掲載の未確認種							
シダ植物									
マツバラ科									
1 Psilotum nudum (Linn.) Beauv.	マツバラ							○	
ヒカゲノカズラ科									
2 Lycopodium clavatum Linn.	ヒカゲノカズラ	○	○	○	○				
3 Lycopodium obscurum Linn.	マンネンシギ			○					
4 Lycopodium serratum Thunb.	トウゲシバ	○	○	○	○			○	
イワヒバ科									
5 Selaginella involvens (Sw.) Spring	カタヒバ							○	
6 Selaginella remotifolia Spring	クラマゴケ	○	○	○	○				
7 Selaginella tamariscina (Beauv.) Spring	イワヒバ							○	
ミズニラ科									
8 Isoetes japonica A. Br.	ミズニラ	○	○	○	○				
トクサ科									
9 Equisetum arvense Linn.	スギナ	○	○	○	○			○	○
10 Equisetum palustre Linn.	イヌスギナ				○				
11 Equisetum ramosissimum Desf.	イヌドクサ							○	
ハナヤスリ科									
12 Botrychium japonicum (Prantl) Underw.	オオハナワラビ		○	○	△			○	
13 Botrychium strictum Underw.	ナガホノナツノハナワラビ			△					
14 Botrychium ternatum (Thunb.) Sw.	フユノハナワラビ	○	○	○	○			○	○
15 Botrychium virginianum (Linn.) Sw.	ナツノハナワラビ			△	○				
16 Ophioglossum petiolatum Hook.	コヒロハハナヤスリ			○	○				
17 Ophioglossum thermale Komarov	ハマハナヤスリ				△				
18 Ophioglossum thermale Komarov var. nipponicum (Miyabe et Kudo) Nishida	コハナヤスリ	○		△					
ゼンマイ科									
19 Osmunda japonica Thunb.	ゼンマイ	○	○	○	○			○	○
20 Osmunda lancea Thunb.	ヤシヤゼンマイ				○				
キジノオシダ科									
21 Plagiogyria euphlebia (Kunze) Mett.	オオキジノオ			○	○				
22 Plagiogyria japonica Nakai	キジノオシダ			○	○				
ウラジロ科									
23 Dicranopteris linearis (Burm. fil.) Underw.	コシダ		○	○	○			○	
24 Gleichenia japonica Spr.	ウラジロ	○	○	○	○			○	
フサシダ科									
25 Lygodium japonicus (Thunb.) Sw.	カニクサ	○	○	○	△			○	
コケシノブ科									
26 Crepidomanes birmanicum (Bedd.) K. Iwats.	ハイホラゴケ	○	○		△				
27 Crepidomanes latealatum (v. d. B.) Copel.	アオホラゴケ		○						
28 Crepidomanes minutum (Blume) K. Iwats.	ウチワゴケ	○	○	○	○				
29 Hymenophyllum barbatum (v. d. B.) Baker	コウヤコケシノブ	○	○	○	○				
30 Hymenophyllum polyanthos (Sw.) Sw.	ホソバコケシノブ	△			○				
31 Hymenophyllum wrightii van den Bosch	コケシノブ	○	△						
コバノイシカグマ科									
32 Dennstaedtia hirsuta (Sw.) Mett. ex Miq.	イヌシダ	○	○	○	○			○	
33 Dennstaedtia scabra (Wall. ex Hook.) Moore	コバノイシカグマ				○				
34 Dennstaedtia wilfordii (Moore) Christ	オウレンシダ	△	○	○	○				
35 Hypolepis punctata (Thunb.) Mett. ex Kuhn	イワヒメワラビ		○		○				
36 Microlepia marginata (Panzer) C. Chr.	フモトシダ	○	○		○			○	
37 Pteridium aquilinum (Linn.) Kuhn	ワラビ	○	○	○	○			○	○
ホングウシダ科									
38 Sphenomeris chinensis (Linn.) Maxon	ホラシノブ	○	○	○	○				
シノブ科									
39 Davallia mariesii Moore ex Baker	シノブ							○	
ホウライシダ科									
40 Adiantum monochlamys Eaton	ハコネシダ							○	
41 Adiantum pedatum Linn.	クジャクシダ	○	△	○	○				
42 Ceratopteris thalictroides (Linn.) Brongn.	ミズワラビ								○
43 Coniogramme intermedia Hieron.	イワガネゼンマイ		○		○				
44 Coniogramme japonica (Thunb.) Diels	イワガネソウ	○	○	○	○			○	
45 Onychium japonicum (Thunb.) Kunze	タチシノブ		○					○	
シシラン科									
46 Vittaria flexuosa Fee	シシラン				○				
イノモトソウ科									
47 Pteris cretica Linn.	オオバノイノモトソウ	○	○	○	○			○	○

植 物

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
48 <i>Pteris excelsa</i> Gaud.	オオバナノハチジョウシダ		○					
49 <i>Pteris multifida</i> Poir.	イノモトソウ	○	○	○	○	○		
チャセンシダ科								
50 <i>Asplenium incisum</i> Thunb.	トラノオシダ	△	○	○	○	○	○	
51 <i>Asplenium normale</i> D. Don	ヌリトラノオ					○		
52 <i>Asplenium ruprechtii</i> Kurata	クモノスシダ		△	△	△			
53 <i>Asplenium sarelii</i> Hook.	コバノヒノキシダ			○				
54 <i>Asplenium scolopendrium</i> Linn.	コタニワタリ		△		○			
55 <i>Asplenium tenuicaule</i> Hayata	イワトラノオ	○	△		○			
シンガシラ科								
56 <i>Blechnum niponicum</i> (Kunze) Makino	シンガシラ	○	○	○	○	○		
57 <i>Woodwardia orientalis</i> Sw.	コモチシダ	○	○	△				
オシダ科								
58 <i>Arachniodes borealis</i> Serizawa	ホソバナライシダ	○	○		○			
59 <i>Arachniodes mutica</i> (Franch. et Savat.) Ohwi	シノブカグマ				○			
60 <i>Arachniodes simplicior</i> (Makino) Ohwi	ハカタシダ		○	○				
61 <i>Arachniodes simplicior</i> (Makino) Ohwi var. <i>major</i> (Tagawa) Ohwi	オニカナワラビ				○			
62 <i>Arachniodes standishii</i> (Moore) Ohwi	リョウメンシダ	○	○	○	○	○		
63 <i>Ctenitis maximowicziana</i> (Miq.) Ching	キヨスミヒメワラビ		○		○			
64 <i>Cyrtomium falcatum</i> (Linn. fil.) Presl	オニヤブソテツ		○		○			
65 <i>Cyrtomium foutunei</i> J. Sm.	ヤブソテツ	○	○	○	○	○	○	
66 <i>Cyrtomium foutunei</i> J. Sm. var. <i>clivicola</i> (Makino) Tagawa	ヤマヤブソテツ		○		○			
67 <i>Dryopteris atrata</i> (Wall. ex Kunze) Ching	イワヘゴ		○					
68 <i>Dryopteris bissetiana</i> (Bak.) C. Chr.	ヤマイタチシダ	○	○	○	○	○	○	
69 <i>Dryopteris championi</i> (Benth.) C. Chr. ex Ching	サイゴクベニシダ		○					
70 <i>Dryopteris chinensis</i> (Bak.) Koidz.	ミサキカグマ	○	○	○	○			
71 <i>Dryopteris crassirhizoma</i> Nakai	オシダ	○	○		○			
72 <i>Dryopteris dickinsii</i> (Franch. et Savat.) C. Chr.	オオクジャクシダ		○					
73 <i>Dryopteris erythrosora</i> (Eaton) O. Ktze.	ベニシダ	○	○	○	○	○		
74 <i>Dryopteris hondoensis</i> Koidz.	オオベニシダ	△	○	○	○	○	○	
75 <i>Dryopteris lacera</i> (Thunb.) O. Ktze.	クマワラビ	○	○	○	○	○	○	
76 <i>Dryopteris makinoi</i> Koidz.	マルバベニシダ	△	○	○				
77 <i>Dryopteris monticola</i> (Makino) C. Chr.	ミヤマベニシダ		○					
78 <i>Dryopteris nipponensis</i> Koidz.	トウゴクシダ	△	○	○	○	○	○	
79 <i>Dryopteris pacifica</i> (Nakai) Tagawa	オオイタチシダ	△	○	○	○	○		
80 <i>Dryopteris polylepis</i> (Franch. et Savat.) C. Chr.	ミヤマクマワラビ	○			○			
81 <i>Dryopteris sabaei</i> (Franch. et Savat.) C. Chr.	ミヤマイタチシダ	○	○	○	○			
82 <i>Dryopteris sacrosancta</i> Koidz.	ヒメイタチシダ	○			△			
83 <i>Dryopteris saxifraga</i> H. Ito	イワイタチシダ	○	○	○	○			
84 <i>Dryopteris tokyoensis</i> (Matsum. ex Makino) C. Chr.	タニヘゴ	△			○			
85 <i>Dryopteris uniformis</i> (Makino) Makino	オクマワラビ	○	○	○	○	○	○	
86 <i>Dryopteris x watanabei</i> Kurata	フジオシダ		△					
87 <i>Polystichum craspedosorum</i> (Maxim.) Diels	ツルデシダ		△		○			
88 <i>Polystichum fibrilloso-paleaceum</i> (Kodama) Tagawa	アスカイノデ	△	○	○	○	○		
89 <i>Polystichum longifrons</i> Kurata	アイアスカイノデ	○	○	○	○	○		
90 <i>Polystichum ovato-paleaceum</i> (Kodama) Kurata	ツヤナシイノデ	△	○		○			
91 <i>Polystichum ovato-paleaceum</i> (Kodama) Kurata var. <i>coraiense</i> (Christ) Kurata	イワシロイノデ	△	○	○	○			
92 <i>Polystichum polyblepharum</i> (Roem. ex Kunze) Presl	イノデ	○	○	○	○	○		
93 <i>Polystichum retroso-paleaceum</i> (Kodama) Tagawa	サカゲイノデ		△					
94 <i>Polystichum tagawanum</i> Kurata	イノデモドキ				○			
95 <i>Polystichum tripterum</i> (Kunze) Presl	ジュウモンジシダ	○	○	○	○			
ヒメシダ科								
96 <i>Stegnoگرامma pozoi</i> (Lagasca) K. Iwats. subsp. <i>mollissima</i> (Fischer ex Kunze) K. Iwats.	ミゾシダ	○	○	○	○	○	○	
97 <i>Thelypteris acuminata</i> (Houtt.) Morton	ホシダ		○	○		○	○	
98 <i>Thelypteris decursive-pinnata</i> (van Hall) Ching	ゲジゲジシダ	○	○	○	○	○	○	
99 <i>Thelypteris glanduligera</i> (Kunze) Ching	ハシゴシダ	△	○	○	○	○	○	
100 <i>Thelypteris japonica</i> (Bak.) Ching	ハリガネワラビ	○	○	○	○	○	○	
101 <i>Thelypteris japonica</i> (Bak.) Ching var. <i>glabrata</i> Ching	コウライヤワラシダ	△	△	○	△			
102 <i>Thelypteris laxa</i> (Franch. et Savat.) Ching	ヤワラシダ	○	○	○	○	○	○	
103 <i>Thelypteris nipponica</i> (Franch. et Savat.) Ching	ニッコウシダ					△		
104 <i>Thelypteris palustris</i> (Salisb.) Schott	ヒメシダ	○	○	○	○			
105 <i>Thelypteris phegopteris</i> (Linn.) Slosson ex Rydb.	ミヤマワラビ					○		
106 <i>Thelypteris torresiana</i> (Gaud.) Alston var. <i>calvata</i> (Bak.) Holtt.	ヒメワラビ	○	○	○	△	○	○	
107 <i>Thelypteris viridifrons</i> Tagawa	ミドリヒメワラビ	○	○	○	○	○		
イワデシダ科								
108 <i>Acystopteris japonica</i> (Luerss.) Nakai	ウスヒメワラビ				○			
109 <i>Athyrium deltoideifrons</i> Makino	サトメシダ		○	○	○			
110 <i>Athyrium iseanum</i> Rosenst.	ホソバイヌワラビ		○	○	○			
111 <i>Athyrium niponicum</i> (Mett.) Hance	イヌワラビ	○	○	○	○	○	○	
112 <i>Athyrium vidalii</i> (Franch. et Savat.) Nakai	ヤマイヌワラビ	○	○	○	○	○	○	
113 <i>Athyrium wardii</i> (Hook.) Makino	ヒロハイヌワラビ	△	○	○	○	○		
114 <i>Athyrium yokoscense</i> (Franch. et Savat.) Christ	ヘビノネゴザ	△	○	○	○	○	○	
115 <i>Cornopteris christenseniana</i> (Koidz.) Tagawa	ハコネシケチシダ		○		○			

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
116 <i>Cornopteris crenulatoserrulata</i> (Makino) Nakai	イッポンワラビ	○	○	○				
117 <i>Cornopteris decurrenti-alata</i> (Hook.) Nakai	シケチシダ		○	○	○			
118 <i>Cornopteris decurrenti-alata</i> (Hook.) Nakai var. <i>pilosella</i> H. Ito	タカオシケチシダ				○			
119 <i>Deparia conilii</i> (Franch. et Savat.) M. Kato	ホソバシケシダ	○	○	○	○			
120 <i>Deparia dimorphophylla</i> (Koidz.) M. Kato	セイタカシケシダ	△	○	○	△	○	○	
121 <i>Deparia japonica</i> (Thunb.) M. Kato	シケシダ		○	○	○	○	○	
122 <i>Deparia okuboana</i> (Makino) M. Kato	オオヒメワラビ	△	○		○			
123 <i>Deparia pseudoconilii</i> (Serizawa) Serizawa var. <i>subdeltoifrons</i> (Serizawa) Serizawa	コヒロハシケシダ		△					
124 <i>Deparia pycnosora</i> (Christ) M. Kato	ミヤマシケシダ	○	○		○			
125 <i>Deparia viridifrons</i> (Makino) M. Kato	ミドリワラビ				△			
126 <i>Diplazium mesosorum</i> (Makino) Koidz.	ヌリワラビ			○	○			
127 <i>Diplazium nipponicum</i> Tagawa	オニヒカゲワラビ		○					
128 <i>Diplazium squamigerum</i> (Mett.) Matsum.	キヨタキシダ	○	○	○	○			
129 <i>Diplazium wichurae</i> (Mett.) Diels	ノコギリシダ	○	○					
130 <i>Matteuccia struthiopteris</i> (Linn.) Todaro	クサソテツ	○	○	○	○	○		
131 <i>Onoclea orientalis</i> (Hook.) Hook.	イヌガンソク	○	○	○	○	○		
132 <i>Onoclea sensibilis</i> Linn. var. <i>interrupta</i> Maxim.	コウヤワラビ	○	○	○	○	○		
133 <i>Woodsia manchuriensis</i> Hook.	フクロシダ	○	○	○	○			
134 <i>Woodsia polystichoides</i> Eaton	イワデンダ				△			
ウラボシ科								
135 <i>Crypsinus hastatus</i> (Thunb.) Copel.	ミツデウラボシ	○	○	○	○			
136 <i>Lemmaphyllum microphyllum</i> Presl	マメヅタ	○	○	○	○	○		
137 <i>Lepisorus onoei</i> (Franch. et Savat.) Ching	ヒメノキシノブ	○	○	○				
138 <i>Lepisorus thunbergianus</i> (Kaulf.) Ching	ノキシノブ	○	○	○	○	○		
139 <i>Neocheiropteris ensata</i> (Thunb.) Ching	クリハラン		△					
140 <i>Pyrrosia hastata</i> (Thunb. ex Houtt.) Ching	イワオモダカ				△			
141 <i>Pyrrosia lingua</i> (Thunb.) Farw.	ヒトツバ			○	○			
種子植物 裸子植物								
マツ科								
142 <i>Abies firma</i> Sieb. et Zucc.	モミ	○	○	○	○	○		
143 <i>Pinus densiflora</i> Sieb. et Zucc.	アカマツ		○	○	○	○	○	
144 <i>Pinus thunbergii</i> Parlatores	クロマツ					○	○	
スギ科								
145 <i>Cryptomeria japonica</i> (Linn. fil.) D. Don	スギ		○	○	○	○	○	植栽
ヒノキ科								
146 <i>Chamaecyparis obtusa</i> (Sieb. et Zucc.) Endl.	ヒノキ	○	○	○	○	○		
147 <i>Chamaecyparis pisifera</i> (Sieb. et Zucc.) Endl.	サワラ		○	○	○	○		
148 <i>Juniperus conferta</i> Parlatores	ハイネズ					○		
149 <i>Juniperus rigida</i> Sieb. et Zucc.	ネズミサシ			○	○			
150 <i>Thujopsis dolabrata</i> Sieb. et Zucc.	アスナロ			○				
マキ科								
151 <i>Podocarpus macrophyllus</i> (Thunb.) D. Don	イヌマキ					○		
イヌガヤ科								
152 <i>Cephalotaxus harringtonia</i> (Knight) K. Koch	イヌガヤ	△	○	○	○	○		
イチイ科								
153 <i>Torreya nucifera</i> (Linn.) Sieb. et Zucc.	カヤ	○		○	△	○		
種子植物 被子植物 双子葉植物 離弁花類								
クルミ科								
154 <i>Juglans mandshurica</i> Maxim. var. <i>sachalinensis</i> (Miyabe et Kudo) Kitam.	オニグルミ			○	○	○	○	
155 <i>Pterocarya rhoifolia</i> Sieb. et Zucc.	サワグルミ	○						
ヤナギ科								
156 <i>Populus nigra</i> Linn. var. <i>italica</i> Koehne	セイヨウハコヤナギ						○	植栽
157 <i>Populus sieboldii</i> Miq.	ヤマナラシ	○	○	○	○			
158 <i>Salix bakko</i> Kimura	ヤマネコヤナギ	○	○		○			
159 <i>Salix chaenomeloides</i> Kimura	マルバヤナギ	○					○	
160 <i>Salix eriocarpa</i> Franch. et Savat.	ジャヤナギ	○						
161 <i>Salix futura</i> Seemen	オオキツネヤナギ	○	○					
162 <i>Salix futura</i> Seemen x <i>S. bakko</i> Kimura	オオキツネヤナギ x ヤマネコヤナギ	○						
163 <i>Salix gilgiana</i> Seemen	カワヤナギ	○			○			
164 <i>Salix gracilistyla</i> Miq.	ネコヤナギ	○		○	○			
165 <i>Salix integra</i> Thunb.	イヌコリヤナギ	○	○	○	○		○	
166 <i>Salix integra</i> Thunb. x <i>S. futura</i> Seemen	イヌコリヤナギ x オオキツネヤナギ	○						
167 <i>Salix integra</i> Thunb. x <i>S. sachalinensis</i> Fr. Schm.	イヌコリヤナギ x オノエヤナギ	○						
168 <i>Salix japonica</i> Thunb.	シバヤナギ	○	○					
169 <i>Salix japonica</i> Thunb. x <i>S. futura</i> Seemen	シバヤナギ x オオキツネヤナギ	○						
170 <i>Salix sachalinensis</i> Fr. Schmidt	オノエヤナギ	○			○		○	
171 <i>Salix serissaefolia</i> Kimura	コゴメヤナギ	△			○			
172 <i>Salix subfragilis</i> Andersson	タチヤナギ	○	○		○		○	
173 <i>Salix vulpina</i> Andersson	キツネヤナギ	△	○	○	○			
カバノキ科								
174 <i>Alnus firma</i> Sieb. et Zucc.	ヤシヤブシ		○					

植 物

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
175 <i>Alnus firma</i> Sieb. et Zucc. var. <i>hirtella</i> Franch. et Savat.	ミヤマシャブシ	△						
176 <i>Alnus hirsuta</i> Turcz. var. <i>sibirica</i> (Fischer) C. K. Schn.	ヤマハンノキ			○				
177 <i>Alnus japonica</i> (Thunb.) Steud.	ハンノキ	△	○	○	○		○	
178 <i>Alnus sieboldiana</i> Matsum.	オオバヤシャブシ	○						
179 <i>Betula grossa</i> Sieb. et Zucc.	ミズメ				○			
180 <i>Betula platyphylla</i> Sukatchev var. <i>japonica</i> (Miq.) Hara	シラカンバ	△						
181 <i>Betula schmidtii</i> Regel	オノオレカンバ				○			
182 <i>Carpinus cordata</i> Blume	サワシバ	○			○			
183 <i>Carpinus japonica</i> Blume	クマシデ	○	○	○	○			
184 <i>Carpinus laxiflora</i> (Sieb. et Zucc.) Blume	アカシデ	○	○	○	○			
185 <i>Carpinus tschonoskii</i> Maxim.	イヌシデ	○	○	○	○	○		
186 <i>Corylus sieboldiana</i> Blume	ツノハシバミ	○	○	○	○			
187 <i>Ostrya japonica</i> Sargent	アサダ			○				
ブナ科								
188 <i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ	○	○	○	○	○		
189 <i>Castanopsis sieboldii</i> (Makino) Hatusima ex Yamazaki et Masiba	スダジイ	○	○	○	○	○	○	
190 <i>Fagus crenata</i> Blume	ブナ	○	○	○				
191 <i>Fagus japonica</i> Maxim.	イヌブナ	○	○		○			
192 <i>Lithocarpus edulis</i> (Makino) Nakai	マテバシイ					○		
193 <i>Quercus acuta</i> Thunb. ex Murray	アカガシ	○	○	△		○		
194 <i>Quercus acutissima</i> Carrutherus	クヌギ	○	○	○	○	○		
195 <i>Quercus dentata</i> Thunb. ex Murray	カシワ	△			○			
196 <i>Quercus glauca</i> Thunb. ex Murray	アラカシ		○	○	○			
197 <i>Quercus cuspidata</i> Blume	ミズナラ	○	○					
198 <i>Quercus myrsinaefolia</i> Blume	シラカシ	○	○	○	○	○		
199 <i>Quercus phillyraeoides</i> Asa Gray	ウバメガシ					○	○	植栽
200 <i>Quercus salicina</i> Blume form. <i>angustata</i> (Nakai) H. Ohba	ウラジロガシ	○	○	○	○	○		
201 <i>Quercus serrata</i> Thunb. ex Murray	コナラ	○	○	○	○	○		
202 <i>Quercus sessilifolia</i> Blume	ツクバネガシ			○	○			
ニレ科								
203 <i>Aphananthe aspera</i> (Thunb.) Planch.	ムクノキ		○			○		
204 <i>Celtis jessoensis</i> Koidz.	エゾエノキ				○			
205 <i>Celtis sinensis</i> Persoon var. <i>japonica</i> (Planch.) Nakai	エノキ		○	○	○	○	○	
206 <i>Ulmus davidiana</i> Planch. var. <i>japonica</i> (Rehd.) Nakai	ハルニレ				○			
207 <i>Zelkova serrata</i> (Thunb.) Makino	ケヤキ	○	○	○	○	○	○	
クワ科								
208 <i>Broussonetia kazinoki</i> Sieb.	ヒメコウゾ	○	○	○	○	○	○	
209 <i>Fatoua villosa</i> (Thunb.) Nakai	クワクサ	○	○	○	○	○	○	
210 <i>Ficus nipponica</i> Franch. et Savat.	イタビカズラ	○	○	○	○	○	○	
211 <i>Humulus japonicus</i> Sieb. et Zucc.	カナムグラ	○	○	○	○	○	○	
212 <i>Humulus lupulus</i> Linn. var. <i>cordifolius</i> (Miq.) Maxim.	カラハナソウ				○			
213 <i>Morus alba</i> Linn.	マゴウ					○	○	
214 <i>Morus australis</i> Poir.	ヤマゴウ			○	○	○		
イラクサ科								
215 <i>Boehmeria biloba</i> Wedd.	ラセイタソウ					○		
216 <i>Boehmeria holosericea</i> Blume	オニヤブマオ					○		
217 <i>Boehmeria longispica</i> Steud.	ヤブマオ		○		○	○		
218 <i>Boehmeria nipponivea</i> Koidz.	カラムシ	○	○	○	○	○		
219 <i>Boehmeria nipponivea</i> Koidz. form. <i>concolor</i> (Makino) Kitam.	アオカラムシ	○	○	○	○	○		
220 <i>Boehmeria platanifolia</i> Franch. et Savat.	メヤブマオ	○	○	○	○	○		
221 <i>Boehmeria sieboldiana</i> Blume	ナガバヤブマオ	○	○	○	○	○		
222 <i>Boehmeria spicata</i> Thunb.	コアカソ	○	○	○	○			
223 <i>Boehmeria tricuspis</i> (Hance) Makino	アカソ	○						
224 <i>Boehmeria tricuspis</i> (Hance) Makino var. <i>unicuspis</i> Makino	クサコアカソ				○			
225 <i>Elatostema laetevirens</i> Makino	ヤマトキホコリ		○					
226 <i>Elatostema umbellatum</i> Blume var. <i>majus</i> Maxim.	ウワバミソウ	○	○	○	○			
227 <i>Laportea bulbifera</i> (Sieb. et Zucc.) Wedd.	ムカゴイラクサ	○	○	○	○			
228 <i>Nanocnide japonica</i> Blume	カテンソウ			○	○			
229 <i>Pilea hamaoi</i> Makino	ミズ		○	△	○			
230 <i>Pilea japonica</i> (Maxim.) Hand.-Mazz.	ヤマミズ				○			
231 <i>Pilea mongolica</i> Weddell	アオミズ	○	○	○	○	○		
ビャクダン科								
232 <i>Buckleya lanceolata</i> (Sieb. et Zucc.) Miq.	ツクバネ	○	○	○	○			
233 <i>Thesium chinense</i> Turcz.	カナビキノウ		○	○	○	○	○	
ヤドリギ科								
234 <i>Taxillus kaempferi</i> (DC.) Danser	マツグミ			△				
235 <i>Viscum album</i> Linn. subsp. <i>coloratum</i> Komarov	ヤドリギ		△	○				
タデ科								
236 <i>Antenoron filiforme</i> (Thunb.) Roberty et Vautier	ミズヒキ	○	○	○	○	○		
237 <i>Antenoron neo-filiforme</i> (Nakai) Hara	シンミズヒキ	△	○	○	○			
238 <i>Bistorta tenuicaulis</i> (Bisset et Moore) Nakai	ハルトランノオ	○			○			
239 <i>Persicaria debilis</i> (Meisn.) H. Gross	ミヤマタニソバ		○					
240 <i>Persicaria hydropiper</i> (Linn.) Spach	ヤナギタデ	○	○	○	○	○	○	
241 <i>Persicaria japonica</i> (Meisn.) H. Gross	シロバナサクラタデ					○	○	
242 <i>Persicaria lapathifolia</i> (Linn.) S. F. Gray	オオイヌタデ	○	○	○	○	○	○	

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
243 <i>Persicaria longiseta</i> (De Bruyn) Kitag.	イヌタデ	○	○	○	○	○	○	
244 <i>Persicaria makinoi</i> (Nakai) Nakai	オオネバリタデ		○					
245 <i>Persicaria nepalensis</i> (Meisn.) H. Gross	タニソバ	○			○			
246 <i>Persicaria nipponensis</i> (Makino) H. Gross	ヤノネグサ		○					
247 <i>Persicaria perfoliata</i> (Linn.) H. Gross	イシミカワ	○	○		○	○	○	
248 <i>Persicaria pilosa</i> (Roxb.) Kitag.	オオケタデ			○		○		
249 <i>Persicaria pubescens</i> (Blume) Hara	ボシトクタデ	△	○		△	○		
250 <i>Persicaria scabra</i> (Moench) Mold.	サナエタデ				○			
251 <i>Persicaria senticosa</i> (Franch. et Savat.) H. Gross	マモノシリヌグイ	△	○	○	○	○	○	
252 <i>Persicaria sieboldii</i> (Meisn.) Ohki	アキノウナギツカミ	○	○	○	○	○	○	
253 <i>Persicaria thunbergii</i> (Sieb. et Zucc.) H. Gross	ミゾソバ	○	○	○	○	○	○	
254 <i>Persicaria trigonocarpa</i> (Makino) Nakai	ホソバイヌタデ						○	
255 <i>Persicaria viscofera</i> (Makino) H. Gross	ネバリタデ	○	○		○			
256 <i>Persicaria yokusaniana</i> (Makino) Nakai	ハナタデ	○	○	○	○	○		
257 <i>Pleuropterus multiflorus</i> (Thunb.) Turcz.	ツルドクダミ			○		○		
258 <i>Polygonum aviculare</i> Linn.	ミチヤナギ		○	○	○	○	○	
259 <i>Reynoutria japonica</i> Houtt.	イタドリ	○	○	○	○	○	○	
260 <i>Reynoutria japonica</i> Houtt. form. elata Hiyama	ベニイタドリ	○						
261 <i>Reynoutria sachalinensis</i> (Fr. Schm.) Nakai	オオイタドリ		○					
262 <i>Rumex acetosa</i> Linn.	スイバ	○	○	○	○	○	○	
263 <i>Rumex acetosella</i> Linn.	ヒメスイバ	○	○	○	○	○	○	
264 <i>Rumex conglomeratus</i> Murray	アレチギシギシ			○		○	○	
265 <i>Rumex crispus</i> Linn.	ナガバギシギシ				○	○	○	
266 <i>Rumex japonicus</i> Houtt.	ギシギシ			○	○	○	○	
267 <i>Rumex longifolius</i> DC.	ノダイオウ		△					
268 <i>Rumex madaio</i> Makino	マダイオウ				○			
269 <i>Rumex obtusifolius</i> Linn.	エゾノギシギシ		○	○	○	○	○	
ヤマゴボウ科								
270 <i>Phytolacca americana</i> Linn.	ヨウシュヤマゴボウ	○	○	○	○	○	○	
オシロイバナ科								
271 <i>Mirabilis jalapa</i> Linn.	オシロイバナ					○		逸出
ザクロソウ科								
272 <i>Mollugo pentaphylla</i> Linn.	ザクロソウ		○	○	○			
ツルナ科								
273 <i>Lampranthus spectabilis</i> N. E. Br.	マツバギク					○		逸出
274 <i>Tetragonia tetragonoides</i> (Pall.) O. Kuntze	ツルナ					○		
スベリヒユ科								
275 <i>Portulaca oleracea</i> Linn.	スベリヒユ		○	○	○	○	○	
ナデシコ科								
276 <i>Arenaria serpyllifolia</i> Linn.	ノミノツツリ	△	○	○		○	○	
277 <i>Cerastium glomeratum</i> Thuill.	オランダミミナグサ		○	○	○	○	○	
278 <i>Cerastium holosteoides</i> Fries var. hallaisanense (Nakai) Mizushima	ミミナグサ	○	○	○	○	○	○	
279 <i>Cucubalus baccifer</i> Linn. var. japonicus Miq.	ナンバンハコベ				○			
280 <i>Dianthus japonicus</i> Thunb.	ハマナデシコ					○		
281 <i>Dianthus superbus</i> Linn. var. longicalycinus (Maxim.) Williams	カワラナデシコ			○	○	○		
282 <i>Lychnis miqueliana</i> Rohrb.	フシグロセンノウ		○	○				
283 <i>Moehringia lateriflora</i> (Linn.) Fenzl	オオヤマフスマ			△		○		
284 <i>Myosoton aquaticum</i> (Linn.) Moench	ウシハコベ	○	○	○	○	○	○	
285 <i>Petrorhagia nanteuilii</i> (Burnat) P. W. Ball et Heywood	イヌコモチナデシコ					○		
286 <i>Pseudostellaria palibiniana</i> (Takeda) Ohwi	ヒゲネワチガイソウ	○				○		
287 <i>Sagina japonica</i> (Sw.) Ohwi	ツメクサ	△	○	○	○	○	○	
288 <i>Sagina maxima</i> A. Gray	ハマツメクサ					○	○	
289 <i>Silene armeria</i> Linn.	ムシトリナデシコ			○		○	○	
290 <i>Silene firma</i> Sieb. et Zucc.	フシグロ					○	○	
291 <i>Silene gallica</i> Linn.	シロバナマンテマ					○	○	
292 <i>Silene gallica</i> Linn. var. quinquevulnera (Linn.) Rohrb.	マンテマ					○	○	
293 <i>Stellaria alsine</i> Grimm var. undulata (Thunb.) Ohwi	ノミノフスマ	○	○	○	○	○	○	
294 <i>Stellaria diversiflora</i> Maxim.	サワハコベ	○	○	○	○	○	○	
295 <i>Stellaria media</i> (Linn.) Villars	ハコベ		○	○	○	○	○	
296 <i>Stellaria monosperma</i> Buch.-Hamilt. var. japonica Maxim.	オオヤマハコベ				○			
297 <i>Stellaria neglecta</i> Weihe	ミドリハコベ					○		
298 <i>Stellaria sessiliflora</i> Yabe	ミヤマハコベ	○	○		○			
アカザ科								
299 <i>Ambrina ambrosioides</i> (Linn.) Spach	アリタソウ					○		
300 <i>Ambrina ambrosioides</i> (Linn.) Spach var. pubescens Makino	ケアリタソウ		○	○	○	○	○	
301 <i>Atriplex subcordata</i> Kitag.	ハマアカザ					○	○	
302 <i>Chenopodium acuminatum</i> Willd.	マルバアカザ					○	○	
303 <i>Chenopodium album</i> Linn.	シロザ		○	○		○	○	
304 <i>Chenopodium centrorubrum</i> (Makino) Nakai	アカザ			○	○	○	○	
305 <i>Chenopodium glaucum</i> Linn.	ウラジロアカザ					○	○	
306 <i>Chenopodium serotinum</i> Linn.	コアカザ					○	○	
307 <i>Chenopodium stenophyllum</i> (Makino) Koidz.	ホソバアカザ					○	○	
308 <i>Salsola komarovii</i> Iljin	オカヒジキ					○		
ヒユ科								
309 <i>Achyranthes bidentata</i> Blume var. japonica Miq.	イノコズチ	○	○		○		○	

植 物

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
310 <i>Achyranthes bidentata</i> Blume var. <i>tomentosa</i> (Honda) Hara	ヒナタイノコズチ		○	○	○	○	○	
311 <i>Achyranthes longifolia</i> (Makino) Makino	ヤナギイノコズチ	○	○	○	○	○	○	
312 <i>Amaranthus lividus</i> Linn. var. <i>ascendens</i> (Lois.) Thell.	イヌビユ		○	○	○	○	○	
313 <i>Amaranthus patulus</i> Bertoloni	ホソアオゲイトウ	○				○	○	
314 <i>Amaranthus retroflexus</i> Linn.	アオゲイトウ		○					
315 <i>Amaranthus viridis</i> Linn.	アオビユ					○	○	
サボテン科								
316 <i>Opuntia</i> sp.	ウチワサボテン					○		逸出
モクレン科								
317 <i>Magnolia obovata</i> Thunb.	ホオノキ	○	○	○	○	○	○	
318 <i>Magnolia praecoccisima</i> Koidz.	コブシ		○	○	○	○	○	
マツブサ科								
319 <i>Kadsura japonica</i> (Thunb.) Dunal	サネカズラ	○	○	○	○	○	○	
320 <i>Schisandra nigra</i> Maxim.	マツブサ	○	○	○	○			
シキミ科								
321 <i>Illicium anisatum</i> Linn.	シキミ	○	○	○	○	○	○	
クスノキ科								
322 <i>Cinnamomum camphora</i> (Linn.) Presl	クスノキ		○	○		○	○	
323 <i>Cinnamomum japonicum</i> Sieb. ex Nakai	ヤブニッケイ			○		○	○	
324 <i>Cinnamomum okinawense</i> Hatusima	ニッケイ		○			○	○	
325 <i>Lindera glauca</i> (Sieb. et Zucc.) Blume	ヤマコウバシ	○	○	○	○	○	○	逸出
326 <i>Lindera obtusiloba</i> Blume	ダンコウバイ	○	○	○	○	○	○	
327 <i>Lindera praecox</i> (Sieb. et Zucc.) Blume	アブラチャン					○	○	
328 <i>Lindera umbellata</i> Thunb.	クロモジ	○	○	○	○	○	○	
329 <i>Litsea coreana</i> Lev.	カゴノキ		○	○				
330 <i>Machilus thunbergii</i> Sieb. et Zucc.	タブノキ	○	○	○	○	○	○	
331 <i>Neolitsea sericea</i> (Blume) Koidz.	シロダモ	○	○	○	○	○	○	
フサザクラ科								
332 <i>Euptelea polyandra</i> Sieb. et Zucc.	フサザクラ					○		
カツラ科								
333 <i>Cercidiphyllum japonicum</i> Sieb. et Zucc.	カツラ					○		
キンボウゲ科								
334 <i>Aconitum tsukubense</i> Nakai	ツクバトリカブト	○	○	○				
335 <i>Anemone flaccida</i> Fr. Schm.	ニリンソウ	○	○		○			
336 <i>Anemone hupehensis</i> Lemoine var. <i>japonica</i> (Thunb.) Bowles et Stearn	シュウメイギク				○	○	○	
337 <i>Anemone nikoensis</i> Maxim.	イチリンソウ				○	○	○	
338 <i>Anemone pseudo-altaica</i> Hara	キクザキイチゲ	○			○	○	○	
339 <i>Anemone raddeana</i> Regel	アズマイチゲ					○	○	
340 <i>Caltha palustris</i> Linn. var. <i>enkoso</i> Hara	エンコウソウ			○	○			
341 <i>Cimicifuga acerina</i> (Sieb. et Zucc.) C. Tanaka	オオバショウマ	△	○					
342 <i>Cimicifuga japonica</i> (Thunb.) Spreng.	イヌショウマ	○	○	○	○			
343 <i>Cimicifuga simplex</i> Wormsk.	サラシナショウマ	○	○	○	○	○	○	
344 <i>Clematis apiifolia</i> DC.	ボタンヅル	○	○		○			
345 <i>Clematis apiifolia</i> DC. var. <i>biternata</i> Makino	コボタンヅル	○	○		○			
346 <i>Clematis japonica</i> Thunb.	ハンショウヅル	○	○	○	○	○	○	
347 <i>Clematis stans</i> Sieb. et Zucc.	クサボタン		○		○			
348 <i>Clematis temiflora</i> DC.	センニンソウ	○	○	○	○	○	○	
349 <i>Coptis japonica</i> (Makino) Thunb. var. <i>major</i> (Miq.) Satake	コセリバオウレン					○		
350 <i>Dichocarpum trachyspermum</i> (Maxim.) W. T. Wang et Hsiao	トウゴクサバノオ	○	○	○	○	○	○	
351 <i>Ranunculus cantoniensis</i> DC.	ケケツネノボタン		○		○	○	○	
352 <i>Ranunculus japonicus</i> Thunb.	ウマノアシガタ	○	○	○	○	○	○	
353 <i>Ranunculus sceleratus</i> Linn.	タガラシ					○	○	
354 <i>Ranunculus silerifolius</i> Lev.	キツネノボタン	○	○	○	○	○	○	
355 <i>Ranunculus tachiroei</i> Franch. et Savat.	オトコゼリ			△				
356 <i>Thalictrum minus</i> Linn. var. <i>hypoleucum</i> (Sieb. et Zucc.) Miq.	アキカラマツ	△	○	○	○	○	○	
メギ科								
357 <i>Berberis thunbergii</i> DC.	メギ	○	○	○	○	○	○	
358 <i>Caulophyllum robustum</i> Maxim.	ルイヨウボタン	○				○	○	
359 <i>Epimedium grandiflorum</i> Morr.	イカリソウ			○	○			
360 <i>Mahonia japonica</i> (Thunb.) DC.	ヒイラギナンテン		○			○	○	逸出
361 <i>Nandina domestica</i> Thunb.	ナンテン		○		○	○	○	逸出
アケビ科								
362 <i>Akebia quinata</i> (Thunb.) Decne.	アケビ	○	○	○	○	○	○	
363 <i>Akebia trifoliata</i> (Thunb.) Koidz.	ミツバアケビ	○	○	○	○	○	○	
364 <i>Stauntonia hexaphylla</i> (Thunb.) Decne.	ムベ		○	○		○	○	
ツツラフジ科								
365 <i>Cocculus trilobus</i> (Thunb.) DC.	アオツツラフジ	○	○	○	○	○	○	
366 <i>Menispermum dauricum</i> DC.	コウモリカズラ	○	○	△	○			
367 <i>Sinomenium acutum</i> (Thunb.) Rehd. et Wils.	ツツラフジ		○		○			
スイレン科								
ドクダミ科								
368 <i>Houttuynia cordata</i> Thunb.	ドクダミ	○	○	○	○	○	○	
センリョウ科								
369 <i>Chloranthus japonicus</i> Sieb.	ヒトリシズカ		○	○	○			

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
370 <i>Chloranthus serratus</i> (Thunb.) Roem. et Schult.	フタリシズカ	○	○	○	○	○		
371 <i>Sarcandra glaber</i> (Thunb.) Nakai	センリョウ					○		逸出
ウマノスズクサ科								
372 <i>Aristolochia debilis</i> Sieb. et Zucc.	ウマノスズクサ		○	○		○		
373 <i>Aristolochia kaempferi</i> Willd.	オオバウマノスズクサ	○						
374 <i>Asarum caulescens</i> Maxim	フタバアオイ	○			○			
ポタン科								
375 <i>Paeonia japonica</i> (Makino) Miyabe et Tatew.	ヤマシャクヤク					○		
マタタビ科								
376 <i>Actinidia arguta</i> (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Miq.	サルナシ	○	○	○	○			
377 <i>Actinidia chinensis</i> Planch.	キーウイ					○		逸出
378 <i>Actinidia polygama</i> (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Maxim.	マタタビ	○	○	○	○			
ツバキ科								
379 <i>Camellia japonica</i> Linn.	ヤブツバキ	○	○	○	○	○	○	逸出
380 <i>Camellia sasanqua</i> Thunb. ex Murr.	サザンカ					○		
381 <i>Camellia sinensis</i> (Linn.) O. Kuntze	チャノキ		○	○	○	○		
382 <i>Cleyera japonica</i> Thunb.	サカキ	△	○	○	○	○		
383 <i>Eurya emarginata</i> (Thunb.) Makino	ハマヒサカキ					○		植栽
384 <i>Eurya japonica</i> Thunb.	ヒサカキ	△	○	○	○	○		
385 <i>Ternstroemia gymnanthera</i> (Wight et Arn.) Sprague	モッコク					○		植栽
オトギリソウ科								
386 <i>Hypericum ascyron</i> Linn.	トモエソウ				○			
387 <i>Hypericum erectum</i> Thunb.	オトギリソウ	○	○	○	○	○		
388 <i>Sarothra laxa</i> (Blume) Y. Kimura	コケオトギリ	△	○	○	○	○	○	
389 <i>Triadenum japonicum</i> Makino	ミズオトギリ			○	○			
モウセンゴケ科								
390 <i>Drosera rotundifolia</i> Linn.	モウセンゴケ			○	○			
ケシ科								
391 <i>Chelidonium japonicum</i> Thunb.	ヤマブキノウ				○			
392 <i>Chelidonium japonicum</i> Thunb. form. dissectum Ohwi	セリバヤマブキノウ				○			
393 <i>Chelidonium japonicum</i> Thunb. form. lanceolatum Ohwi	ホソバヤマブキノウ				○			
394 <i>Chelidonium majus</i> Linn. var. asiaticum (Hara) Ohwi	クサノオウ	○	○	○	○	○		
395 <i>Corydalis decumbens</i> (Thunb.) Pers.	ジロポウエンゴサク	○	○	○	○		○	
396 <i>Corydalis incisa</i> (Thunb.) Pers.	ムラサキケマン	○	○	○	○	○	○	
397 <i>Corydalis lineariloba</i> Sieb. et Zucc.	ヤマエンゴサク	△			○			
398 <i>Corydalis pallida</i> (Thunb.) Pers. var. tenuis Yatabe	ミヤマケマン	○	○		○			
399 <i>Macleaya cordata</i> (Willd.) R. Br.	タケニグサ	○	○	○	○	○		
400 <i>Papaver dubium</i> Linn.	ナガミヒナゲシ					○		
アブラナ科								
401 <i>Arabis hirsuta</i> (Linn.) Scopoli	ヤマハタザオ	○			○			
402 <i>Arabis stelleri</i> DC. var. japonica (A. Gray) Fr. Schm.	ハマハタザオ					○		
403 <i>Barbarea vulgaris</i> R. Br.	ハルザキヤマガラシ			○			○	
404 <i>Brassica juncea</i> (Linn.) Czern.	セイヨウカラシナ					○	○	
405 <i>Brassica napus</i> Linn.	セイヨウアブラナ					○	○	
406 <i>Cakile edentula</i> (Bigel) Hook.	オニハマダイコン					○		
407 <i>Capsella bursa-pastoris</i> Medicus	ナズナ	○	○	○	○	○	○	
408 <i>Cardamine flexuosa</i> With.	タネツケバナ	○	○	○	○	○	○	
409 <i>Cardamine impatiens</i> Linn.	ジャンジン					○		
410 <i>Cardamine leucantha</i> O.E. Schulz	コンロンソウ					○		
411 <i>Cardamine regeliana</i> Miq.	オオバナネツケバナ		○			○		
412 <i>Cardamine scutata</i> Thunb.	ヤマタネツケバナ	△	○		○			
413 <i>Cardamine tanakae</i> Franch. et Savat.	マルバコンロンソウ	○	○		○			
414 <i>Draba nemorosa</i> Linn.	イヌナズナ	○		○	○			
415 <i>Lepidium virginicum</i> Linn.	マメグンバイナズナ		○	○		○	○	
416 <i>Nasturtium officinale</i> R. Br.	オランダガラシ		○		○	○		
417 <i>Raphanus sativus</i> Linn. var. raphanistroides Makino	ハマダイコン					○		
418 <i>Rorippa dubia</i> Hara	ミチバタガラシ		○			○		
419 <i>Rorippa indica</i> (Linn.) Hiern	イヌガラシ		○	○	○	○	○	
420 <i>Rorippa islandica</i> (Oeder) Borbkg	スカンタゴボウ		○	○	△	○	○	
421 <i>Turritis glabra</i> Linn.	ハタザオ					○		
422 <i>Wasabia japonica</i> (Miq.) Matsum.	ワサビ	△						
423 <i>Wasabia tenuis</i> (Miq.) Matsum.	ユリワサビ	○	○	○	○			
マンサク科								
424 <i>Hamamelis japonica</i> Sieb. et Zucc. var. megaphylla (Koidz.) Kitam.	オオバマンサク	○	○	○	○			
ベンケイソウ科								
425 <i>Hylotelephium erythrostictum</i> (Miq.) H. Ohba	ベンケイソウ						○	逸出
426 <i>Sedum aizoon</i> Linn. var. floribundum Nakai	キリンソウ				○	○		
427 <i>Sedum bulbiferum</i> Makino	コモチマンネングサ		○	○	○	○	○	
428 <i>Sedum makinoi</i> Maxim.	マルバマンネングサ	○			△	○		
429 <i>Sedum sarmentosum</i> Bunge	ツルマンネングサ	○	○			○	○	
430 <i>Sedum uniflorum</i> Hook. et Arnot subsp. <i>oryzifolium</i> (Makino) H. Ohba	タイトゴメ					○		
ユキノシタ科								
431 <i>Astilbe microphylla</i> Knoll	チダケサシ	○	○	○	○	○		
432 <i>Astilbe thunbergii</i> (Sieb. et Zucc.) Miq.	アカショウマ	○	○		○			

植 物

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
433 <i>Astilbe thunbergii</i> (Sieb. et Zucc.) Miq. var. <i>congesta</i> H. Boiss.	トリアシショウマ			○	○			
434 <i>Cardiandra alternifolia</i> Sieb. et Zucc.	クサアジサイ	○			○			
435 <i>Chrysosplenium album</i> Maxim. var. <i>stamineum</i> (Franch.) Hara	ハナネコノメ	○						
436 <i>Chrysosplenium flagelliferum</i> Fr. Schm.	ツルネコノメソウ	○	○		○			
437 <i>Chrysosplenium grayanum</i> Maxim.	ネコノメソウ	○	○	○	○			
438 <i>Chrysosplenium japonicum</i> (Maxim.) Makino	ヤマネコノメソウ	○		○	○			
439 <i>Chrysosplenium macrostemon</i> Maxim. var. <i>atranderum</i> Hara	ヨゴレネコノメ	○	○		○			
440 <i>Chrysosplenium macrostemon</i> Maxim. var. <i>shiobarense</i> (Franch.) Hara	ニッコウネコノメ	△	△		○			
441 <i>Chrysosplenium maximowiczii</i> Franch. et Savat.	ムカゴネコノメソウ	○	○	○	○			
442 <i>Deinathe bifida</i> Maxim.	ギンバイソウ				○			
443 <i>Deutzia crenata</i> Sieb. et Zucc.	ウツギ	○	○	○	○	○	○	
444 <i>Deutzia gracilis</i> Sieb. et Zucc.	ヒメウツギ				○			
445 <i>Hydrangea hirta</i> (Thunb. ex Murray) Sieb. et Zucc.	コアジサイ	○	○	○	○			
446 <i>Hydrangea involucrata</i> Sieb.	タマアジサイ	○	○	○	○			
447 <i>Hydrangea paniculata</i> Sieb. et Zucc.	ノリウツギ	○	○	○	○			
448 <i>Hydrangea petiolaris</i> Sieb. et Zucc.	ツルアジサイ	○						
449 <i>Hydrangea serrata</i> (Thunb. ex Murray) Ser.	ヤマアジサイ	○	○	○	○			
450 <i>Mitella pauciflora</i> Rosend.	コチャルメルソウ	○	△					
451 <i>Parnassia palustris</i> Linn. var. <i>multiseta</i> Ledeb.	ウメバチソウ	△		○				
452 <i>Philadelphus satsumi</i> Sieb. ex Lindl. et Paht. var. <i>parviflorus</i> (Dippel) Kitam. et Murata	ニッコウバイカウツギ				○			
453 <i>Penthorum chinense</i> Pursh	タコノアシ				○		○	
454 <i>Saxifraga fortunei</i> Hook. fil. var. <i>incisolobata</i> (Engl. et Irmsch.) Nakai	ダイモンジソウ	△						
455 <i>Saxifraga stolonifera</i> Meerb.	ユキノシタ	○	○	○	○	○		
456 <i>Schizophragma hydrangeoides</i> Sieb. et Zucc.	イワガラミ	○	○	○	○			
トベラ科								
457 <i>Pittosporum tobira</i> (Thunb. ex Murray) Aiton	トベラ					○		
バラ科								
458 <i>Agrimonia nipponica</i> Koidz.	ヒメキンミズヒキ		○		○			
459 <i>Agrimonia pilosa</i> Ledeb. var. <i>japonica</i> (Miq.) Nakai	キンミズヒキ	○	○	○	○	○	○	
460 <i>Chaenomeles japonica</i> (Thunb.) Lindl. ex Sprach	クサボケ	△	○	○	○	○	○	
461 <i>Duchesnea chrysantha</i> (Zoll. et Mor.) Miq.	ヘビイチゴ	○	○	○	○	○	○	
462 <i>Duchesnea indica</i> (Andr.) Focke	ヤブヘビイチゴ		○		○	○	○	
463 <i>Geum japonicum</i> Thunb.	ダイコンソウ	○	○	○	○			
464 <i>Kerria japonica</i> (Linn.) DC.	ヤマブキ	○	○	○	○	○		
465 <i>Malus toringo</i> (Sieb.) Sieb. ex Vriese	ズミ	○	○	○	○			
466 <i>Malus toringo</i> (Sieb.) Sieb. ex Vriese var. <i>zumi</i> (Matsum.) Hara	オオズミ				△			
467 <i>Potentilla centigrana</i> Maxim.	ヒメヘビイチゴ	△	○		○			
468 <i>Potentilla chinensis</i> Ser.	カワラサイコ			○		○		
469 <i>Potentilla cryptotaeniae</i> Maxim.	ミツモトソウ				○			
470 <i>Potentilla fragarioides</i> Linn. var. <i>major</i> Maxim.	キジムシロ	△	○	○	○	○		
471 <i>Potentilla freyniana</i> Bornm.	ミツバツチグリ	○	○	○	○	○	○	
472 <i>Potentilla sundaica</i> (Blume) O. Kuntze var. <i>robusta</i> (Franch. et Savat.) Kitag.	オヘビイチゴ		○	○	○		○	
473 <i>Potentilla yokusaiana</i> Makino	ツルキンバイ	△						
474 <i>Pourthiaea vilosa</i> (Thunb.) Decne. var. <i>laevis</i> (Thunb.) Stapf.	カマツカ					○		
475 <i>Pourthiaea vilosa</i> (Thunb.) Decne. var. <i>zollingeri</i> (Decne.) Nakai	ケカマツカ	○	○	○	○			
476 <i>Prunus buergeriana</i> Miq.	イヌザクラ	○	○	○	○	○	○	
477 <i>Prunus grayana</i> Maxim.	ウワミズザクラ	○	○	○	○	○		
478 <i>Prunus jamasakura</i> Sieb. ex Koidz.	ヤマザクラ	○	○	○	○	○		
479 <i>Prunus speciosa</i> (Koidz.) Nakai	オオシマザクラ					○		植栽
480 <i>Prunus pendula</i> Maxim. form. <i>ascendens</i> (Makino) Ohwi	エドヒガン				○			
481 <i>Prunus spinulosa</i> Sieb. et Zucc.	リンボク	○		○				
482 <i>Prunus verecunda</i> (Koidz.) Koehne	カスミザクラ	○	○	△	○	○		植栽
483 <i>Prunus x yedoensis</i> Matsum.	ソメイヨシノ					○		
484 <i>Pyrus pyrifolia</i> (Burm. fil.) Nakai	ヤマナシ				△			
485 <i>Raphiolepis indica</i> (Linn.) Lindl. ex Ker var. <i>umbellata</i> (Thunb. ex Murray) Ohashi	シャリンバイ					○		
486 <i>Rosa jasminoides</i> Koidz.	モリイバラ				○			
487 <i>Rosa multiflora</i> Thunb.	ノイバラ	○	○	○	○	○	○	
488 <i>Rosa rugosa</i> Thunb.	ハマナシ					○		
489 <i>Rosa wichuraiana</i> Crepin	テリハノイバラ	△	○	○	○	○	○	
490 <i>Rubus buergeri</i> Miq.	フユイチゴ	○	○	○	○			
491 <i>Rubus crataegifolius</i> Bunge	クマイチゴ	○	○	○	○			
492 <i>Rubus hakonensis</i> Franch. et Savat.	ミヤマフユイチゴ	△	○	○	○			
493 <i>Rubus hirsutus</i> Thunb.	クサイチゴ		○	○	○			
494 <i>Rubus microphyllus</i> Linn. fil.	ニガイチゴ	○	○	○	○	○		
495 <i>Rubus palmatus</i> Thunb. var. <i>coptophyllus</i> A. Gray	モミジイチゴ	○	○	○	○	○	○	
496 <i>Rubus parvifolius</i> Linn.	ナワシロイチゴ	○	○	○	○	○	○	
497 <i>Rubus phoenicolasius</i> Maxim.	ウラジロイチゴ	○	○	○				
498 <i>Rubus sumatranus</i> Miq.	コジキイチゴ				○			
499 <i>Rubus trifidus</i> Thunb.	カジイチゴ					○		
500 <i>Rubus x nishimuranus</i> Koidz.	ハチジョウウクサイチゴ					○		

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
501 <i>Sanguisorba officinalis</i> Linn.	ワレモコウ	○	○	○	○	○	○	
502 <i>Sorbus alnifolia</i> (Sieb. et Zucc.) C. Koch	アズキナシ			○	○			
503 <i>Sorbus japonica</i> (Decne.) Hedlund	ウラジロノキ	○	○	○	○			
504 <i>Spiraea japonica</i> Linn. fil.	シモツケ	○	○					
505 <i>Spiraea thunbergii</i> Sieb. ex Blume	ユキヤナギ				○			
506 <i>Stephanandra incisa</i> (Thunb.) Zabel	コゴメウツギ	○	○	○	○			
マメ科								
507 <i>Aeschynomene indica</i> Linn.	クサネム						○	
508 <i>Aeschynomene virginica</i> (Linn.) BSP.	アメリカクサネム						○	
509 <i>Albizia julibrissin</i> Durazz.	ネムノキ	○	○	○	○	○	○	
510 <i>Amorpha fruticosa</i> Linn.	イタチハギ	○			○	○		
511 <i>Amphicarpaea bracteata</i> (Linn.) Fernald subsp. <i>edgeworthii</i> (Benth.) Ohashi var. <i>japonica</i> (Oliver) Ohashi	ヤブマメ	○	○	○	○	○	○	
512 <i>Apios fortunei</i> Maxim.	ホドイモ	○	○	○	○			
513 <i>Astragalus sinicus</i> Linn.	ゲンゲ		○		○			
514 <i>Caesalpinia decapetala</i> (Roth) Alst. var. <i>japonica</i> (Sieb. et Zucc.) Ohashi	ジャケツイバラ	○	○		○			
515 <i>Cassia minosoides</i> Linn. subsp. <i>nomame</i> (Sieb.) Ohashi	カワラケツメイ	○		○		○	○	
516 <i>Cladrastis platycarpa</i> (Maxim.) Makino	フジキ		○	○	○			
517 <i>Desmodium oldhamii</i> Oliver	フジカンゾウ	○	○	○	○	○		
518 <i>Desmodium paniculatum</i> (Linn.) DC.	アレチヌスビトハギ					○		
519 <i>Desmodium podocarpum</i> DC. subsp. <i>fallax</i> (Schindl.) Ohashi	ケヤブハギ	△	○	△	○			
520 <i>Desmodium podocarpum</i> DC. subsp. <i>oxyphyllum</i> (DC.) Ohashi	ヌスビトハギ	○	○	○	○	○	○	
521 <i>Dumasia truncata</i> Sieb. et Zucc.	ノササゲ	△	○	○	○	○	○	
522 <i>Dunbaria villosa</i> (Thunb.) Makino	ノアズキ	○			○	○	○	
523 <i>Euchresta japonica</i> Hook. fil. ex Regel	ミヤマトベラ			○				
524 <i>Gleditsia japonica</i> Miq.	サイカチ				○			
525 <i>Glycine max</i> (Linn.) Merr. subsp. <i>soja</i> (Sieb. et Zucc.) Ohashi	ツルマメ	○	○	○	○	○	○	
526 <i>Indigofera psuedo-tinctoria</i> Matsum.	コマツナギ	○	○	○	○	○	○	
527 <i>Lathyrus japonicus</i> Willd.	ハマエンドウ					○	○	
528 <i>Lathyrus quinquerivius</i> (Miq.) Litv.	レンリソウ					○	○	
529 <i>Lespedeza bicolor</i> Turcz.	ヤマハギ	○	○	○	○	○	○	
530 <i>Lespedeza buergeri</i> Miq.	キハギ	○	○	○	○			
531 <i>Lespedeza cyrtobotrya</i> Miq.	マルバハギ	△					○	
532 <i>Lespedeza cyrtobotrya</i> Miq. var. <i>kawachiana</i> (Nakai) Ohwi	カワチハギ						○	
533 <i>Lespedeza homoloba</i> Nakai	ツクシハギ		○	○	○			
534 <i>Lespedeza intermixta</i> Makino	ツルメドハギ	△	△					
535 <i>Lespedeza juncea</i> (Linn. fil.) Pers. var. <i>serpens</i> (Nakai) Ohashi	ハイメドハギ		○			○	○	
536 <i>Lespedeza juncea</i> (Linn. fil.) Pers. var. <i>subsessilis</i> Miq.	メドハギ	△	○	○	○	○	○	
537 <i>Lespedeza pilosa</i> (Thunb.) Sieb. et Zucc.	ネコハギ	○	○	○	○	○	○	
538 <i>Lespedeza stipulacea</i> Maxim.	マルバヤハズソウ	△			○	○	○	
539 <i>Lespedeza striata</i> (Thunb.) Hook. et Arn.	ヤハズソウ	○	○	○	○	○	○	
540 <i>Lespedeza virgata</i> (Thunb.) DC.	マキエハギ	○		○	△			
541 <i>Lotus corniculatus</i> Linn. var. <i>japonicus</i> Regel	ミヤコグサ			○	○	○	○	
542 <i>Pueraria lobata</i> (Willd.) Ohwi	クズ	○	○	○	○	○	○	
543 <i>Rhynchosia acuminatifolia</i> Makino	オオバタンキリマメ		○	○	○			
544 <i>Rhynchosia volubilis</i> Lour.	タンキリマメ					○	○	
545 <i>Robinia pseudoacacia</i> Linn.	ハリエンジュ	○	○	○	○	○	○	
546 <i>Sophora flavescens</i> Ait.	クララ		○		○	○	○	
547 <i>Trifolium angustifolium</i> Linn.	トガリバツメクサ					○		
548 <i>Trifolium campestre</i> Schreb.	クスダマツメクサ					○	○	
549 <i>Trifolium dubium</i> Sibth.	コメツブツメクサ	○				○	○	
550 <i>Trifolium hybridum</i> Linn.	タチオランダゲンゲ					○	○	
551 <i>Trifolium pratense</i> Linn.	ムラサキツメクサ	○	○	○	○	○	○	
552 <i>Trifolium repens</i> Linn.	シロツメクサ		○	○	○	○	○	
553 <i>Vicia amoena</i> Fisch.	ツルフジバカマ					○	○	
554 <i>Vicia angustifolia</i> Linn.	ヤハズエンドウ	○	○			○	○	
555 <i>Vicia cracca</i> Linn.	クサフジ					○	○	
556 <i>Vicia hirsuta</i> (Linn.) S. F. Gray	スズメノエンドウ		○	○		○	○	
557 <i>Vicia pseudo-orobus</i> Fisch. et Mey.	オオバクサフジ			○		○	○	
558 <i>Vicia tetrasperma</i> (Linn.) Schreb.	カスマグサ			○		○	○	
559 <i>Vicia unijuga</i> A. Br.	ナンテンハギ					○		
560 <i>Vigna angularis</i> (Willd.) Ohwi et Ohashi var. <i>nipponensis</i> (Ohwi) Ohwi et Ohashi	ヤブツルアズキ				○			
561 <i>Wisteria floribunda</i> (Willd.) DC.	フジ	○	○	○	○	○	○	
カタバミ科								
562 <i>Oxalis articulata</i> Savigny	イモカタバミ					○	○	
563 <i>Oxalis corniculata</i> Linn.	カタバミ	○	○	○	○	○	○	
564 <i>Oxalis corymbosa</i> DC.	ムラサキカタバミ					○		
565 <i>Oxalis fontana</i> Bunge	エゾタチカタバミ				○			
566 <i>Oxalis griffithii</i> Edgew. et Hook. fil.	ミヤマカタバミ	○	○	○	○			
フウロソウ科								
567 <i>Erodium cicutarium</i> L'Her.	オランダフウロ		○			○		
568 <i>Geranium krameri</i> Franch. et Savat.	タチフウロ	△	○	○	○	○	○	
569 <i>Geranium nepalense</i> Sweet subsp. <i>thunbergii</i> (Sieb. et Zucc.) Hara	ゲンノショウコ	○	○	○	○	○	○	

植 物

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
570 <i>Geranium tripartitum</i> R. Knuth	コフウロ		△					
アマ科								
571 <i>Linum virginianum</i> Linn.	キバナノマツバニンジン			○				
トウダイグサ科								
572 <i>Acalypha australis</i> Linn.	エノキグサ	○	○	○	○	○	○	
573 <i>Euphorbia helioscopia</i> Linn.	トウダイグサ	○	○	○	△			
574 <i>Euphorbia maculata</i> Linn.	オオニシキソウ	○	○	○	○		○	
575 <i>Euphorbia pekinensis</i> Rupr.	タカトウダイ	○	○	○	○	○		
576 <i>Euphorbia sieboldiana</i> Morr. et Decne.	ナツトウダイ	○						
577 <i>Euphorbia supina</i> Rafin.	コニシキソウ	△	○	○		○	○	
578 <i>Mallotus japonicus</i> (Thunb. ex Murray) Muell.-Arg.	アカメガシワ	○	○	○	○	○		
579 <i>Phyllanthus matsumurae</i> Hayata	ヒメミカンソウ	○	○	○	○	○		
580 <i>Saprium japonicum</i> (Sieb. et Zucc.) Pax et K. Hoffm.	シラキ	○	○	○	○			
ユズリハ科								
581 <i>Daphniphyllum macropodum</i> Miq.	ユズリハ			○		○		
ミカン科								
582 <i>Boeninghausenia japonica</i> Nakai	マツカゼソウ	○	○	○	○			
583 <i>Orixa japonica</i> Thunb.	コクサギ	○	○	○	○	○		
584 <i>Phellodendron amurense</i> Ruprect	キハダ		○					
585 <i>Skimmia japonica</i> Thunb.	ミヤマシキミ	○	○	○	○			
586 <i>Skimmia japonica</i> Thunb. form. <i>rugosa</i> (Yatabe) Ohwi	ウチダシミヤマシキミ	○		○	○			
587 <i>Zanthoxylum ailanthoides</i> Sieb. et Zucc.	カラスザンショウ	○	○	○	○	○		
588 <i>Zanthoxylum armatum</i> DC. var. <i>subtrifoliatum</i> (Franch.) Kitam.	フユザンショウ					○		
589 <i>Zanthoxylum piperitum</i> (Linn.) DC.	サンショウ	○	○	○	○	○		
590 <i>Zanthoxylum schinifolium</i> Sieb. et Zucc.	イヌザンショウ	○	○	○	○	○		
ニガキ科								
591 <i>Ailanthus altissima</i> Swingle	ニワウルシ					○		逸出
592 <i>Picrasma quassioides</i> (D. Don) Benn.	ニガキ	○	○	○	○	○		
センダン科								
593 <i>Melia azedarach</i> Linn. var. <i>subtripinnata</i> Miq.	センダン					○		植栽
ヒメハギ科								
594 <i>Polygala japonica</i> Houtt.	ヒメハギ	○	○	○	○			
595 <i>Salomonium oblongifolia</i> DC.	ヒナノカンザシ				○			
ドクウツギ科								
596 <i>Coriaria japonica</i> A. Gray	ドクウツギ					○		
ウルシ科								
597 <i>Rhus ambigua</i> Lavall. ex Dippel	ツタウルシ	△	○	○	○	○		
598 <i>Rhus javanica</i> Linn. var. <i>roxburghii</i> (DC.) Rehd. et Wils.	ヌルデ	△	○	○	○	○	○	
599 <i>Rhus succedanea</i> Linn.	ハゼノキ					○		植栽
600 <i>Rhus sylvestris</i> Sieb. et Zucc.	ヤマハゼ					○		植栽
601 <i>Rhus trichocarpa</i> Miq.	ヤマウルシ	△	○	○	○	○		
カエデ科								
602 <i>Acer amoenum</i> Carr.	オオモミジ	○	○	○				
603 <i>Acer carpiniifolium</i> Sieb. et Zucc.	チドリノキ	○	○	○	○			
604 <i>Acer crataegifolium</i> Sieb. et Zucc.	ウリカエデ	○	○	○	○			
605 <i>Acer distylum</i> Sieb. et Zucc.	ヒトツバカエデ	○						
606 <i>Acer mono</i> Maxim. var. <i>ambiguum</i> (Pax) Rehd.	オニイタヤ				○			
607 <i>Acer mono</i> Maxim. var. <i>connivens</i> (Nichols.) Hara	ウラゲエンコウカエデ	△	○		○			
608 <i>Acer mono</i> Maxim. var. <i>marmoratum</i> (Nichols.) Hara form. <i>dissectum</i> (Wesmael) Rehd.	イタヤカエデ	○	○	○	○			
609 <i>Acer palmatum</i> Thunb.	イロハモミジ	○	○	○	○	○	○	
610 <i>Acer rufinerve</i> Sieb. et Zucc.	ウリハダカエデ	○	○	○	○			
611 <i>Acer sieboldianum</i> Miq.	コハウチワカエデ	○	○	○	○			
アワブキ科								
612 <i>Meliosma myriantha</i> Sieb. et Zucc.	アワブキ	○	○	○	○			
ツリフネソウ科								
613 <i>Impatiens noli-tangere</i> Linn.	キツリフネ				○			
614 <i>Impatiens textori</i> Miq.	ツリフネソウ	○	○	○	○	○		
615 <i>Impatiens textori</i> Miq. form. <i>pallescens</i> Hara	シロツリフネ				○			
モチノキ科								
616 <i>Ilex crenata</i> Thunb.	イヌツゲ		○	○	○	○		
617 <i>Ilex integra</i> Thunb.	モチノキ	△	○	○	○	○	○	
618 <i>Ilex macropoda</i> Miq.	アオハダ	△	○	○	○	○		
619 <i>Ilex rotunda</i> Thunb.	クロガネモチ		○	○	△			
620 <i>Ilex serrata</i> Thunb.	ウメモドキ		○	○	○	○		
ニシキギ科								
621 <i>Celastrus orbiculatus</i> Thunb.	ツルウメモドキ	○	○	○	○	○	○	
622 <i>Euonymus alatus</i> (Thunb.) Sieb.	ニシキギ	○	○	○	○			
623 <i>Euonymus alatus</i> (Thunb.) Sieb. form. <i>striatus</i> (Thunb.) Makino	コマユミ	○	○	○	○	○		
624 <i>Euonymus fortunei</i> (Turcz.) Hand.-Mazz.	ツルマサキ	○	○	○	○	○		
625 <i>Euonymus japonicus</i> Thunb.	マサキ					○		
626 <i>Euonymus melananthus</i> Franch. et Savat.	サワダツ	○						
627 <i>Euonymus oxyphyllus</i> Miq.	ツリバナ	○	○	○	○	○		
628 <i>Euonymus sieboldianus</i> Blume	マユミ	○	○	○	○	○		

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
ミツバウツギ科								
629 <i>Euscaphis japonica</i> (Thunb.) Kanitz	ゴンズイ	○	○	○	○	○		
630 <i>Staphylea bumalda</i> DC.	ミツバウツギ	○	○	○	○			
ツゲ科								
631 <i>Pachysandra terminalis</i> Sieb. et Zucc.	フッキソウ			○				逸出
クロウメモドキ科								
632 <i>Berchemia racemosa</i> Sieb. et Zucc.	クマヤナギ	△	○	○	○	○		
633 <i>Hovenia dulcis</i> Thunb.	ケンボナシ		○	○	○	○		
634 <i>Rhamnus japonica</i> Maxim. var. <i>decipiens</i> Maxim.	クロウメモドキ				○			
ブドウ科								
635 <i>Ampelopsis brevipedunculata</i> (Maxim.) Trautv. var. <i>heterophylla</i> (Thunb.) Hara	ノブドウ	○	○	○	○	○	○	
636 <i>Cayratia japonica</i> (Thunb.) Gagn.	ヤブカラシ		○	○	○	○	○	
637 <i>Parthenocissus tricuspidata</i> (Sieb. et Zucc.) Planch.	ツタ	○	○	○	○	○	○	
638 <i>Vitis flexuosa</i> Thunb.	サンカクヅル	○	○	○	○	○		
639 <i>Vitis flexuosa</i> Thunb. var. <i>tsukubana</i> Makino	ウスゲサンカクヅル	△						
640 <i>Vitis thunbergii</i> Sieb. et Zucc.	エビヅル	○	○	○	○	○	○	
シナノキ科								
641 <i>Corchoropsis tomentosa</i> (Thunb.) Makino	カラスノゴマ		○		○			
アオイ科								
642 <i>Abutilon avicennae</i> Gaertn.	イチビ					○		
643 <i>Malva parviflora</i> Linn.	ウサギアオイ					○		
ジンチョウゲ科								
644 <i>Edgeworthia chrysantha</i> Lindl.	ミツマタ				○			逸出
グミ科								
645 <i>Elaeagnus glabra</i> Thunb.	ツルグミ	○	○	○	○	○		
646 <i>Elaeagnus multiflora</i> Thunb.	ナツグミ	○			○	○		
647 <i>Elaeagnus umbellata</i> Thunb.	アキグミ	△	○	○		○		
イイギリ科								
648 <i>Idesia polycarpa</i> Maxim.	イイギリ				○			
スミレ科								
649 <i>Viola bissetii</i> Maxim.	ナガバノスミレサイシン	○	○	△				
650 <i>Viola confusa</i> Champ. ex Benth. subsp. <i>nagasakiensis</i> (W. Becker) F. Maek. et Hashimoto	ヒメスミレ		○					
651 <i>Viola eizanensis</i> Makino	エイザンスミレ	○	○	○	○	○		
652 <i>Viola grypoceras</i> A. Gray	タチツボスミレ	○	○	○	○	○	○	
653 <i>Viola grypoceras</i> A. Gray var. <i>albiflora</i> Makino	シロバナタチツボスミレ				○			
654 <i>Viola grypoceras</i> A. Gray var. <i>pubescens</i> Nakai	ケタチツボスミレ	△			△			
655 <i>Viola hondoensis</i> W. Becker et H. Boiss.	アオイスミレ	○	○	○	○	○		
656 <i>Viola keiskei</i> Miq.	ケマルバスミレ	○	○	○	○	○		
657 <i>Viola mandshurica</i> W. Becker	スミレ	○	○	○	○	○		
658 <i>Viola maximowicziana</i> Makino	コミヤマスミレ	○			○			
659 <i>Viola obtusa</i> (Makino) Makino	ニオイタチツボスミレ	○	○	○	○			
660 <i>Viola obtusa</i> (Makino) Makino form. <i>nuda</i> (Ohwi) F. Maek.	ケナシニオイタチツボスミレ		○					
661 <i>Viola phalacrocarpa</i> Maxim.	アカネスミレ	○	○		○			
662 <i>Viola phalacrocarpa</i> Maxim. var. <i>glaberrima</i> W. Becker	オカスミレ	△	○	○	○			
663 <i>Viola rossii</i> Hemsl.	アケボノスミレ		○		△			
664 <i>Viola rostrata</i> Pursh var. <i>japonica</i> (W. Becker et H. Boiss.) Ohwi	ナガハシスミレ			△	○			
665 <i>Viola sieboldii</i> Maxim.	フモトスミレ	○	○		○			
666 <i>Viola takedana</i> Makino	ヒナスミレ	○	○	○	○			
667 <i>Viola verecunda</i> A. Gray	ツボスミレ	○	○	○	○	○	○	
668 <i>Viola verecunda</i> A. Gray var. <i>semilunaris</i> Maxim.	アギスミレ	△	○		○			
669 <i>Viola violacea</i> Makino var. <i>makinoi</i> (H. Boiss.) Hiyama	マキノスミレ	△		○	○			
670 <i>Viola yezoensis</i> Maxim.	ヒカゲスミレ				○			
キブシ科								
671 <i>Stachyurus praecox</i> Sieb. et Zucc.	キブシ	○	○	○	○	○		
ミゾハコベ科								
672 <i>Elatine triandra</i> Schk.	ミゾハコベ				○			
シュウカイドウ科								
673 <i>Begonia evansiana</i> Andr.	シュウカイドウ					○		逸出
ウリ科								
674 <i>Actinostemma lobatum</i> Maxim. ex Franch. et Savat.	ゴキツル				○		○	
675 <i>Gynostemma pentaphylla</i> (Thunb.) Makino	アマチャヅル	○	○	○	○	○	○	
676 <i>Melothria japonica</i> (Thunb.) Maxim. ex Cogn.	スズメウリ	○	○	○	○	○	○	
677 <i>Sicyos angulatus</i> Linn.	アレチウリ				○	○	○	
678 <i>Trichosanthes cucumeroides</i> (Ser.) Maxim.	カラスウリ	○	○	○	○	○	○	
679 <i>Trichosanthes kirilowii</i> Maxim. var. <i>japonica</i> (Miq.) Kitam.	キカラスウリ	○	○	○	○	○		
ミソハギ科								
680 <i>Ammannia multiflora</i> Roxb.	ヒメミソハギ	○			○			
681 <i>Lythrum anceps</i> (Koehne) Makino	ミソハギ			○		○		
682 <i>Rotala indica</i> (Willd.) Koehne var. <i>uliginosa</i> (Miq.) Koehne	キカシグサ	○	○		○	○		
683 <i>Rotala pusilla</i> Tulasne	ミズマツバ				○			
アカバナ科								
684 <i>Circaea erubescens</i> Franch. et Savat.	タニタデ				△			
685 <i>Circaea mollis</i> Sieb. et Zucc.	ミズタマソウ	○	○	○	○	○		

植 物

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
686 <i>Epilobium pyrricholophum</i> Franch. et Savat.	アカバナ	○	○	○	○	○		
687 <i>Ludwigia epilobioides</i> Maxim.	チョウジタデ	○	○	○	○	○	○	
688 <i>Oenothera biennis</i> Linn.	メマツヨイグサ	○	○	○	○	○	○	
689 <i>Oenothera erythrosepala</i> Borbkg	オオマツヨイグサ	○	○	○		○	○	
690 <i>Oenothera laciniata</i> Hill	コマツヨイグサ		○			○	○	
691 <i>Oenothera stricta</i> Ledeb.	マツヨイグサ					○	○	
アリノトウグサ科								
692 <i>Haloragis micrantha</i> (Thunb.) R. Br.	アリノトウグサ	△	○	○		○		
693 <i>Myriophyllum brasiliense</i> Cambess.	オオフサモ					○		
ウリノキ科								
694 <i>Alangium platanifolium</i> (Sieb. et Zucc.) Harms var. <i>trilobum</i> (Miq.) Ohwi	ウリノキ	○	○	○	○			
ミズキ科								
695 <i>Aucuba japonica</i> Thunb.	アオキ	○	○	○	○	○	○	植栽
696 <i>Benthamidia florida</i> (Linn.) Spach	アメリカヤマボウシ						○	
697 <i>Benthamidia japonica</i> (Sieb. et Zucc.) Hara	ヤマボウシ	○	○	○	○		○	
698 <i>Helwingia japonica</i> (Thunb.) F. G. Dietrich	ハナイカダ	○	○	○	○	○	○	
699 <i>Swida controversa</i> (Hemsl.) Soja'k	ミズキ	○	○	○	○			
700 <i>Swida macrophylla</i> (Wall.) Soja'k	クマノミズキ	○	○	○	○			
ウコギ科								
701 <i>Acanthopanax sciadophylloides</i> Franch. et Savat.	コシアブラ	○	○	○	○			
702 <i>Acanthopanax spinosus</i> (Linn. fil.) Miq.	ヤマウコギ	○	○	○	○	○		
703 <i>Aralia cordata</i> Thunb.	ウド		○	○	○	○		
704 <i>Aralia elata</i> (Miq.) Seemann	タラノキ	△	○	○	○	○	○	
705 <i>Dendropanax trifidus</i> (Thunb.) Makino	カクレミノ		○	○	○	○		
706 <i>Evodiopanax innovans</i> (Sieb. et Zecc.) Nakai	タカノツメ		○	○	○	○		
707 <i>Fatsia japonica</i> (Thunb.) Decne. et Planch.	ヤツデ	○	○	○	○	○		
708 <i>Hedera rhombea</i> (Miq.) Bean	キツタ	○	○	○	○	○	○	
709 <i>Kalopanax pictum</i> (Thunb.) Nakai	ハリギリ	○	○	○	○	○		
710 <i>Panax japonicus</i> C. A. Meyer	トチバナニンジン	○	○	○	○	○		
セリ科								
711 <i>Angelica decursiva</i> (Miq.) Franch. et Savat.	ノダケ	○	○	○	○	○		
712 <i>Angelica edulis</i> Miyabe ex Yabe	アマニュウ	△						
713 <i>Angelica inaequalis</i> Maxim.	ハナビゼリ	○						
714 <i>Angelica japonica</i> A. Gray	ハマウド					○		
715 <i>Angelica keiskei</i> (Miq.) Koidz.	アシタバ					○		逸出
716 <i>Angelica polymorpha</i> Maxim.	シラネセンキュウ				○			
717 <i>Angelica pubescens</i> Maxim.	シシウド		○					
718 <i>Centella asiatica</i> (Linn.) Urban	ツボクサ					○		
719 <i>Chamaele decumbens</i> (Thunb.) Makino	セントウソウ	○	○	○	○			
720 <i>Cnidium japonicum</i> Miq.	ハマゼリ					○		
721 <i>Cryptotaenia japonica</i> Hassk.	ミツバ	○	○	○	○	○		
722 <i>Glehnia littoralis</i> Fr. Schm. ex Miq.	ハマボウフウ					○		
723 <i>Heracleum nipponicum</i> Kitag.	ハナウド			○	○		○	
724 <i>Hydrocotyle javanica</i> Thunb.	オオバチドメ			○	○			
725 <i>Hydrocotyle matirima</i> Honda	ノチドメ					○	○	
726 <i>Hydrocotyle ramiflora</i> Maxim.	オオチドメ	○	○	○	○	○		
727 <i>Hydrocotyle sibthorpioides</i> Lam.	チドメグサ		○	○	○	○	○	
728 <i>Hydrocotyle yabei</i> Makino	ヒメチドメ		○	○	○	○		
729 <i>Libanotis coreana</i> (Wolff) Kitag.	イブキボウフウ				○			
730 <i>Ligusticum hulthenii</i> Fernald	マルバトウキ					○		
731 <i>Oenanthe javanica</i> DC.	セリ		○	○	○	○	○	
732 <i>Osmorhiza aristata</i> (Thunb.) Rydb.	ヤブニンジン		○	○	○	○		
733 <i>Ostericum sieboldii</i> (Miq.) Nakai	ヤマゼリ					○		
734 <i>Sanicula chinensis</i> Bunge	ウマノミツバ	○	○	○	○	○		
735 <i>Sium ninsi</i> Linn.	ムカゴニンジン			○	○			
736 <i>Sium suave</i> Walter subsp. <i>nipponicum</i> (Maxim.) Sugimoto	ヌマゼリ	○		○	○			
737 <i>Spuriopimpinella calycina</i> (Maxim.) Kitag.	カノツメソウ	○	△	○	○			
738 <i>Torilis japonica</i> (Houtt.) DC.	ヤブジラミ		○	○	○	○	○	
739 <i>Torilis scabra</i> (Thunb.) DC.	オヤブジラミ					○	○	
種子植物 被子植物 双子葉植物 合弁花類								
リョウブ科								
740 <i>Clethra barbinervis</i> Sieb. et Zucc.	リョウブ	○	○	○	○			
イチヤクソウ科								
741 <i>Chimaphila japonica</i> Miq.	ウメガサソウ		○	○	○	○		
742 <i>Monotropa uniflora</i> Linn.	ギンリョウソウモドキ			○	△			
743 <i>Monotropastrum humile</i> (D. Don) Hara	ギンリョウソウ	○	△	○	△			
744 <i>Pyrola japonica</i> Klenze	イチヤクソウ	△	○	○	○	○		
745 <i>Pyrola nephrophylla</i> (H. Andres) H. Andres	マルバノイチヤクソウ	○	△					
ツツジ科								
746 <i>Elliottia paniculata</i> (Sieb. et Zucc.) Benth. et Hook.	ホツツジ			○	○			
747 <i>Enkianthus subsessilis</i> (Miq.) Makino	アブラツツジ				○			
748 <i>Lyonia ovalifolia</i> (Wall.) Drude var. <i>elliptica</i> (Sieb. et Zucc.) Hand.-Mazz.	ネジキ	○	○	○	○			

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
749 <i>Pieris japonica</i> (Thunb.) D. Don	アセビ			○		○		
750 <i>Rhododendron japonicum</i> (A. Gray) Suringer	レンゲツツジ			○				
751 <i>Rhododendron keiskei</i> Miq.	ヒカゲツツジ				○			
752 <i>Rhododendron obtusum</i> (Lindl.) Planch. var. <i>kaempferi</i> (Planch.) Wils.	ヤマツツジ	○	○	○	○	○		
753 <i>Rhododendron semibarbatum</i> Maxim.	バイカツツジ	○	○	○	○			
754 <i>Rhododendron wadanum</i> Makino	トウゴクミツバツツジ	○	○	○	○			
755 <i>Vaccinium hirtum</i> Thunb. var. <i>pubescens</i> (Koidz.) Yamazaki	ウスノキ	○	○	○	○			
756 <i>Vaccinium oldhamii</i> Miq.	ナツハゼ	○	○	○	○			
ヤブコウジ科								
757 <i>Ardisia crenata</i> Sims	マンリョウ		○	○	○	○		
758 <i>Ardisia crispa</i> (Thunb.) DC.	カラタチバナ			○		○		
759 <i>Ardisia japonica</i> (Thunb.) Blume	ヤブコウジ	△	○	○	○	○		
760 <i>Maesa japonica</i> (Thunb.) Moritz	イズセンリョウ		○	○		○		
サクランソウ科								
761 <i>Anagallis arvensis</i> Linn. form. <i>phoenicea</i> Baumg.	アカバナリハコベ					○		
762 <i>Lysimachia acroadenia</i> Maxim.	ギンレイカ		○	○	○			
763 <i>Lysimachia clethroides</i> Duby	オオトラノオ	○	○	○	○	○	○	
764 <i>Lysimachia fortunei</i> Maxim.	ヌマトラノオ	○	○	○	○			
765 <i>Lysimachia japonica</i> Thunb.	コナスビ	○	○	○	○	○	○	
766 <i>Lysimachia mauritiana</i> Lam.	ハマボッス					○		
767 <i>Lysimachia vulgaris</i> Linn. var. <i>davurica</i> (Ledeb.) R. Kunth	クサレダマ				○			
カキノキ科								
768 <i>Diospyros kaki</i> Thunb.	カキノキ	○	○	○	○	○		
エゴノキ科								
769 <i>Pterostyrax hispida</i> Sieb. et Zucc.	オオバアサガラ	○	○		○			
770 <i>Styrax japonica</i> Sieb. et Zucc.	エゴノキ	○	○	○	○	○	○	
ハイノキ科								
771 <i>Symplocos chinensis</i> (Lour.) Druce var. <i>leucocarpa</i> (Nakai) Ohwi form. <i>pilosa</i> (Nakai) Ohwi	サワフタギ	○	○	○	○	○	○	
モクセイ科								
772 <i>Fraxinus lanuginosa</i> Koidz.	ケアオダモ	○						
773 <i>Fraxinus sieboldiana</i> Blume	マルバアオダモ	○	○	○	○			
774 <i>Ligustrum japonicum</i> Thunb.	ネズミモチ		○	○		○		
775 <i>Ligustrum lucidum</i> Ait.	トウネズミモチ	○				○		
776 <i>Ligustrum obtusifolium</i> Sieb. et Zucc.	イボタノキ	○	○	○	○		○	
777 <i>Ligustrum ovalifolium</i> Hassk.	オオバイボタ	○				○		
778 <i>Ligustrum tschonoskii</i> Decne. var. <i>kiyozumianum</i> (Nakai) Ohwi form. <i>epile</i> Ohwi	ケナシキヨズミイボタ			△				
779 <i>Osmanthus heterophyllus</i> (G. Don) P. S. Green	ヒイラギ	△	○	○	○	○		
マチン科								
780 <i>Mitrasacme pygmaea</i> R. Br.	アイナエ			○				
リンドウ科								
781 <i>Gentiana scabra</i> Bunge var. <i>buergeri</i> (Miq.) Maxim.	リンドウ	○	○	○	○			
782 <i>Gentiana squarrosa</i> Ledeb.	コケリンドウ		○			○		
783 <i>Gentiana zollingeri</i> Fawcett	フデリンドウ	○	○	○	△			
784 <i>Swertia bimaculata</i> (Sieb. et Zucc.) Hook. et Thoms.	アケボノソウ	○	○	○	○			
785 <i>Swertia japonica</i> (Schult.) Makino	センブリ	○	○	○	○			
786 <i>Tripterospermum japonicum</i> (Sieb. et Zucc.) Maxim.	ツルリンドウ	○	○	○	○			
キョウチクトウ科								
787 <i>Trachelospermum asiaticum</i> (Sieb. et Zucc.) Nakai	テイカカズラ	○	○	○	○	○	○	
788 <i>Vinca major</i> Linn.	ツルニチニチソウ					○		逸出
ガガイモ科								
789 <i>Cynanchum caudatum</i> (Miq.) Maxim.	イケマ	○						
790 <i>Cynanchum magnificum</i> Nakai	タチガシラ		○	○	○			
791 <i>Cynanchum paniculatum</i> (Bunge) Kitag.	スズサイコ					○		
792 <i>Cynanchum subanceolatum</i> (Miq.) Matsum.	コバノカモメヅル	○	○	○	○			
793 <i>Cynanchum wilfordii</i> (Maxim.) Hemsl.	コイケマ					○		
794 <i>Marsdenia tomentosa</i> Morr. et Decne.	キジョラン		○	○				
795 <i>Metaplexis japonica</i> (Thunb.) Makino	ガガイモ	○	○			○	○	
796 <i>Tylophora aristolochioides</i> Miq.	オオカモメヅル	○	○		○			
アカネ科								
797 <i>Asperula odorata</i> Linn.	クルマバソウ	○						
798 <i>Damnacanthus macrophyllus</i> Sieb. ex Miq.	ジュズネノキ			○				
799 <i>Diodia teres</i> Walt.	オオフタバムグラ		○			○		
800 <i>Galium gracilens</i> (A. Gray) Makino	ヒメヨツバムグラ		○	○		○		
801 <i>Galium kinuta</i> Nakai et Hara	キヌタソウ	△						
802 <i>Galium pogonanthum</i> Franch. et Savat.	ヤマムグラ					○		
803 <i>Galium pseudo-asprellum</i> Makino	オオバノヤエムグラ	○	○		○			
804 <i>Galium spurium</i> Linn. var. <i>echinospermon</i> (Wallr.) Hayek	ヤエムグラ		○	○	○	○	○	
805 <i>Galium trachyspermon</i> A. Gray	ヨツバムグラ	○	○		○	○		
806 <i>Galium trifidum</i> Linn. var. <i>brevipedunculatum</i> Regel	ホソバノヨツバムグラ				○	○		
807 <i>Galium trifloriforme</i> Komar. var. <i>nipponicum</i> (Makino) Nakai	クヤマムグラ	○				○		
808 <i>Hedyotis diffusa</i> Willd.	フタバムグラ		○			○		
809 <i>Hedyotis lindleyana</i> Hook. var. <i>hirsuta</i> (Linn. fil.) Hara	ハシカグサ	○	○	○	○	○		

植 物

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
810 <i>Mitchella undulata</i> Sieb. et Zucc.	ツルアリドオシ	○	○	○	○	○	○	
811 <i>Paederia scandens</i> (Lour.) Merr.	ヤイトバナ	○	○	○	○	○	○	
812 <i>Rubia argyi</i> (Lev.) Hara	アカネ	△	○	○	○	○	○	
ヒルガオ科								
813 <i>Calystegia hederacea</i> Wall.	コヒルガオ		○	○	○	○	○	
814 <i>Calystegia japonica</i> Choisy	ヒルガオ		○	○	○	○	○	
815 <i>Calystegia soldanella</i> (Linn.) Roem. et Schult.	ハマヒルガオ		○	○	○	○	○	
816 <i>Cuscuta japonica</i> Choisy	ネナシカズラ	○	○	○	○			
817 <i>Quamoclit coccinea</i> (Linn.) Moench	マルバルコウ						○	
818 <i>Ipomoea pes-caprae</i> (Linn.) Sweet	グンバイヒルガオ					○		
ムラサキ科								
819 <i>Ancystrocarya japonica</i> Maxim.	サワルリソウ			○				
820 <i>Bothriospermum tenellum</i> (Hornem.) Fisch. et C. A. Mey.	ハナイバナ	△	○	○	○	○	○	
821 <i>Lithospermum zollingeri</i> DC.	ホタルカズラ				△	○	○	
822 <i>Messerschmidia sibirica</i> Linn.	スナビキソウ					○		
823 <i>Omphalodes krameri</i> Franch. et Savat.	ルリソウ			○				
824 <i>Symphytum officinale</i> Linn.	ヒレハリソウ					○	○	
825 <i>Trigonotis peduncularis</i> (Trevir.) Benth.	キューリグサ	○	○	○	○	○	○	
クマツヅラ科								
826 <i>Callicarpa dichotoma</i> (Lour.) K. Koch	コムラサキ			○	○			
827 <i>Callicarpa japonica</i> Thunb.	ムラサキシキブ	○	○	○	○	○		
828 <i>Callicarpa mollis</i> Sieb. et Zucc.	ヤブムラサキ	○	○	○	○			
829 <i>Caryopteris divaricata</i> (Sieb. et Zucc.) Maxim.	カリガネソウ				○			
830 <i>Clerodendrum trichotomum</i> Thunb.	クサギ	○	○	○	○	○	○	
831 <i>Lippia nodiflora</i> (Linn.) Linn. C. Richard ex Michx.	イワダレソウ					○		植栽?
832 <i>Verbena bonariensis</i> Linn.	ヤナギハナガサ					○		
833 <i>Vitex rotundifolia</i> Linn. fil.	ハマゴウ					○		
アワゴケ科								
834 <i>Callitriche japonica</i> Engelm.	アワゴケ		○					
シソ科								
835 <i>Agastache rugosa</i> (Fisch. et Mey.) O. Kuntze	カワミドリ		○					
836 <i>Ajuga ciliata</i> Bunge. var. <i>villosior</i> A. Gray	カイジンドウ				△			
837 <i>Ajuga decumbens</i> Thunb.	キラソウ	○	○	○	△	○	○	
838 <i>Ajuga incisa</i> Maxim.	ヒイラギソウ				○			
839 <i>Ajuga yezoensis</i> Maxim. var. <i>tsukubana</i> Nakai	ツクバキンモンソウ	○	○	○	○			
840 <i>Chelonopsis moschata</i> Miq.	ジャコウソウ	○	○		○			
841 <i>Clinopodium chinense</i> (Benth.) O. Kuntze								
subsp. <i>grandiflorum</i> (Maxim.) Hara var. <i>parviflorum</i> (Kudo) Hara	クマルバナ	○	○		○			
842 <i>Clinopodium gracile</i> (Benth.) O. Kuntze	トウバナ		○					
843 <i>Clinopodium micranthum</i> (Regel) Hara	イヌトウバナ	○	○	○	○	○		
844 <i>Elsholtzia argyi</i> Lev. var. <i>nipponica</i> (Ohwi) Murata	フトボナギナタコウジュ	○	○	○	○	○		
845 <i>Elsholtzia ciliata</i> (Thunb.) Hylander	ナギナタコウジュ	○	○	○	○	○	○	
846 <i>Glechoma hederacea</i> Linn. subsp. <i>grandis</i> (A. Gray) Hara	カキドオシ	○	○	○	○	○	○	
847 <i>Lamium album</i> Linn. var. <i>barbatum</i> (Sieb. et Zucc.) Franch. et Savat.	オドリコソウ				○	○	○	
848 <i>Lamium amplexicaule</i> Linn.	ホトケノザ	○	○	○	○	○	○	
849 <i>Lamium purpureum</i> Linn.	ヒメオドリコソウ	○	○	○	○	○	○	
850 <i>Leonurus japonicus</i> Houtt.	メハジキ					○		
851 <i>Leonurus macranthus</i> Maxim.	キセワタ					○		
852 <i>Leucoscepttrum japonicum</i> (Miq.) Kitam. et Murata	テンニンソウ				○			
853 <i>Lycopus lucidus</i> Turcz.	シロネ					○	○	
854 <i>Lycopus maackianus</i> (Maxim.) Makino	ヒメシロネ	○		○	○			
855 <i>Lycopus ramosissimus</i> Makino	ヒメサルダヒコ					○	○	
856 <i>Lycopus ramosissimus</i> Makino var. <i>japonicus</i> (Matsum. et Kudo) Kitam.	コシロネ		○				○	
857 <i>Meehania urticifolia</i> Makino	ラショウモンカズラ				○			
858 <i>Mentha arvensis</i> Linn. var. <i>piperascens</i> Malinv.	ハッカ		○	○		○		
859 <i>Mosla dianthera</i> (Hamilt.) Maxim.	ヒメジソ	○	○	○	○	○	○	
860 <i>Mosla hirta</i> Hara	シラゲヒメジソ		○					
861 <i>Mosla punctulata</i> (J. F. Gmel.) Nakai	イヌコウジュ	○	○		○	○	○	
862 <i>Perilla frutescens</i> (Linn.) Britton var. <i>citriodora</i> (Makino) Ohwi	レモンエゴマ	△	○		○			
862 <i>Perilla frutescens</i> (Linn.) Britton	エゴマ	○				○		
864 <i>Perilla frutescens</i> (Linn.) Britton var. <i>crispa</i> (Thunb.) Decne.	シソ					○		逸出
865 <i>Prunella vulgaris</i> Linn. subsp. <i>asiatica</i> (Nakai) Hara	ウツボグサ	○	○	○	○	○		
866 <i>Rabdosia inflexa</i> (Thunb.) Hara	ヤマハッカ	○	○	○	○	○		
867 <i>Rabdosia japonica</i> (Burm.) Hara	ヒキオコシ	○						
868 <i>Rabdosia shikokiana</i> (Makino) Hara var. <i>intermedia</i> (Kudo) Hara	タカクマヒキオコシ			○	○			
869 <i>Rabdosia umbrosa</i> (Maxim.) Hara var. <i>leucantha</i> (Murai) Hara	カメバヒキオコシ	○						
870 <i>Salvia japonica</i> Thunb.	アキノタムラソウ	○	○	○	○	○		
871 <i>Salvia nipponica</i> Miq.	キバナアキギリ	○	○	○	○	○		
872 <i>Scutellaria bracyspica</i> Nakai et Hara	オカタツナミソウ	○	○	○	○	○		
873 <i>Scutellaria indica</i> Linn.	タツナミソウ	○	○		○	○		
874 <i>Scutellaria maekawae</i> Hara form. <i>abbreviata</i> (Hara) Murata	トウゴクシソバタツナミ		△	○				
875 <i>Scutellaria pekinensis</i> Maxim. var. <i>transita</i> (Makino) Hara	ヤマタツナミソウ	○						
876 <i>Stachys riederi</i> Chamisso var. <i>intermedia</i> (Kudo) Kitam.	イヌゴマ					○	○	
877 <i>Teucrium japonicum</i> Houtt.	ニガクサ					○		

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
878 <i>Teucrium viscidum</i> Blume var. <i>miquelianum</i> (Maxim.) Hara	ツルニガクサ	○	○	○	○	○		
ナス科								
879 <i>Lycium chinense</i> Miller	クコ	△	○	○	○	○		
880 <i>Physaliastrum japonicum</i> (Franch. et Savat.) Honda	イガホオズキ	○	○		○			
881 <i>Physalis alkekengi</i> Linn. var. <i>franchetii</i> (Masters) Hort.	ホオズキ					○	○	逸出
882 <i>Solanum americanum</i> Mill.	アメリカイヌホオズキ					○	○	
883 <i>Solanum carolinense</i> Linn.	ワルナスビ	○	○	○		○	○	
884 <i>Solanum japonense</i> Nakai	ヤマホロシ		○					
885 <i>Solanum lyratum</i> Thunb.	ヒヨドリジョウゴ		○		○			
886 <i>Solanum maximowiczii</i> Koidz.	マルバノホロシ	○						
887 <i>Solanum megacarpum</i> Koidz.	オオマルバノホロシ						○	
888 <i>Solanum nigrum</i> Linn.	イヌホオズキ			○		○		
889 <i>Solanum nodiflorum</i> Jacq.	テリミノイヌホオズキ	○	○					
890 <i>Solanum pseudocapsicum</i> Linn.	タマサンゴ					○		
891 <i>Tubocapsicum anomalum</i> (Franch. et Savat.) Makino	ハダカホオズキ	△	○	○	○	○		
フジウツギ科								
892 <i>Buddleja japonica</i> Hemsley	フジウツギ	○	○		○			
ゴマノハグサ科								
893 <i>Deinostema adenocaulum</i> (Maxim.) Yamazaki	マルバノサワトウガラシ				○			
894 <i>Deinostema violaceum</i> (Maxim.) Yamazaki	サワトウガラシ		○		○			
895 <i>Dopatrium junceum</i> (Roxb.) Buch.-Hamil.	アブノメ	○			○			
896 <i>Limnophila sessiliflora</i> Blume	キクモ	○			○			
897 <i>Linaria japonica</i> Miq.	ウンラン					○		
898 <i>Lindernia angustifolia</i> (Benth.) Wettst.	アゼトウガラシ				○			
899 <i>Lindernia antipoda</i> (Linn.) Alston	スズメノトウガラシ	△			○			
900 <i>Lindernia crustacea</i> (Linn.) F. V. Muell.	ウリクサ		○	○	○	○		
901 <i>Lindernia dubia</i> (Linn.) Pennell	アメリカアゼナ	○	○	○	○	○	○	
902 <i>Lindernia procumbens</i> (Krock.) Philcox	アゼナ	○	○	○	○	○	○	
903 <i>Mazus miquelii</i> Makino	サギゴケ	○	○	○	○	○	○	
904 <i>Mazus miquelii</i> Makino form. <i>rotundifolius</i> Yamazaki	ヤマサギゴケ				○			
905 <i>Mazus pumilus</i> (Burm. fil.) van Steenis	トキワハゼ		○	○	○	○	○	
906 <i>Melampyrum laxum</i> Miq. var. <i>nikkoense</i> Beauv.	ミヤママコナ				○			
907 <i>Melampyrum roseum</i> Maxim. var. <i>japonicum</i> Franch. et Savat.	マコナ	○		○	○			
908 <i>Mimulus nepalensis</i> Benth. var. <i>japonicus</i> Miq.	ミノホオズキ	○			○			
909 <i>Phtheirospermum japonicum</i> (Thunb.) Kanitz	コシオガマ	○	○	○				
910 <i>Scrophularia kakudensis</i> Franch.	オオヒナノウスツボ	△	○		○			
911 <i>Siphonostegia chinensis</i> Benth.	ヒキヨモギ	○	○	○				
912 <i>Siphonostegia laeta</i> S. Moore	オオヒキヨモギ		○	○	○			
913 <i>Veronica arvensis</i> Linn.	タチイヌノフグリ	○	○	○	○	○	○	
914 <i>Veronica didyma</i> Tenore var. <i>lilacina</i> (Hara) Yamazaki	イヌノフグリ			○				
915 <i>Veronica hederaefolia</i> Linn.	フラサバソウ					○		
916 <i>Veronica miqueliana</i> Nakai	クラガタソウ	△			○			
917 <i>Veronica persica</i> Poir.	オオイヌノフグリ	○	○	○	○	○	○	
918 <i>Veronica undulata</i> Wall.	カワヂシャ					○		
キツネノマゴ科								
919 <i>Justicia procumbens</i> Linn.	キツネノマゴ	○	○	○	○	○	○	
920 <i>Peristrophe japonica</i> (Thunb.) Bremek.	ハグロソウ			○	○			
イワタバコ科								
921 <i>Conandron ramondioides</i> Sieb. et Zucc.	イワタバコ	○	○		○			
ハマウツボ科								
922 <i>Aeginetia indica</i> Linn.	ナンバンギセル			○		○	○	
923 <i>Orobanchae coerulescens</i> Stephan	ハマウツボ					○		
924 <i>Phacellanthum tubiflorum</i> Sieb. et Zucc.	キヨスミウツボ		△					
ハエドクソウ科								
925 <i>Phryma leptostachya</i> Linn. var. <i>asiatica</i> Hara	ハエドクソウ	○	○	○	○	○		
オオバコ科								
926 <i>Plantago asiatica</i> Linn.	オオバコ	○	○	○	○	○	○	
927 <i>Plantago camtschatica</i> Cham. ex Link	エゾオオバコ					○		
928 <i>Plantago lanceolata</i> Linn.	ヘラオオバコ					○	○	
929 <i>Plantago major</i> Linn.	セイヨウオオバコ				○			
930 <i>Plantago major</i> Linn. var. <i>japonica</i> (Franch. et Savat.) Miyabe	トウオオバコ					○	○	
931 <i>Plantago virginica</i> Linn.	ツボミオオバコ					○	○	
スイカズラ科								
932 <i>Abelia spathulata</i> Sieb. et Zucc.	ツクバネウツギ	○	○	○	○	○		
933 <i>Abelia spathulata</i> Sieb. et Zucc. var. <i>sanguinea</i> Makino	ベニバナノツクバネウツギ				△			
934 <i>Abelia tetrapala</i> (Koidz.) Hara et Kurosawa	オオツクバネウツギ	△		○				
935 <i>Lonicera gracilipes</i> Miq.	ヤマウグイスカグラ	○	○	○	○	○		
936 <i>Lonicera japonica</i> Thunb.	スイカズラ	○	○	○	○	○	○	
937 <i>Sambucus chinensis</i> Lindl.	ソクズ	△		○	△	○		
938 <i>Sambucus racemosa</i> Linn. subsp. <i>sieboldiana</i> (Miq.) Hara	ニワトコ	○	○	○	○	○		
939 <i>Sambucus racemosa</i> Linn. subsp. <i>sieboldiana</i> (Miq.) Hara form. <i>nakaiana</i> Murata	キミノニワトコ	○						
940 <i>Viburnum dilatatum</i> Thunb. ex Murray	ガマズミ	○	○	○	○	○	○	
941 <i>Viburnum erosum</i> Thunb. ex Murray var. <i>punctatum</i> Franch. et Savat.	コバノガマズミ	○	○	○	○	○		

植 物

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
942 <i>Viburnum phlebotoichum</i> Sieb. et Zucc.	オトコヨウソメ	○	○	○	○			
943 <i>Viburnum plicatum</i> Thunb. var. <i>tomentosum</i> (Thunb. ex Murray) Miq.	ヤブデマリ	○	○	○	○			
944 <i>Viburnum sieboldii</i> Miq.	ゴマギ	○						
945 <i>Viburnum wrightii</i> Miq.	ミヤマガマズミ	○	○	○	○			
946 <i>Weigela decola</i> (Nakai) Nakai	ニシキウツギ	○						
レンブクソウ科								
947 <i>Adoxa moschatellina</i> Linn.	レンブクソウ				○			
オミナエシ科								
948 <i>Patrinia scabiosaefolia</i> Fisch.	オミナエシ		○	○	○			
949 <i>Patrinia villosa</i> (Thunb.) Juss.	オトコエシ	○	○	○	○			
950 <i>Valeriana flaccidissima</i> Maxim.	ツルカノコソウ				○			
キキョウ科								
951 <i>Adenophora remotiflora</i> (Sieb. et Zucc.) Miq.	ソバナ	○			△			
952 <i>Adenophora triphylla</i> (Thunb.) A. DC. var. <i>japonica</i> (Regel) Hara	ツリガネニンジン	○	○	○	○	○		
953 <i>Asyneuma japonicum</i> (Miq.) Briquet	シデシヤジン				○			
954 <i>Campanula punctata</i> Lam.	ホタルブクロ			○	○	○		
955 <i>Campanumoea maximowiczii</i> Honda	ツルギキョウ		○	○				
956 <i>Codonopsis lanceolata</i> (Sieb. et Zucc.) Trautv.	ツルニンジン	△	○	○	○			
957 <i>Lobelia chinensis</i> Lour.	ミゾカクシ		○	○	○		○	
958 <i>Lobelia inflata</i> Linn.	ロベリアソウ		○					
959 <i>Lobelia sessilifolia</i> Lamb.	サワギキョウ			○	○			
960 <i>Peracarpa carnea</i> (Wall.) Hook. fil. et Thomson var. <i>circaeoides</i> (Fr. Schm.) Makino	タニギキョウ	○			○	○		
961 <i>Platycodon grandiflorum</i> (Jacq.) A. DC.	キキョウ			○	○			
キク科								
962 <i>Achillea millefolium</i> Linn.	セイヨウノコギリソウ					○	○	
963 <i>Adenocaulon himalaicum</i> Edgew.	ノブキ	○	○	○	○	○	○	
964 <i>Adenostemma lavenia</i> (Linn.) O. Kuntze	ヌマダイコン					○		
965 <i>Ainsliaea acerifolia</i> Sch. Bip. var. <i>subapoda</i> Nakai	オクモミジハグマ	○	○	○	○	○	○	
966 <i>Ainsliaea apiculata</i> Sch. Bip.	キッコウハグマ	○	○	○	○	○	○	
967 <i>Ambrosia artemisiifolia</i> Linn. var. <i>elator</i> (Linn.) Descurtiz	ブタクサ	○	○	○	○	○	○	
968 <i>Ambrosia trifida</i> Linn.	クワモドキ						○	
969 <i>Anaphalis margaritacea</i> (Linn.) Benth. et Hook. fil.	ヤマハハコ	○	○	○	○			
970 <i>Artemisia annua</i> Linn.	クソニンジン	○						
971 <i>Artemisia capillaris</i> Thunb.	カワラヨモギ	○	○			○		
972 <i>Artemisia princeps</i> Pamp.	ヨモギ	○	○	○	○	○	○	
973 <i>Artemisia japonica</i> Thunb.	オトコヨモギ	○	○	○	○	○	○	
974 <i>Artemisia keiskeana</i> Miq.	イヌヨモギ		○	○	○			
975 <i>Artemisia stelleriana</i> Besser	シロヨモギ					○		
976 <i>Aster ageratoides</i> Turcz. subsp. <i>amplexifolius</i> (Sieb. et Zucc.) Kitam.	ヤマシロギク	△	○	○	○			
977 <i>Aster ageratoides</i> Turcz. subsp. <i>leiophyllus</i> (Franch. et Savat.) Kitam.	シロオメナ	○	○			○		
978 <i>Aster ageratoides</i> Turcz. subsp. <i>ovatus</i> (Franch. et Savat.) Kitam.	ノコンギク	○	○	○	○	○	○	
979 <i>Aster glehni</i> Fr. Schm. var. <i>hondoensis</i> Kitam.	ゴマナ		○	○	○			
980 <i>Aster rugulosus</i> Maxim.	サワシロギク		○	○	○			
981 <i>Aster scaber</i> Thunb.	シラヤマギク	○	○	○	○	○	○	
982 <i>Aster subulatus</i> Michx.	ホウキギク				○			
983 <i>Aster subulatus</i> Michx. var. <i>sandwicensis</i> (A. Gray) A. G. Jones	ヒロハホウキギク					○	○	
984 <i>Aster tripolium</i> L. inn.	ウラギク					○	○	
985 <i>Atractylodes japonica</i> Koidz. ex Kitam.	オケラ	△	○	○	○			
986 <i>Bidens bipinnata</i> Linn.	コバノセンダングサ					○		
987 <i>Bidens biternata</i> (Lour.) Merr. et Sherff	センダングサ	○		○			○	
988 <i>Bidens frondosa</i> Linn.	アメリカセンダングサ	○	○	○	○	○	○	
989 <i>Bidens pilosa</i> Linn. var. <i>minor</i> (Blume) Sherff	コシロノセンダングサ					○	○	
990 <i>Bidens pilosa</i> Linn.	コセンダングサ		○		○	○	○	
991 <i>Bidens tripartita</i> Linn.	タウコギ		○	○		○		
992 <i>Cacalia delphinifolia</i> Sieb. et Zucc.	モミジガサ	○	○	○	○			
993 <i>Cacalia farfaraefolia</i> Sieb. et Zucc. var. <i>bulbifera</i> (Maxim.) Kitam.	タマブキ	○	○	○	○			
994 <i>Carpesium abrotanoides</i> Linn.	ヤブタバコ	○	○	○	○	○		
995 <i>Carpesium cernuum</i> Linn.	コヤブタバコ			○	△			
996 <i>Carpesium divaricatum</i> Sieb. et Zucc.	ガンクビソウ	○	○	○	○	○		
997 <i>Carpesium divaricatum</i> Sieb. et Zucc. var. <i>matsuei</i> (Tatew. et Kitam.) Kitam.	ノッポロガンクビソウ		○					
998 <i>Carpesium glossophyllum</i> Maxim.	サジガンクビソウ	○	○	○	○			
999 <i>Carpesium rosulatum</i> Miq.	ヒメガンクビソウ			○				
1000 <i>Centipeda minima</i> (Linn.) A. Br. et Aschers.	トキンソウ	○	○	○	○	○	○	
1001 <i>Chrysanthemum coronarium</i> Linn.	シュンギク						○	
1002 <i>Cirsium japonicum</i> DC.	ノアザミ	○	○	○	○	○	○	
1003 <i>Cirsium microspicatum</i> Nakai	アズマヤマアザミ	○			○			
1004 <i>Cirsium nipponicum</i> (Maxim.) Makino var. <i>incomptum</i> (Franch. et Savat.) Kitam.	トネアザミ	○	○	△	○			
1005 <i>Cirsium oligophyllum</i> (Franch. et Savat.) Matsum.	ノハラアザミ	○	○		○	○		
1006 <i>Cirsium pendulum</i> Fisch.	タカアザミ				○	○	○	
1007 <i>Cirsium sieboldii</i> Miq.	キセルアザミ	○		○	○			
1008 <i>Cirsium vulgare</i> (Savi) Tenore	アメリカオニアザミ					○		

逸出

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
1009 Conyza bonariensis (Linn.) Cronq.	アレチノギク					○		
1010 Conyza sumatrensis (Retz.) Walker	オオアレチノギク	○	○	○	○	○	○	
1011 Coreopsis lanceolata Linn.	オオキンケイギク					○		
1012 Coreopsis tinctoria Nutt.	ハルシャギク					○		
1013 Crassocephalum crepidioides (Bentham) S. Moore	ベニバナボロギク	○	○	○	○	○	○	
1014 Dendranthema arcticum (Linn.) Tzvelev subsp. maekawanum Kitam.	コハマギク					○		
1015 Dendranthema boreale (Makino) Kitam.	キクタニギク	○	○					
1016 Dendranthema japonicum (Makino) Kitam.	リュウノウギク			○		○		
1017 Dendranthema pacificum (Nakai) Kitam.	イソギク					○		
1018 Dendranthema x marginatum (Miq.) Kitam.	ハナイソギク					○		
1019 Eclipta thermalis Bunge	タカサブロウ	○	○	○	○	○	○	
1020 Erechites hieracifolia (Linn.) Raf.	ダンドボロギク	△	○	○	○	○	○	
1021 Erigeron canadensis Linn.	ヒメムカシヨモギ	○	○	○	○	○	○	
1022 Erigeron philadelphicus Linn.	ハルジオン	○	○	○	○	○	○	
1023 Eupatorium chinense Linn.	ヒヨドリバナ	○	○	○	○	○	○	
1024 Eupatorium lindleyanum DC.	サウヒヨドリ	△	○	○	○	○	○	
1025 Galinsoga ciliata (Raf.) Blake	ハキダメギク	○	○	○	○	○	○	
1026 Gnaphalium affine D. Don	ハハコグサ	○	○	○	○	○	○	
1027 Gnaphalium hypoleucum DC.	アキノハハコグサ		○					
1028 Gnaphalium japonicum Thunb.	チチコグサ	○	○	○	○	○	○	
1029 Gnaphalium pensylvanicum Willd.	チチコグサモドキ	△	○	○		○	○	
1030 Gnaphalium purpureum Linn.	ウスベニチチコグサ		○			○	○	
1031 Gnaphalium spicatum Lam.	ウラジロチチコグサ					○	○	
1032 Helianthus strumosus Linn.	イヌキクイモ	○				○		
1033 Helianthus tuberosus Linn.	ククイモ		○	○	○			
1034 Hemistepta lyrata Bunge	キツネアザミ		○	○	○	○	○	
1035 Hypochoeris radicata Linn.	ブタナ					○		
1036 Inula britannica Linn. subsp. japonica (Thunb.) Kitam.	オグルマ			○				
1037 Inula salicina Linn. var. asiatica Kitam.	カセンソウ	△		○	○	○	○	
1038 Ixeris debilis A. Gray	オオジシバリ	○	○			○	○	
1039 Ixeris dentata (Thunb.) Nakai	ニガナ	△	○	○	○	○	○	
1040 Ixeris dentata (Thunb.) Nakai var. albiflora (Makino) Nakai	シロバナニガナ	○	○					
1041 Ixeris dentata (Thunb.) Nakai form. amplifolia (Kitam.) Hiyama	オオバナニガナ	○						
1042 Ixeris polycephala Cass.	ノニガナ					○		
1043 Ixeris repens (Linn.) A. Gray	ハマニガナ					○		
1044 Ixeris stolonifera A. Gray	イワニガナ		○	○	○	○	○	
1045 Kalimeris pinnatifida (Maxim.) Kitam.	ユウガギク	○	○	○	○	○	○	
1046 Kalimeris pseudo-yomena Kitam.	カントウヨメナ		○	○	○	○	○	
1047 Lactuca indica Linn.	アキノノグシ		○	○	○	○	○	
1048 Lactuca raddeana Maxim. var. elata (Hemsl.) Kitam.	ヤマニガナ	○	○	○	○	○	○	
1049 Lactuca sororia Miq.	ムラサキニガナ	○	○	○	○	○	○	
1050 Lapsana apogonoides Maxim.	コオニタヒラコ		○	○	○		○	
1051 Lapsana humilis (Thunb.) Makino	ヤブタヒラコ		○	○	○	○	○	
1052 Leibnitzia anandria (Linn.) Turcz.	センボンヤリ	○	○	○	○	○	○	
1053 Ligularia dentata (A. Gray) Hara	マルバダケブキ				○			
1054 Nipponanthemum nipponicum (Franch. ex Maxim.) Kitam.	ハマギク					○		
1055 Pertya glabrescens Sch. Bip.	ナガバノコウヤボウキ	○	○	○	○			
1056 Pertya robusta (Nakai) Beauv.	カシワバハグマ	○	○	○	○	○	○	
1057 Pertya scandens (Thunb.) Sch. Bip.	コウヤボウキ	○	○	○	○	○	○	
1058 Petasites japonicus (Sieb. et Zucc.) Maxim.	フキ	○	○	○	○	○	○	
1059 Picris hieracioides Linn. subsp. japonica (Thunb.) Krylov	コウソリナ	○	○	○	○	○	○	
1060 Prenanthes acerifolia (Maxim.) Matsum.	フクオウソウ	△	○	○	○			
1061 Prenanthes tanakae (Franch. et Savat.) Koidz.	オオニガナ			○	○	○	○	
1062 Rhynchospermum verticillatum Reinw.	シュウブソウ	○	○	○	○			
1063 Saussurea maximowiczii Herder	ミヤコアザミ				△			
1064 Senecio integrifolius (Linn.) Clairv. subsp. fauriei (Lev. et Vant.) Kitam.	オカオグルマ		○					
1065 Senecio pierottii Miq.	サワオグルマ						○	
1066 Senecio vulgaris Linn.	ノボロギク		○	○		○	○	
1067 Serratula coronata Linn. subsp. insularis (Ijima) Kitam.	タムラソウ			○	○	○	○	
1068 Siegesbeckia orientalis Linn. subsp. glabrescens (Makino) Kitam.	コメナモミ		○	○	○	○	○	
1069 Siegesbeckia orientalis Linn. subsp. pubescens (Makino) Kitam.	メナモミ		○	○	○	○	○	
1070 Solidago altissima Linn.	セイタカアワダチソウ	○	○	○	○	○	○	
1071 Solidago gigantea Ait. var. leiophylla Fernald	オオアワダチソウ					○	○	
1072 Solidago virgaurea Linn. subsp. asiatica Kitam.	アキノキリンソウ	○	○	○	○	○	○	
1073 Sonchus asper (Linn.) Hill.	オニノグシ	△	○	○	○	○	○	
1074 Sonchus brachyotus DC.	ハチジョウナ					○	○	
1075 Sonchus oleraceus Linn.	ノグシ	○	○	○	○	○	○	
1076 Stenactis annuus (Linn.) Cass.	ヒメジョオン	○	○	○	○	○	○	
1077 Stenactis strigosus (Muhl.) DC.	ヘラバヒメジョオン	△	○	○	○	○	○	
1078 Syneilesis palmata (Thunb.) Maxim.	ヤブレガサ	△	○			○	○	
1079 Synurus excelsus (Makino) Kitam.	ハバヤマボクチ					○	○	
1080 Synurus pungens (Franch. et Savat.) Kitam.	オヤマボクチ	△	○		△			
1081 Taraxacum hondoense Nakai	エゾタンポポ				○			
1082 Taraxacum laevigatum DC.	アカミタンポポ			○		○		

植 物

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
1083 <i>Taraxacum officinale</i> Weber	セイヨウタンポポ	○	○	○	○	○	○	
1084 <i>Taraxacum platycarpum</i> Dahlst.	カントウタンポポ	○	○	○	○	○	○	
1085 <i>Wedelia prostrata</i> (Hook. et Arn.) Hemsl.	ネコノシタ					○	○	
1086 <i>Xanthium italicum</i> Moretti	イガオナモミ					○	○	
1087 <i>Xanthium occidentale</i> Bertoloni	オオオナモミ					○	○	
1088 <i>Youngia denticulata</i> (Houtt.) Kitam.	ヤクシソウ	○	○	○	○	○	○	
1089 <i>Youngia japonica</i> (Linn.) DC.	オニタビラコ	○	○			○	○	
種子植物 被子植物 単子葉植物								
オモダカ科								
1090 <i>Alisma canaliculatum</i> A. Br. et Bouch'e	ヘラオモダカ	○		○	○	○		
1091 <i>Alisma plantago-aquatica</i> Linn. var. <i>orientale</i> Samuels.	サジオモダカ			○				
1092 <i>Alisma canaliculatum</i> A. Br. et Bouche var. <i>harimensis</i> Makino	トウゴクヘラオモダカ				○			
1093 <i>Sagittaria aginashi</i> Makino	アギナシ				○			
1094 <i>Sagittaria pygmaea</i> Miq.	ウリカワ	○	○		○			
1095 <i>Sagittaria trifolia</i> Linn.	オモダカ	○	○	○	○	○	○	
トチカガミ科								
1096 <i>Blyxa japonica</i> (Miq.) Maxim.	ヤナギスブタ				○			
1097 <i>Egeria densa</i> Planch.	オオカナダモ			○				
1098 <i>Elodea nuttallii</i> (Planch.) St. John	コカナダモ					○		
1099 <i>Ottelia japonica</i> Miq.	ミズオオバコ	○					○	
ヒルムシロ科								
1100 <i>Potamogeton berchtoldii</i> Fieber	イトモ					○		
1101 <i>Potamogeton crispus</i> Linn.	エビモ			○				
1102 <i>Potamogeton distinctus</i> A. Bennett	ヒルムシロ			○	○			
1103 <i>Potamogeton oxyphyllus</i> Miq.	ヤナギモ					○		
イバラモ科								
1104 <i>Najas graminea</i> Del.	ホッスモ				○			
1105 <i>Najas japonica</i> Nakai	イトトリゲモ				○			
ユリ科								
1106 <i>Allium grayi</i> Regel	ノビル	△	○	○	○	○	○	
1107 <i>Allium momanthum</i> Maxim.	ヒメニラ				○			
1108 <i>Allium thunbergii</i> G. Don	ヤマラッキョウ		○	○	○	○		
1109 <i>Allium tuberosum</i> Rottl.	ニラ					○		逸出
1110 <i>Cardiocrinum cordatum</i> (Thunb.) Makino	ウバユリ	○	○	○	○			
1111 <i>Convallaria keiskei</i> Miq.	スズラン		○					
1112 <i>Crinum asiaticum</i> Linn. var. <i>japonicum</i> Baker	ハマオモト						○	逸出
1113 <i>Disporum sessile</i> Don	ホウチャクソウ	○	○	○	○	○	○	
1114 <i>Disporum smilacinum</i> A. Gray	チゴユリ	○	○	○	○	○	○	
1115 <i>Erythronium japonicum</i> Decne.	カタクリ	○	○	○	○			
1116 <i>Gagea lutea</i> (Linn.) Ker-Gawl.	キバナノアマナ				○			
1117 <i>Hemerocallis fulva</i> Linn. var. <i>kwanso</i> Regel	ヤブカンゾウ		○	○	○	○	○	
1118 <i>Hemerocallis fulva</i> Linn. var. <i>longituba</i> (Miq.) Maxim.	ノカンゾウ			○	○	○	○	
1119 <i>Hosta albo-marginata</i> (Hooker) Ohwi	コバギボウシ	○	○	○	○	○	○	
1120 <i>Hosta longipes</i> (Franch. et Savat.) Matsum.	イワギボウシ			○	○	○	○	
1121 <i>Hosta sieboldiana</i> (Lodd.) Engler	トウギボウシ		○	○	○	○	○	
1122 <i>Lilium auratum</i> Lindl.	ヤマユリ	○	○	○	○			
1123 <i>Lilium formosanum</i> Wall.	タカサゴユリ							逸出
1124 <i>Lilium lancifolium</i> Thunb.	オニユリ					○		
1125 <i>Lilium leichtlinii</i> Hooker fil. var. <i>maximowiczii</i> (Regel) Baker	コオニユリ			△	○			
1126 <i>Lilium maculatum</i> Thunb.	スカシユリ					○		
1127 <i>Liriope minor</i> (Maxim.) Makino	ヒメヤブラン	○	○	○	○	○	○	
1128 <i>Liriope platyphylla</i> Wang et Tang	ヤブラン	○	○	○	○	○		
1129 <i>Liriope spicata</i> Lour.	コヤブラン			○				
1130 <i>Metanartheceum luteo-viride</i> Maxim.	ノギラン	○						
1131 <i>Ophiopogon jaburan</i> (Kunth) Lodd.	ノシラン					○		
1132 <i>Ophiopogon japonicus</i> (Linn. fil.) Ker-Gawl.	ジャノヒゲ	○	○	○	○	○	○	
1133 <i>Ophiopogon japonicus</i> (Linn. fil.) Ker-Gawl. var. <i>umbrosus</i> Maxim.	ナガバジャノヒゲ				○	○	○	
1134 <i>Ophiopogon planiscapus</i> Nakai	オオバジャノヒゲ	○	○	○	○	○		
1135 <i>Paris tetraphylla</i> A. Gray	ツクバネソウ	○	○					
1136 <i>Polygonatum falcatum</i> A. Gray	ナルコユリ	○	○	○	○			
1137 <i>Polygonatum humile</i> Fischer	ヒメイズイ					○		
1138 <i>Polygonatum involucreatum</i> (Franch. et Savat.) Maxim.	ワニグチソウ		○					
1139 <i>Polygonatum lasianthum</i> Maxim.	ミヤマナルコユリ	○	○	○	○			
1140 <i>Polygonatum macranthum</i> (Maxim.) Koidz.	オオナルコユリ	○	○	○	○			
1141 <i>Polygonatum odoratum</i> (Mill.) Druce var. <i>pluriflorum</i> (Miq.) Ohwi	アマドコロ		○	○	○	○	○	
1142 <i>Reineckea carnea</i> (Andr.) Kunth	キチジョウソウ			○		○		
1143 <i>Rohdea japonica</i> (Thunb.) Roth	オモト					○		逸出
1144 <i>Scilla scilloides</i> (Lindl.) Druce	ツルボ		○	○	○	○		
1145 <i>Smilacina japonica</i> A. Gray	ユキザサ	○						
1146 <i>Smilax china</i> Linn.	サルトリイバラ	○	○	○	○	○	○	
1147 <i>Smilax nipponica</i> Miq.	タチシオデ	○	○	○	○	○		
1148 <i>Smilax riparia</i> A. DC. var. <i>ussuriensis</i> (Regel) Hara et T. Koyama	シオデ		○	○	○	○	○	
1149 <i>Smilax sieboldii</i> Miq.	ヤマカシュウ	○	○	○	○	○		
1150 <i>Tricyrtis affinis</i> Makino	ヤマジノホトトギス	○	○	○	○			

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
1151 <i>Tricyrtis hirta</i> (Thunb.) Hook.	ホトトギス					○		
1152 <i>Tricyrtis latifolia</i> Maxim.	タマガワホトトギス	△						
1153 <i>Trillium smallii</i> Maxim.	エンレイソウ	○	○		○			
1154 <i>Zephyranthes candida</i> (Lind.) Herb.	タマスダレ					○		逸出
リュウゼツラン科								
1155 <i>Yucca gloriosa</i> Linn.	アツバキミガヨラン					○		逸出
1156 <i>Yucca recurvifolia</i> Salisb.	キミガヨラン					○		逸出
ヒガンバナ科								
1157 <i>Lycoris radiata</i> Herb.	ヒガンバナ		○	○	○	○	○	
1158 <i>Lycoris sanguinea</i> Maxim.	キツネノカミソリ			○	○			
ヤマノイモ科								
1159 <i>Dioscorea gracillima</i> Miq.	タチドコロ	○	○	○	○			
1160 <i>Dioscorea japonica</i> Thunb.	ヤマノイモ	○	○	○	○	○	○	
1161 <i>Dioscorea septemloba</i> Thunb.	キクバドコロ	○	○	○	○			
1162 <i>Dioscorea tokoro</i> Makino	オニドコロ	○	○	○	○	○	○	
ミズアオイ科								
1163 <i>Monochoria korsakowii</i> Regel et Maack	ミズアオイ					○	○	
1164 <i>Monochoria vaginalis</i> (Burm.fil.) Kunth	コナギ	○	○	○	○	○	○	
アヤメ科								
1165 <i>Belamcanda chinensis</i> (Linn.) DC.	ヒオウギ				△			
1166 <i>Iris ensata</i> Thunb. var. <i>spontanea</i> (Makino) Nakai	ノハナショウブ			○	○	○		
1167 <i>Iris gracilipes</i> A. Gray	ヒメシャガ				△			
1168 <i>Iris japonica</i> Thunb.	シャガ	○	○	○	○	○		
1169 <i>Iris pseudoacorus</i> Linn.	キショウブ			○	○	○	○	
1170 <i>Sisyrinchium atlanticum</i> Bicknell	ニワゼキショウ	○	○	○	○	○	○	
1171 <i>Sisyrinchium graminoides</i> Bicknell	アイイロニワゼキショウ					○		
1172 <i>Tritonia crocosmaeflora</i> Lemoine	ヒメヒオウギズイセン		○			○	○	逸出
ヒナノシャクジョウ科								
1173 <i>Burmanna championii</i> Thwaites	ヒナノシャクジョウ			○				
イグサ科								
1174 <i>Juncus diastrophanthus</i> Buchen.	ヒロハノコウガイゼキショウ			○				
1175 <i>Juncus effusus</i> Linn. var. <i>decipiens</i> Buchen.	イグサ	○	○	○	○	○	○	
1176 <i>Juncus krameri</i> Franch. et Savat.	タチコウガイゼキショウ					○		
1177 <i>Juncus leschenaultii</i> Gay	コウガイゼキショウ	○		○	○	○		
1178 <i>Juncus papillosus</i> Franch. et Savat.	アオコウガイゼキショウ	△			○			
1179 <i>Juncus tenuis</i> Willden.	クサイ	○	○	○	○	○	○	
1180 <i>Juncus wallichianus</i> Laharpe	ハリコウガイゼキショウ	○				○		
1181 <i>Luzula capitata</i> (Miq.) Miq.	スズメノヤリ	○	○	○	○	○	○	
1182 <i>Luzula multiflora</i> Lejeune	ヤマスズメノヒエ	○			○			
1183 <i>Luzula pulmosa</i> E. Meyer var. <i>macrocarpa</i> (Buchen.) Ohwi	ヌカボシソウ	○	○					
ツユクサ科								
1184 <i>Commelina communis</i> Linn.	ツユクサ	○	○	○	○	○	○	
1185 <i>Murdannia keisak</i> (Hassk.) Hand.-Mazz.	イボクサ	○	○	○	○	○	○	
1186 <i>Pollia japonica</i> Thunb.	ヤブミョウガ	○	○	○	○	○		
1187 <i>Tradescantia ohiensis</i> Rafin.	ムラサキツユクサ					○		
ホシクサ科								
1188 <i>Eriocaulon cinereum</i> R. Br.	ホシクサ		○	○	○			
1189 <i>Eriocaulon desemflorum</i> Maxim. var. <i>nipponicum</i> Nakai	イトイヌノヒゲ	△			○			
1190 <i>Eriocaulon hondoense</i> Satake	ニッポンイヌノヒゲ		○		○			
1191 <i>Eriocaulon robustius</i> (Maxim.) Makino	ヒロハイヌノヒゲ		○		○			
イネ科								
1192 <i>Agropyron ciliare</i> (Trin.) Franch. var. <i>minus</i> (Miq.) Ohwi	アオカモジグサ			○	○	○	○	
1193 <i>Agropyron tsukushiense</i> (Honda) Ohwi var. <i>transiens</i> (Hack.) Ohwi	カモジグサ	○	○	○	○	○	○	
1194 <i>Agrostis alba</i> Linn.	コヌカグサ	○	○	○	○	○	○	
1195 <i>Agrostis clavata</i> Trin.	ヤマヌカボ	△						
1196 <i>Agrostis clavata</i> Trin. var. <i>nukabo</i> Ohwi	ヌカボ	△	○	○	○	○	○	
1197 <i>Agrostis nipponensis</i> Honda	ヒメコヌカグサ					○		
1198 <i>Alopecurus aequalis</i> Sobol.	スズメノテッポウ			○	○	○	○	
1199 <i>Alopecurus pratensis</i> Linn.	オオスズメノテッポウ	△						
1200 <i>Andropogon brevifolius</i> Sw.	ウシクサ	△	○	○				
1201 <i>Andropogon virginicus</i> Linn.	メリケンカルカヤ		○		○	○	○	
1202 <i>Anthoxanthum odoratum</i> Linn.	ハルガヤ		○					
1203 <i>Ariundinaria ramosa</i> Makino	アズマザサ		△	△	○			
1204 <i>Arthraxon hispidus</i> (Thunb.) Makino	コブナグサ	○	○	○	○	○	○	
1205 <i>Arundinella hirta</i> (Thunb.) C. Tanaka	トダシバ	○	○	○	○	○	○	
1206 <i>Asperella longe-aristata</i> (Hack.) Ohwi	アズマガヤ	○			○			
1207 <i>Avena fatua</i> Linn.	カラスムギ	○		○		○	○	
1208 <i>Brachelytrum japonicum</i> Hack.	コウヤザサ				△			
1209 <i>Brachypodium sylvaticum</i> (Huds.) Beauv.	ヤマカモジグサ	○	○	○		○		
1210 <i>Briza maxima</i> Linn.	コバンソウ	○	○			○		
1211 <i>Briza minor</i> Linn.	ヒメコバンソウ					○		
1212 <i>Bromus catharticus</i> Vahl	イヌムギ	○	○	○			○	
1213 <i>Bromus japonicus</i> Thunb.	スズメノチャヒキ					○		
1214 <i>Bromus pauciflorus</i> (Thunb.) Hack.	キツネガヤ	○	○	○	○	○		
1215 <i>Bromus rigidus</i> Roth	ヒゲナガスズメノチャヒキ					○		

植 物

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
1216 Calamagrostis arundinacea (Linn.) Roth. var. brachytricha (Steud.) Hack.	ノガリヤス	○	○	○	○	○		
1217 Calamagrostis epigeios (Linn.) Roth	ヤマアワ	○				○		
1218 Calamagrostis hakonensis Franch. et Savat.	ヒメノガリヤス	○	○	○				
1219 Sporobolus japonicus (Steud.) Maxim.	ヒゲシバ		○					
1220 Cleistogenes hackelii (Honda) Honda	チョウセンガリヤス		○	○		○		
1221 Coix lacryma-jobi Linn.	ジュズダマ		○					
1222 Cymbopogon tortilis (Presl) Hitchc. var. goeringii (Steud.) Hand.-Mazz.	オガルカヤ	△	○	○	○			
1223 Cynodon dactylon (Linn.) Pers.	ギョウギシバ		○			○	○	
1224 Dactylis glomerata Linn.	カモガヤ	○	○	○	○	○	○	
1225 Diarrhena japonica Franch. et Savat.	タツノヒゲ	△			△			
1226 Digitaria ciliaris (Retz.) Koeler	メヒシバ	△	○	○	○	○	○	
1227 Digitaria timorensis (Kunth) Balansa	コメヒシバ				○	○	○	
1228 Digitaria violascens Link	アキメヒシバ	○	○	○	○	○	○	
1229 Dimeria ornithopoda Trin.	カリマダガヤ	△	○	○	○			
1230 Echinochloa crus-galli (Linn.) Beauv. var. caudata (Roshev.) Kitag.	アブラスキ		○	○	○			
1231 Echinochloa crus-galli (Linn.) Beauv. var. caudata (Roshev.) Kitag.	イヌビエ		○	○	○		○	
1232 Echinochloa crus-galli (Linn.) Beauv. var. echinata (Willd.) Honda	ケイヌビエ					○	○	
1233 Eleusine indica (Linn.) Gaertner	オヒシバ		○	○	○		○	
1234 Elymus mollis Trin.	テンキグサ					○	○	
1235 Eragrostis cilianensis Link ex Vignolo Lutati	スズメガヤ					○	○	
1236 Eragrostis curvula (Schrad.) Nees	シナダレスズメガヤ	○	○	○	○	○	○	
1237 Eragrostis ferruginea (Thunb.) Beauv.	カゼクサ	△	○	○	○	○	○	
1238 Eragrostis multicaulis Steud.	ニワホコリ		○	○	○	○		
1239 Eragrostis pilosa (Linn.) Beauv.	オオニワホコリ		○					
1240 Eragrostis poaeoides Beauv.	コスズメガヤ						○	
1241 Eriochloa villosa (Thunb.) Kunth	ナルコビエ				○	○	○	
1242 Festuca arundinacea Schreb.	オニウシノケグサ	○	○	○	○	○	○	
1243 Festuca hetellophylla Lam.	ハガワリトボシガラ	○						
1244 Festuca myuros Linn.	ナギナタガヤ					○	○	
1245 Festuca ovina Linn.	ウシノケグサ				○	○		
1246 Festuca parvigluma Steud.	トボシガラ	○	○	○	○	○		
1247 Glyceria acutiflora Torr.	ムツオレグサ						○	
1248 Glyceria depauperata Ohwi var. depauperata	ヒメウキガヤ	△						
1249 Glyceria ischyronura Steud.	ドジョウツナギ	△			○			
1250 Hemarthria sibirica (Gandog.) Ohwi	ウシノシツペイ	○	○	○		○	○	
1251 Hierochloa odorata (Linn.) Beauv. var. pubescens Krylov	コウボウ	△			○	○	○	
1252 Holcus lanatus Linn.	シラゲガヤ				△	○	○	
1253 Hordeum murinum Linn.	ムギクサ					○	○	
1254 Imperata cylindrica (Linn.) Beauv.	チガヤ	○	○	○	○	○	○	
1255 Isachne globosa (Thunb.) O. Kuntze	チゴザサ	○	○	○	○	○	○	
1256 Isachne nipponensis Ohwi	ハイチゴザサ			○	○			
1257 Ischaemum antheroroides (Steud.) Miq.	ケカモノハシ					○		
1258 Ischaemum aristatum Linn. var. glaucum (Honda) T. Koyama	カモノハシ					○	○	
1259 Leersia japonica Makino	アシカキ					○	○	
1260 Leersia oryzoides (Linn.) Swartz	エゾノサヤヌカグサ				○			
1261 Leersia sayanuka Ohwi	サヤヌカグサ	○	○	○	○			
1262 Lolium multiflorum Lam.	ネズミムギ	○		○		○	○	
1263 Lolium perenne Linn.	ホソムギ			○		○		
1264 Lophatherum gracile Brongn.	ササクサ	○	○	○	○			
1265 Melica nutans Linn.	コメガヤ			△	○			
1266 Microstegium japonicum (Miq.) Koidz.	ササガヤ	△	○		○	○		
1267 Microstegium vimineum (Trin.) A. Camus var. polystachyum (Franch. et Savat.) Ohwi	アシボソ オギ	△	○	○	○	○	○	
1268 Miscanthus sacchariflorus (Maxim.) Benth.	オギ				○	○	○	
1269 Miscanthus sinensis Anderss.	ススキ	○	○	○	○	○	○	
1270 Moliniopsis japonica (Hack.) Hayata	ヌマガヤ			○	○			
1271 Muhlenbergia japonica Steud.	ネズミガヤ	△	○	○	○	○		
1272 Muhlenbergia ramosa (Hack.) Makino	キダチノネズミガヤ				○	○		
1273 Oplismenus undulatifolius (Ard.) Roem. et Schult.	チヂミザサ	△	○		○	○		
1274 Oplismenus undulatifolius (Ard.) Roem. et Schult. var. japonicus (Stend.) Koidz.	コチヂミザサ	○	○	○	○			
1275 Panicum bisulcatum Thunb.	ヌカキビ	△	○	○	○	○	○	
1276 Panicum dichotomiflorum Michx.	オオクサキビ				○		○	
1277 Paspalum dilatatum Poir.	シマスズメノヒエ					○	○	
1278 Paspalum distichum Linn.	キシウズズメノヒエ					○	○	
1279 Paspalum notatum Flugge	アメリカスズメノヒエ					○	○	
1280 Paspalum thunbergii Kunth	スズメノヒエ	○	○	○	○	○	○	
1281 Pennisetum alopecuroides (Linn.) Spreng.	チカラシバ	○	○	○	○	○	○	
1282 Phacelurus latifolius (Steud.) Ohwi	アイアシ					○	○	
1283 Phalaris arundinacea Linn.	クサヨシ		○	○	○	○	○	
1284 Phleum paniculatum Huds.	アワガエリ	○						
1285 Phleum pratense Linn.	オオアワガエリ	○				○	○	
1286 Phragmites communis Trin.	ヨシ	△	○	○	○	○	○	

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
1287 Phragmites japonica Steud.	ツルヨシ		○		○	○		
1288 Phyllostachys bambusoides Sieb. et Zucc.	マダケ			○	○	○	○	
1289 Phyllostachys heterocycla (Carr.) Mitf.	モウソウチク			○		○		
1290 Pleioblastus chino (Franch. et Savat.) Makino	アズマネザサ	△	○	○	○	○	○	
1291 Pleioblastus simonii (Carr.) Nakai	メダケ		○			○		
1292 Poa acroleuca Steud.	ミゾイチゴツナギ	○	○	○	○	○	○	
1293 Poa acroleuca Steud. var. submoniliformis Makino	タマミゾイチゴツナギ	△	○	○	○			
1294 Poa annua Linn.	スズメノカタビラ		○	○	○	○	○	
1295 Poa compressa Linn.	コイチゴツナギ					○	○	
1296 Poa hisauchii Honda	ヤマミゾイチゴツナギ				○			
1297 Poa nipponica Koidz.	オオイチゴツナギ	○			○			
1298 Poa pratensis Linn.	ナガハグサ		○		○	○	○	
1299 Poa sphondylodes Trin.	イチゴツナギ	△	○			○	○	
1300 Poa trivialis Linn.	オオスズメノカタビラ				○			
1301 Poa tuberifera Faurie. ex Hack.	ムカゴツツリ				○			
1302 Polypogon fugax Steud.	ヒエガエリ					○	○	
1303 Pseudosasa japonica (Sieb. et Zucc. ex Steud.) Makino	ヤダケ	△	○	○	○	○		
1304 Saccharum spontaneum Linn. var. arenicola (Ohwi) Ohwi	ワセオバナ					○		
1305 Sacciolepis indica (Linn.) Chase	ハイヌメリグサ	△	○	△	○		○	
1306 Sacciolepis indica (Linn.) Chase var. oryzetorum (Makino) Ohwi	ヌメリグサ	△	○	○	○			
1307 Sasa nipponica (Makino) Makino et Shibata	ミヤコザサ	○	○	○	○			
1308 Sasa nipponica (Makino) Makino et Shibata form. nandaiensis (Koidz.) S. Suzuki	ナンダイミヤコザサ		△					
1309 Sasa veitchii (Carr.) Rehd.	クマザサ		△	○		○		
1310 Sasaella ramosa (Makino) Makino form. pubescens (Makino) S. Suzuki	スエコザサ		△					
1311 Sasamorpha borealis (Hack.) Nakai	スズタケ	○	○		○			
1312 Setaria chondrache (Steud) Honda	イヌアワ				△			
1313 Setaria faberi Herrm.	アキノエノコログサ	○	○	○	○	○	○	
1314 Setaria glauca (Linn.) Beauv.	キンエノコロ	○	○	○	○	○	○	
1315 Setaria pallide-fusca (Schumach.) Stapf et C. E. Hubb.	コツブキンエノコロ		○	○	○	○	○	
1316 Setaria viridis (Linn.) Beauv.	エノコログサ		○	○	○	○	○	
1317 Setaria viridis (Linn.) Beauv. subsp. minor T. Koyama form. misera Honda	ムラサキエノコロ	○			○			
1318 Setaria viridis (Linn.) Beauv. var. pachystachys (Franch. et Savat.) Makino et Nemoto	ハマエノコロ					○		
1319 Setaria x pycnocomma (Steud.) Henrard ex Nakai	オオエノコロ				○	○		
1320 Shibataea kumasaca Zoll.	オカメザサ		○	○	○			
1321 Sorghum halepense (Linn.) Pers. var. propinquum (Hitcch.) Ohwi	セイバンモロコシ		○					
1322 Sorghum halepense (Linn.) Pers. form. muticum Hubb.	ヒメモロコシ	○	○					
1323 Spodiopogon sibiricus Trin.	オオアブラサスキ	○	○	○	○			
1324 Sporobolus fertilis (Steud.) W. Clayton	ネズミノオ	△	○	○	○	○	○	
1325 Stipa coreana Honda var. kengii Ohwi	ヒロハノハネガヤ				○			
1326 Stipa pekinensis Hance	ハネガヤ	△	○		○			
1327 Themeda triandra Forsk. var. japonica (Willd.) Makino	メガルカヤ		○	○	○	○		
1328 Trisetum bifidum (Thunb.) Ohwi	カニツリグサ	○	○	○	○	○	○	
1329 Zizania latifolia Turcz.	マコモ	○	○	○	○	○	○	
1330 Zoysia japonica Steud.	シバ		○		○	○	○	
1331 Zoysia macrostachya Franch. et Savat.	オニシバ					○		
ヤシ科								
1332 Trachycarpus fortunei (Hook.) H. Wendl.	シュロ		○		○	○		
サトイモ科								
1333 Acorus calamus Linn.	ショウブ				○	○	○	
1334 Acorus gramineus Soland	セキショウ		○	○	○	○	○	
1335 Arisaema serratum (Thunb.) Schott	マムシグサ	○	○	○	○	○	○	
1336 Arisaema thunbergii Blume subsp. urashima (Hara) Ohashi	ウラシマソウ	○	○	○	○	○		
1337 Arisaema undulatifolium Nakai								
var. ionostemma (Nakai et F. Maek.) Ohashi et J. Murata	ミミガタテンナンショウ	○	○					
1338 Pinellia ternata (Thunb.) Breit.	カラスビシャク	○	○	○	○	○	○	
ウキクサ科								
1339 Lemna perpusilla Torrey	アオウキクサ			○	○	○	○	
1340 Spirodela polyrrhiza (Linn.) Schleid.	ウキクサ			○	○	○	○	
ミクリ科								
1341 Sparganium erectum Linn.	ミクリ			○		○		
1342 Sparganium fallax Graebn.	ヤマトミクリ	○						
ガマ科								
1343 Typha angustifolia Linn.	ヒメガマ		○	○		○	○	
1344 Typha latifolia Linn.	ガマ		○	○	○	○	○	
1345 Typha orientaris Presl	コガマ	○	○	○	○	○	○	
カヤツリグサ科								
1346 Bulbostylis barbata (Rottb.) Kunth	ハタガヤ					○		
1347 Bulbostylis densa (Wall.) Hand.-Mazz.	イトハナビテンツキ	△						
1348 Carex pseudo-strigosa Lev. et Vant.	シロイトスゲ	○		○				
1349 Carex aphanandra Franch. et Savat.	メアオスゲ				○			
1350 Carex aphanolepis Franch. et Savat.	エナシヒゴクサ	○			○	○		

植 物

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
1351 <i>Carex arenicola</i> Fr. Schm.	クロカワズスゲ					○		
1352 <i>Carex biwensis</i> Franch.	マツバスゲ	△		△	○			
1353 <i>Carex breviculmis</i> R. Br.	アオスゲ	○	○	○	○	○	○	
1354 <i>Carex breviculmis</i> R. Br. var. <i>discoidea</i> (Boott) Boott	イトアオスゲ	△	△	△	△			
1355 <i>Carex conica</i> Boott	ヒメカンスゲ	○	○	○	○	○		
1356 <i>Carex curvicolis</i> Franch. et Savat.	ナルコスゲ				○			
1357 <i>Carex dickinsii</i> Franch. et Savat.	オニスゲ	○	△	○	○	○		
1358 <i>Carex dimorpholepis</i> Steud.	アゼナルコ	△	○					
1359 <i>Carex dispalata</i> Boott	カサスゲ						○	
1360 <i>Carex dolichostachya</i> Hayata var. <i>glaberrima</i> (Ohwi) T. Koyama	ミヤマカンスゲ	○	○	○	○	○		
1361 <i>Carex doniana</i> Spreng.	シラスゲ	○	○	○				
1362 <i>Carex fedia</i> Nees var. <i>miyabei</i> (Franch.) T. Koyama	ビロードスゲ				△			
1363 <i>Carex fibrillosa</i> Franch. et Savat.	ハマアオスゲ					○		
1364 <i>Carex filipes</i> Franch. et Savat.	タマツリスゲ		○		○			
1365 <i>Carex forficula</i> Franch. et Savat.	タニガワスゲ			△	○			
1366 <i>Carex gibba</i> Wahlenb.	マスクサ		○		○	○		
1367 <i>Carex glabrescens</i> Ohwi	スナジスゲ				△			
1368 <i>Carex grallatoria</i> Maxim. var. <i>heteroclita</i> (Franch.) Kuekenth.	サナギスゲ		△	△	○			
1369 <i>Carex heterolepis</i> Bunge	ヤマアゼスゲ		△					
1370 <i>Carex humilis</i> Leyss. var. <i>nana</i> (Lev. et Vant.) Ohwi	ホソバヒカグスゲ	○	○	○	○			
1371 <i>Carex incisa</i> Boott	カワラスゲ	○	○	○	○	○		
1372 <i>Carex ischnostachya</i> Steud.	ジュズスゲ	○	○	○	○	○		
1373 <i>Carex jacens</i> C. B. Clarke var. <i>pubescens</i> Akiyama	ケハガクレスゲ				△			
1374 <i>Carex japonica</i> Thunb.	ヒゴクサ	○	○	○	○	○	○	
1375 <i>Carex kiotensis</i> Franch. et Savat.	テキリスゲ	○						
1376 <i>Carex kobomugi</i> Ohwi	コウボウムギ					○		
1377 <i>Carex lanceolata</i> Boott	ヒカグスゲ	○	○	○	○	○		
1378 <i>Carex lenta</i> D. Don	ナキリスゲ	○	○	○	○	○		
1379 <i>Carex longerostrata</i> C. A. Mey. var. <i>pallida</i> (Kitag.) Ohwi	チュウゼンジスゲ			○				
1380 <i>Carex maximowiczii</i> Miq.	ゴウソ	○	○	○	○	○		
1381 <i>Carex maximowiczii</i> Miq. var. <i>levisaccus</i> Ohwi	ホシナシゴウソ			△				
1382 <i>Carex mitrata</i> Franch.	ヌカスゲ	△	○					
1383 <i>Carex mitrata</i> Franch. var. <i>aristata</i> Ohwi	ノゲヌカスゲ				△			
1384 <i>Carex mollicula</i> Boott	ヒメシラスゲ	○			○			
1385 <i>Carex morrowii</i> Boott	カンスゲ	○	○	○	○			
1386 <i>Carex nervata</i> Franch. et Savat.	シバスゲ	△	○	○	○			
1387 <i>Carex olivacea</i> Boott var. <i>angustior</i> Kuekenth.	ミヤマシラスゲ	○	○	○	○	○		
1388 <i>Carex omiana</i> Franch. et Savat.	ヤチカワズスゲ	△	△	△	△			
1389 <i>Carex otaruensis</i> Franch.	オタルスゲ	○	△	△	○			
1390 <i>Carex parciflora</i> Boott var. <i>macroGLOSSA</i> (Franch. et Savat.) Ohwi	コジュズスゲ	○	○	○	○			
1391 <i>Carex phacota</i> Spreng.	ヒメゴウソ				○			
1392 <i>Carex pififormis</i> Boott	ホンモンジスゲ	○						
1393 <i>Carex planata</i> Franch. et Savat.	タカネマスクサ	○	○	△	○			
1394 <i>Carex pumila</i> Thunb.	コウボウシバ					○	○	
1395 <i>Carex reinii</i> Franch. et Savat.	コカンスゲ	○	○	○	○			
1396 <i>Carex rhizopoda</i> Maxim.	シラコスゲ	○	○	○	○			
1397 <i>Carex rugata</i> Ohwi	クサスゲ	○	△	△	○			
1398 <i>Carex sachalinensis</i> Fr. Schm. var. <i>longiuscula</i> Ohwi	コイトスゲ	△		△				
1399 <i>Carex scabrifolia</i> Steud.	シオクグ						○	
1400 <i>Carex shimiduzensis</i> Franch.	アズマナルコ		△					
1401 <i>Carex siderosticta</i> Hance	タガネソウ	○	○	○	○	○		
1402 <i>Carex thunbergii</i> Steud.	アゼスゲ	△	△	○	○	○	○	
1403 <i>Carex transversa</i> Boott	ヤワラスゲ	○			△			
1404 <i>Carex tristachya</i> Thunb.	モエギスゲ	○	○		○			
1405 <i>Carex tristachya</i> Thunb. var. <i>pocilliformis</i> (Boott) Kuekenth.	コツブモエギスゲ			△				
1406 <i>Cyperus amuricus</i> Maxim.	チャガヤツリ		○	○	△		○	
1407 <i>Cyperus brevifolius</i> (Rottb.) Hassk var. <i>leirolepis</i> (Franch. et Savat.) T. Koyama	ヒメクグ	○	○	○	○	○	○	
1408 <i>Cyperus difformis</i> Linn.	タマガヤツリ	○	○	○	○	○	○	
1409 <i>Cyperus flaccidus</i> R. Br.	ヒナガヤツリ					○	○	
1410 <i>Cyperus flavidus</i> Retz.	アゼガヤツリ	○	○	○	○	○	○	
1411 <i>Cyperus haspan</i> Linn.	コアゼガヤツリ	△		○	○	○	○	
1412 <i>Cyperus iria</i> Linn.	コゴメガヤツリ	△	○	○	○	○	○	
1413 <i>Cyperus microiria</i> Steud.	カヤツリグサ	○	○	○	○	○	○	
1414 <i>Cyperus nipponicus</i> Franch. et Savat.	アオガヤツリ			△				
1415 <i>Cyperus odoratus</i> Linn.	キンガヤツリ					○		
1416 <i>Cyperus orthostachyus</i> Franch. et Savat.	ウシクグ	△	○	○	○			
1417 <i>Cyperus polystachyos</i> Rottb.	イガガヤツリ					○	○	
1418 <i>Cyperus rotundus</i> Linn.	ハマスゲ		○			○	○	
1419 <i>Cyperus sanguinolentus</i> Vahl	カワラスガナ	○	○	○	○	○	○	
1420 <i>Cyperus serotinus</i> Rottb.	ミズガヤツリ					○	○	
1421 <i>Cyperus tenuispica</i> Steud.	ヒメガヤツリ	○					○	
1422 <i>Eleocharis acicularis</i> (Linn.) Roem. et Schult. var. <i>longiseta</i> Svenson	マツバイ		○		○		○	
1423 <i>Eleocharis congesta</i> D. Don	ハリイ	○	○	○	○			
1424 <i>Eleocharis kuroguwai</i> Ohwi	クログワイ	○			○		○	

学名	和名	1	2	3	4	5	6	備考
1425 Eleocharis wichuræ Bocklr. form. petasata Hara	ミツカドシカクイ				○			
1426 Eleocharis wichuræ Boecklr.	シカクイ	○	△	△	○			
1427 Fimbristylis autumnalis (Linn.) Roem. et Schult.	ヒメヒラテンツキ	△	○	△	○			
1428 Fimbristylis complanata (Retz.) Link	ノテンツキ	△		△				
1429 Fimbristylis dichotoma (Linn.) Vahl	テンツキ			○	○		○	
1430 Fimbristylis diphyloides Makino	クロテンツキ	△		△				
1431 Fimbristylis miliacea (Linn.) Vahl	ヒデリコ	○	○	○	○	○	○	
1432 Fimbristylis sericea (Poir.) R. Br.	ピロードテンツキ					○	○	
1433 Fimbristylis squarrosa Vahl var. esquarrosa Makino	メアゼテンツキ	○				○	○	
1434 Fimbristylis subbispicata Nees et Mey.	ヤマイ	○	○	○	○	○	○	
1435 Lipocarpa microcephala (R. Br.) Kunth	ヒンジガヤツリ		○	○	○	○	○	
1436 Rhynchospora fujiiiana Makino	コイヌノハナヒゲ	△		△	○			
1437 Scirpus fluviatilis (Torr.) A. Gray	ウキヤガラ		○			○	○	
1438 Scirpus fuirenoides Maxim.	コマツカサススキ	△	△	○	○			
1439 Scirpus juncooides (Roxb.) Palla subsp. hotarui (Ohwi) Sojak	ホタルイ	○	○	○	○		○	
1440 Scirpus mitsukurianus Makino	マツカサススキ				○			
1441 Scirpus planiculmis Fr. Schm.	エゾウキヤガラ					○	○	
1442 Scirpus tabernaemontani Gmel.	フトイ					○	○	
1443 Scirpus triangulatus Roxb.	カンガレイ			○	○	○	○	
1444 Scirpus triqueter Linn.	サンカクイ		△			○	○	
1445 Scirpus wichuræ Boecklr.	アブラガヤ	○	○	○	○	○		
1446 Scleria parvula Steud.	コシンジュガヤ	△						
シヨウガ科								
1447 Zingiber mioga (Thunb.) Roscoe	ミヨウガ	△	○	○	○	○		逸出
ラン科								
1448 Amitostigma gracile (Blume) Schltr.	ヒナラン				△			
1449 Bulbophyllum drymoglossum Maxim.	マメツタラン				○			
1450 Bulbophyllum inconspicuum Maxim.	ムギラン				△			
1451 Calanthe discolor Lindl.	エビネ	△				○		
1452 Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume	ギンラン	○	○	○	△	○		
1453 Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume var. subaphylla Ohwi	ユウシュンラン			△				
1454 Cephalanthera falcata (Thunb.) Blume	キンラン	○		○	○	○		
1455 Cephalanthera longibracteata Blume	ササバギンラン	○	○	○	○	○		
1456 Cremastra appendiculata (D. Don) Makino	サイハイラン	○	△	○	○	○		
1457 Cymbidium goeringii (Reichb. fil.) Reichb. fil.	シュンラン	○	○	○	○	○		
1458 Cymbidium nipponicum (Franch. et Savat.) Makino	マヤラン					○		
1459 Cypripedium debile Reichb. fil.	コアツモリソウ	△						
1460 Cypripedium japonicum Thunb.	クマガイソウ	△	△		△			
1461 Cypripedium japonicum Thunb. var. glabrum M. Suzuki	ヒタチクマガイソウ	△	△		△			
1462 Dendrobium moniliforme (Linn.) Sw.	セッコク			△	△			
1463 Epipactis papillosa Franch. et Savat. var. sayekiana T. Koyama et Asai	ハマカキラン					○		
1464 Epipactis thunbergii A. Gray	カキラン	△		○	○	○		
1465 Galeola septentrionalis Reichb. fil.	ツチアケビ					○		
1466 Saccolabium matsuran Makino	マツラン			△				
1467 Gastrodia elata Blume	オニノヤガラ	△	△					
1468 Goodyera schlechterdaliana Reichb. fil.	ミヤマウズラ	○	○	○	○	○		
1469 Herminium lanceum (Thunb.) Vuijk var. longicrura (Wright) Hara	ムカゴソウ			△				
1470 Lecanorchis japonica Blume	ムヨウラン			○				
1471 Lecanorchis kiusiana Tuyama	ウスギムヨウラン			○				
1472 Liparis krameri Franch. et Savat.	ジガバチソウ	○	○	○	○			
1473 Liparis kumokiri F. Maek.	クモキリソウ	○	○	○	○	○		
1474 Liparis nervosa (Thunb.) Lindl.	コクラン		○	○		○		
1475 Listera makinoana Ohwi	アオフトバラン	△						
1476 Oberonia japonica (Maxim.) Makino	ヨウラクラン			○				
1477 Oreorchis patens (Lindl.) Lindl.	コケイラン				△			
1478 Platanthera florenti Franch. et Savat.	ジンバイソウ		△					
1479 Platanthera minor (Miq.) Reichb. fil.	ノヤマトンボ	○	○	○	○			
1480 Sarcophilus japonicus (Reichb. fil.) Miq.	カヤラン			○	○	○		
1481 Spiranthes sinensis (Pers.) Ames var. amoena (M. Bieberson) Hara	ネジバナ	○	○	○	○	○	○	
1482 Taeniophyllum glandulosum Blume	クモラン			○				
1483 Tipularia japonica Matsum.	ヒトツボクロ	○	○	○	○			
1484 Tulotis ussuriensis (Regel) Hara	トンボソウ	○	○		○			
1485 Vexillabium nakaianum F. Maek.	ハクウンラン		○					